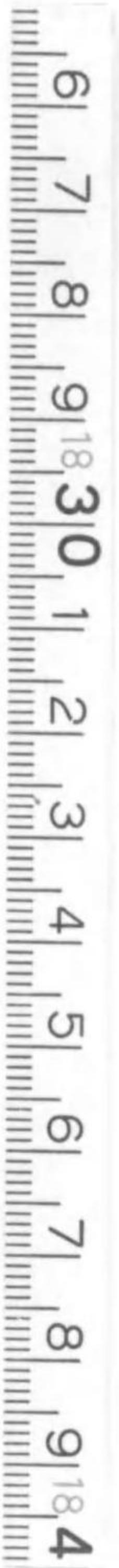


308  
344

巴里萬國裝飾美術工藝博覽會  
政府參同事務報告



始





特222  
726



巴里萬國裝飾美術工藝博覽會  
政府  
參同事務報告

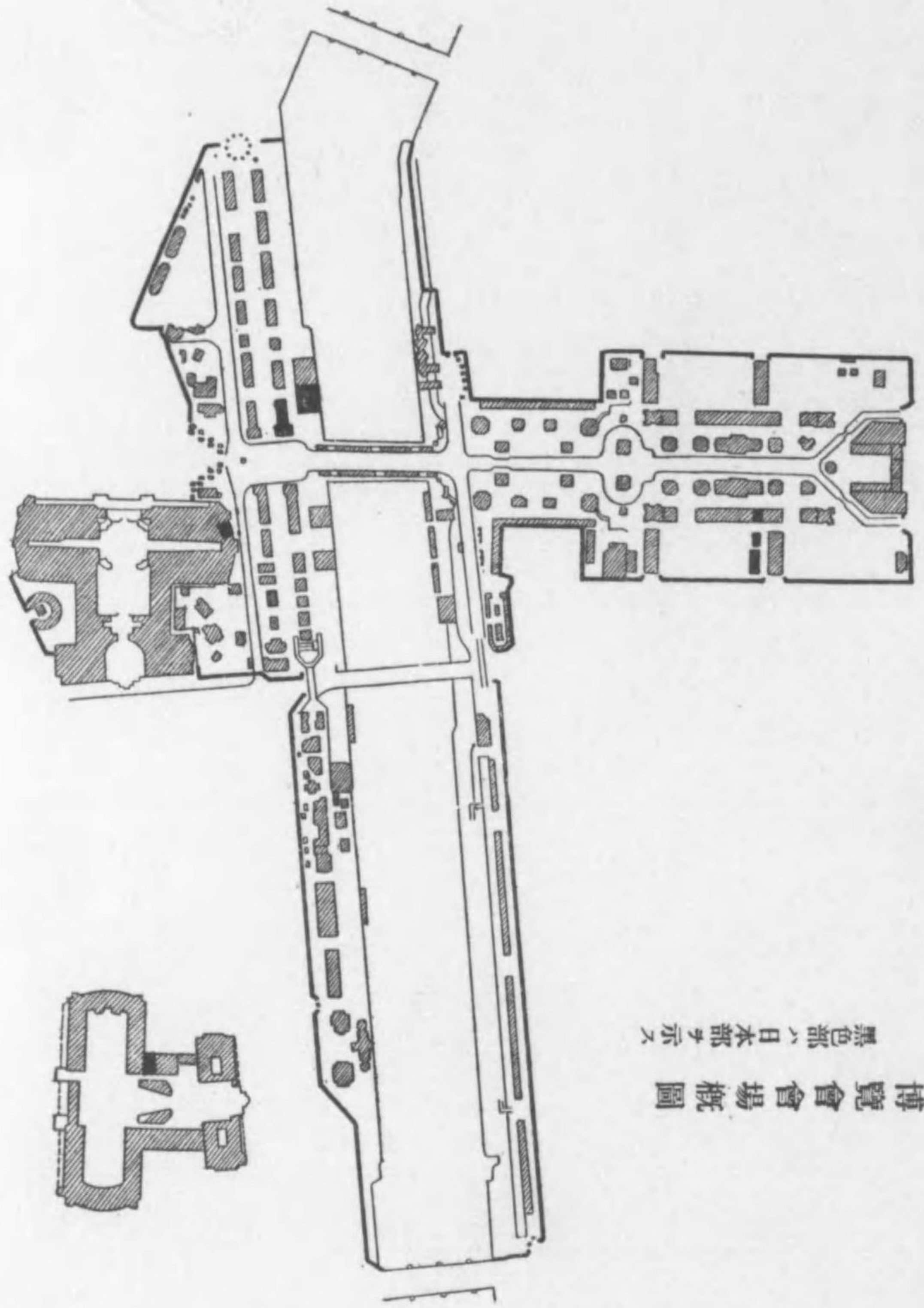




## 凡 例

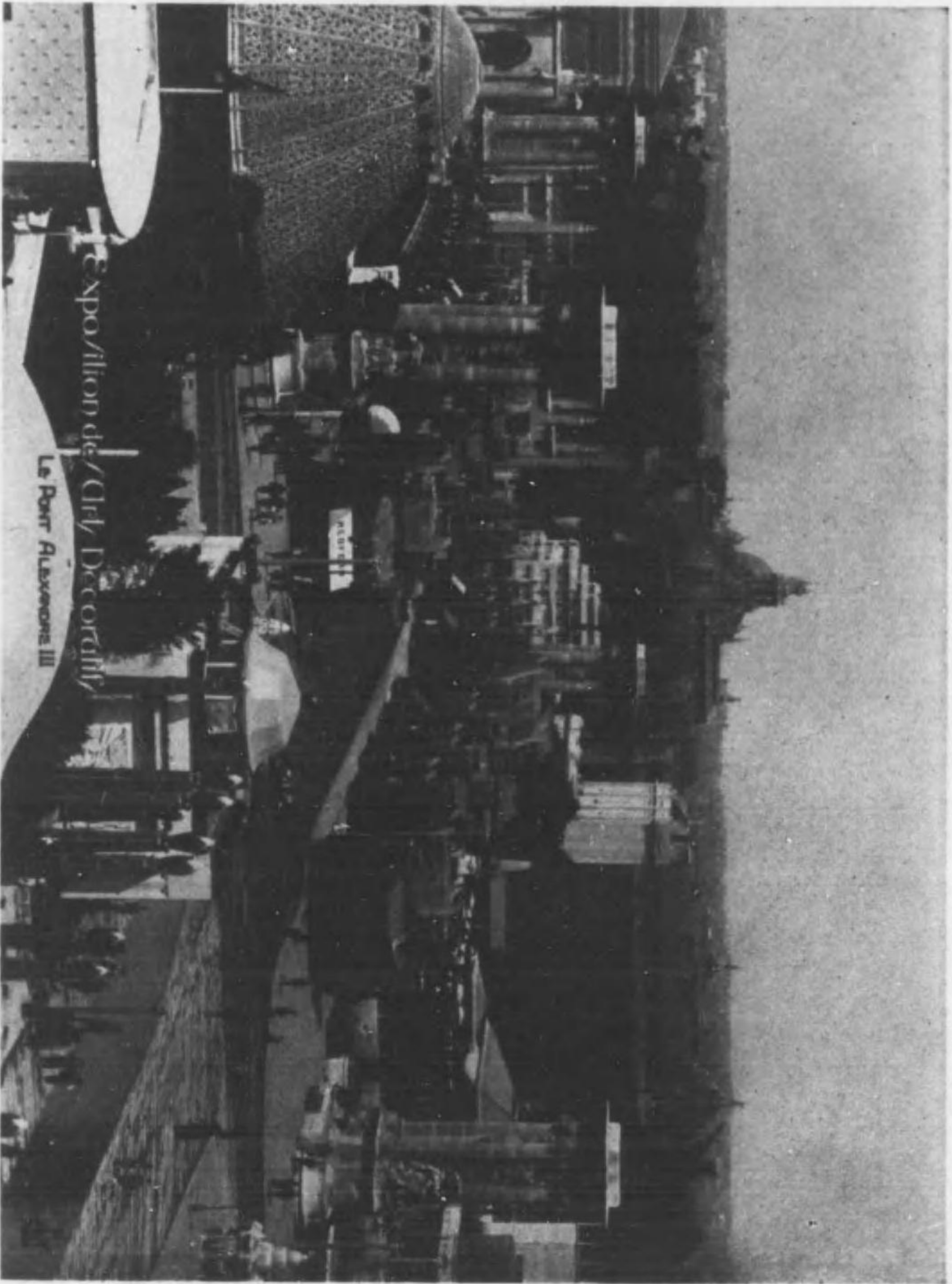
本報告ハ當博覽會ニ於ケル政府參同事務ノミニ付記載シタルモノニシテ同博覽會ニ關スル記載トシテハ後段ノ審査報告及佛文出品物説明目錄書出品物寫眞帖アリ又日本産業協會編纂ニ拘ル當博覽會事務報告及日本術美ノ宣傳ニ用ヒタル日本ト稱スル冊子アルニ付參照アラントコトヲ望ム





博覽會會場概圖  
黒色部ハ日本部ヲ示ス

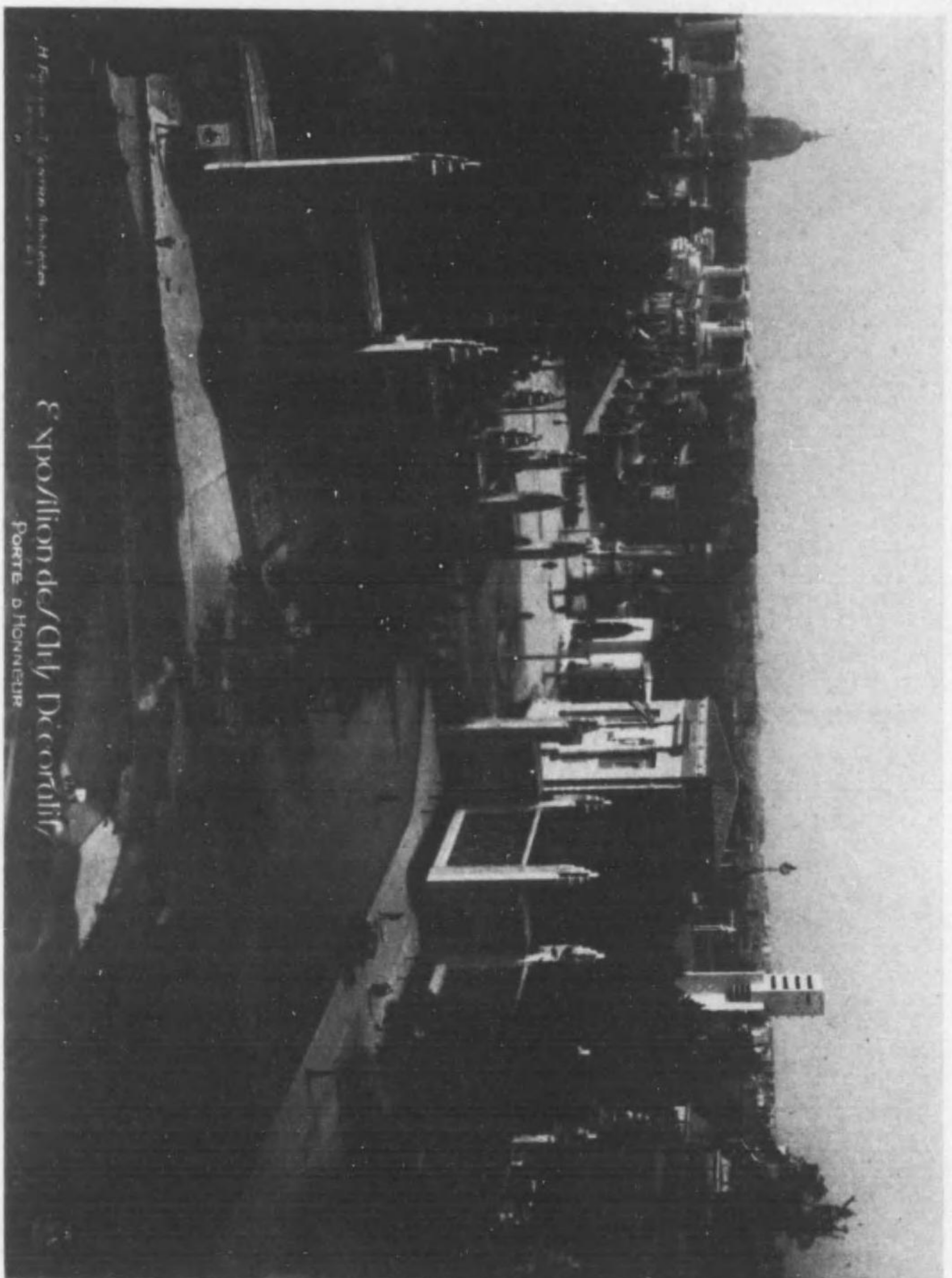




近附上橋ーダンサキレア部ーノ場會覽博

博覧會場





H. F. ...  
G. ...  
1911

Exposition de l'Club Decortif  
Porte d'Honneur

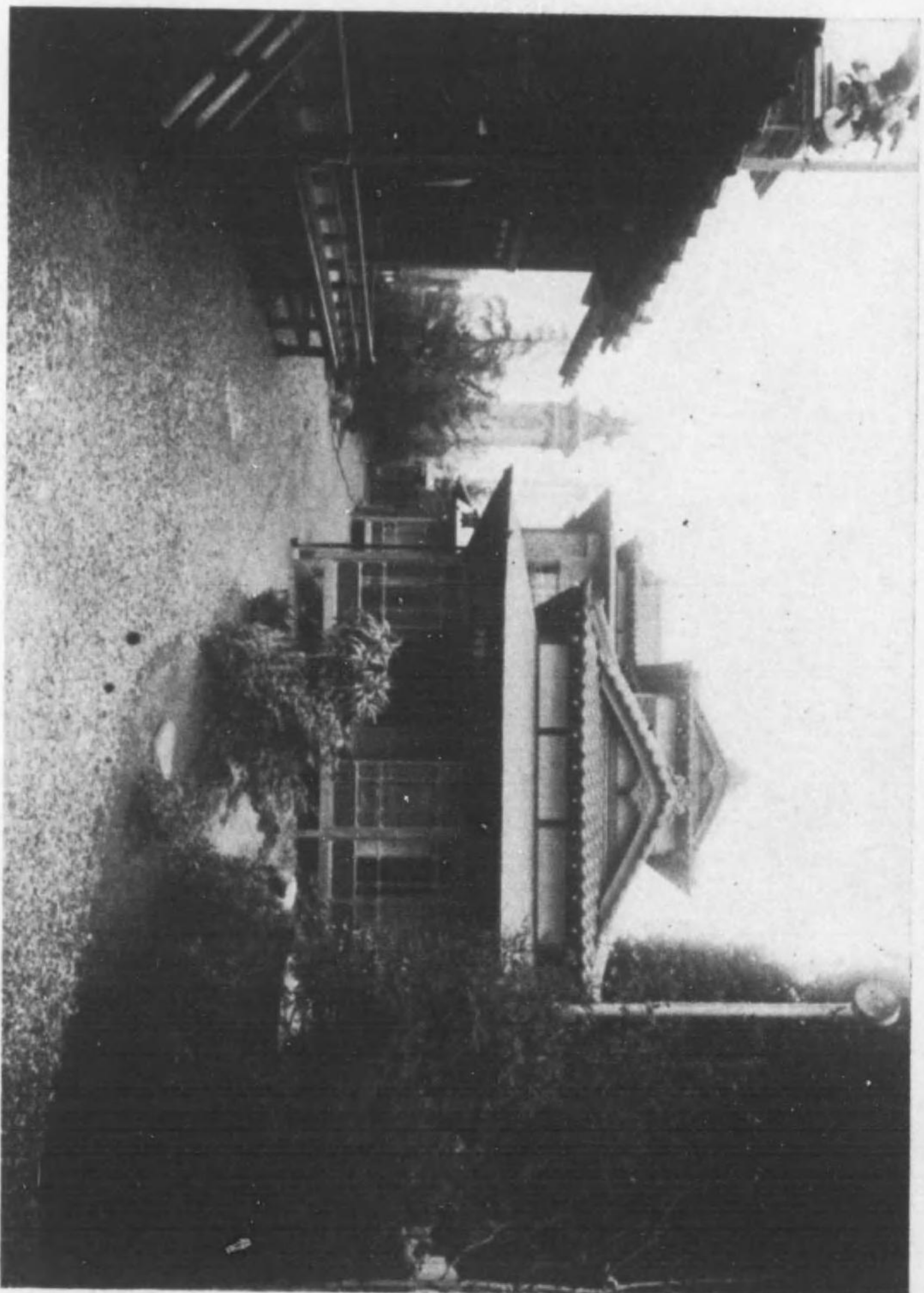
博覽會正門ヨリ望ム光景





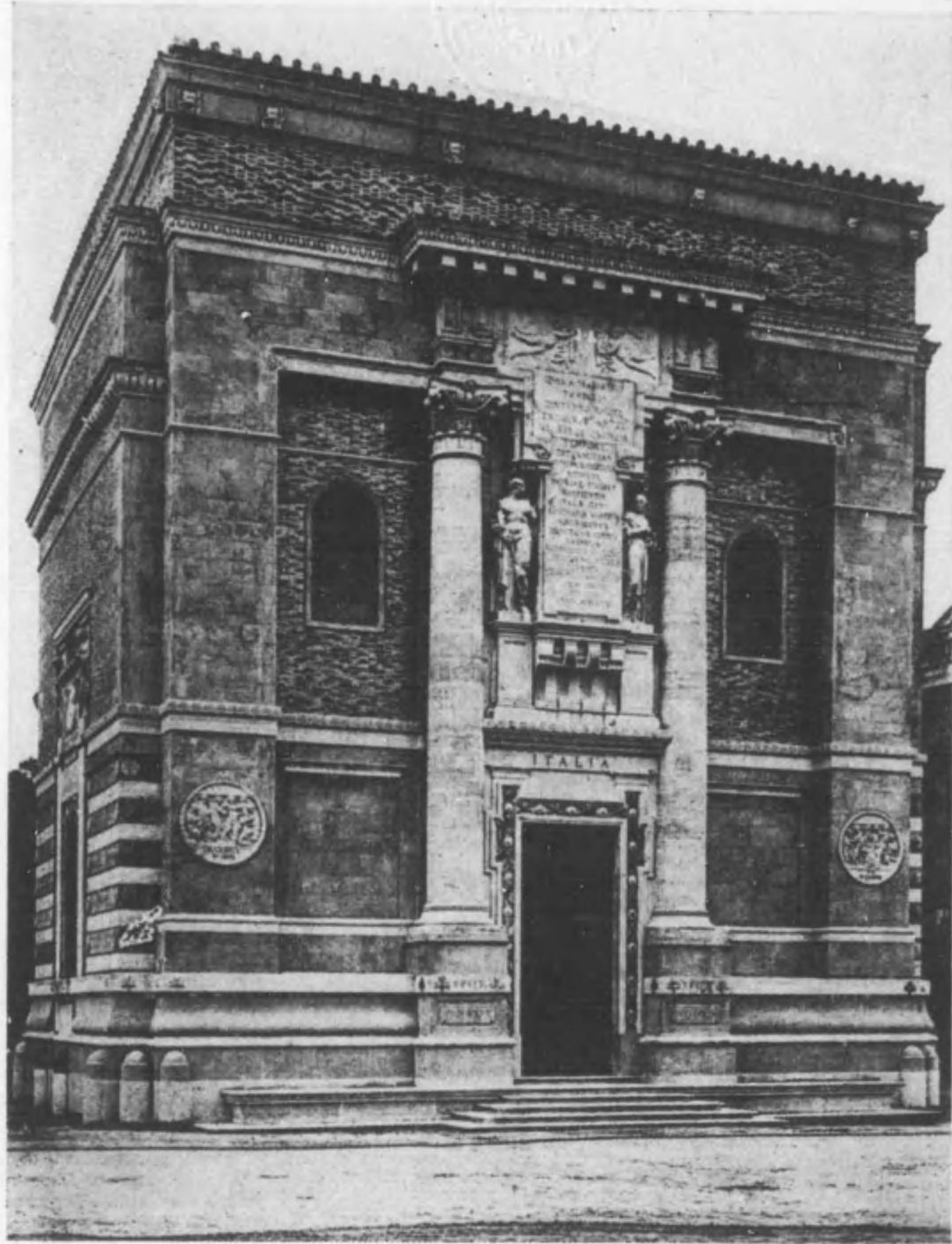
出ノ他其シ算ヲ餘有十四館設特ノ他其國列ハテ於ニ會覽博本) 館設特蘭和  
ノモルセ案圖計設ヲ之テシト藝工術美飾裝代現モレ何カシリナ富豐亦モ品  
(ス示ヲ例一其ハ分ノ國外下以圖本リナ





日 本 特 設 館 ( 中 庭 ) ヲ 望 ム

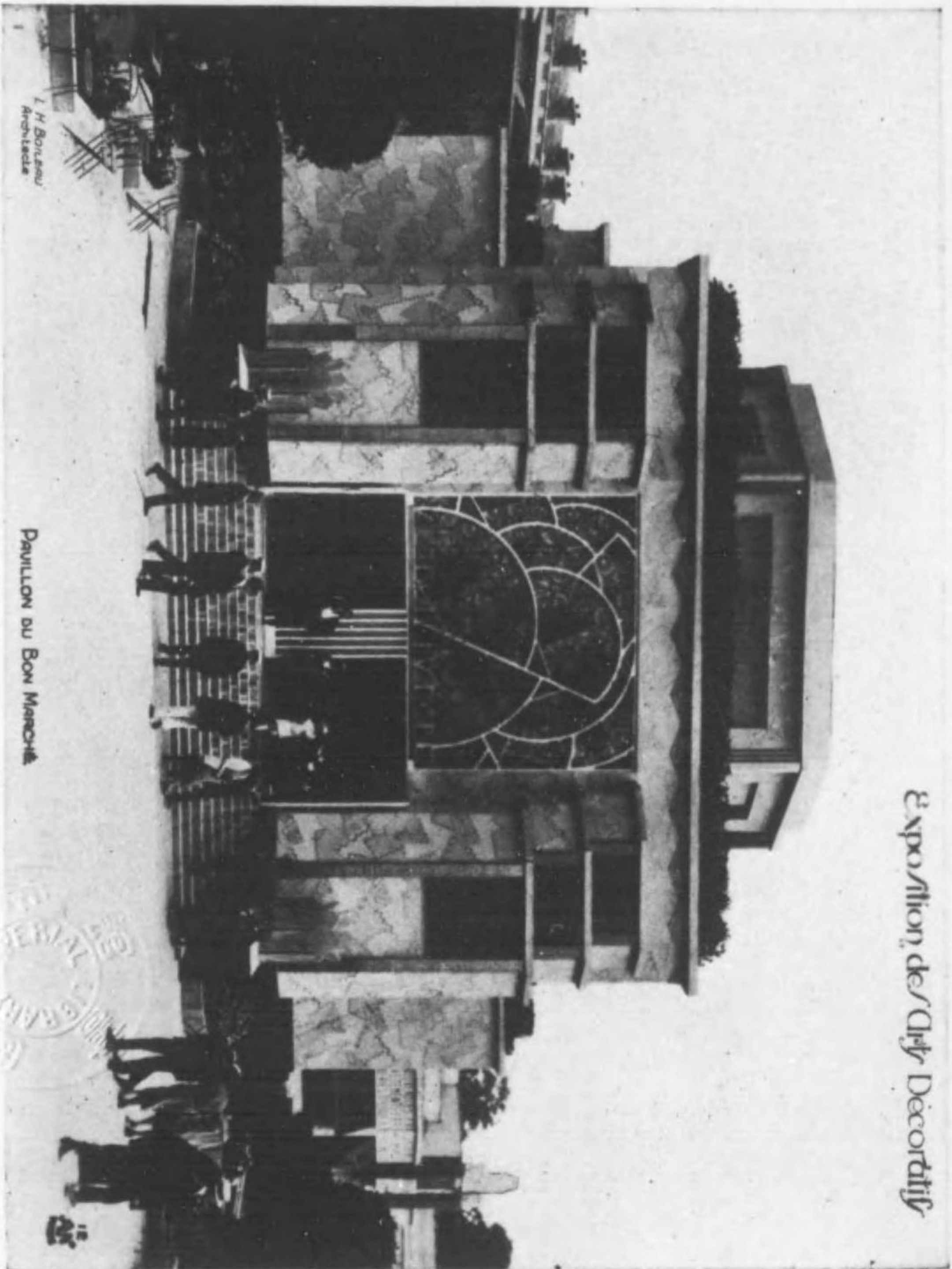




以 太 利 特 設 館



Exposition des Arts Décoratifs



L. N. Bourgeois  
Architecte

Pavillon du Bon Marché

館設特セルラソンボ 西蘭佛







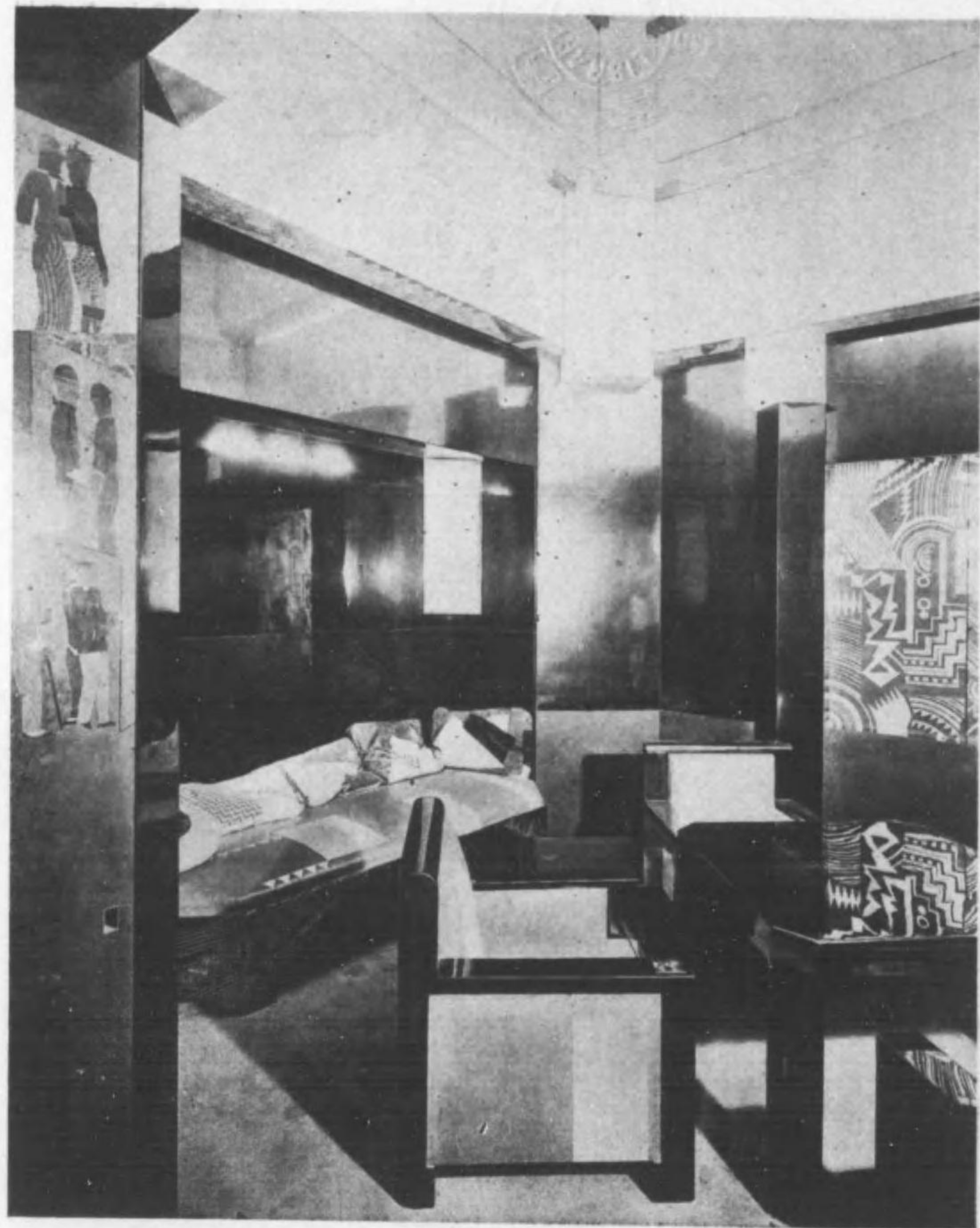
日本特設館內應接室





口本特設館內主人室





（リナ塗漆部全具器及内室チシニ室煙喫）例一ノ飾装内室部國弗





佛國部室內裝飾之一例(食堂)





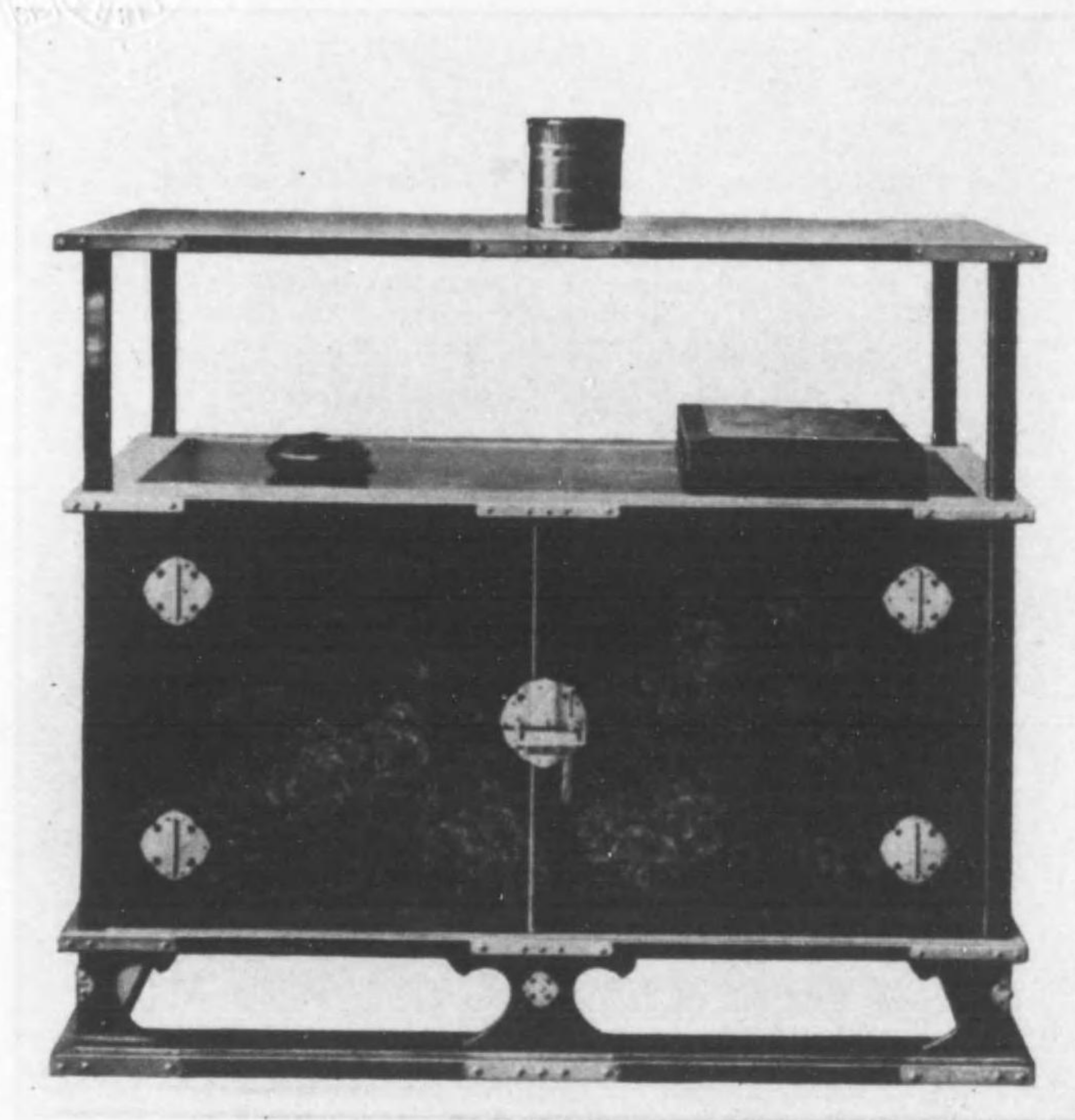
(ルラセ與授賞大)例一ノ器磁陶品出本日





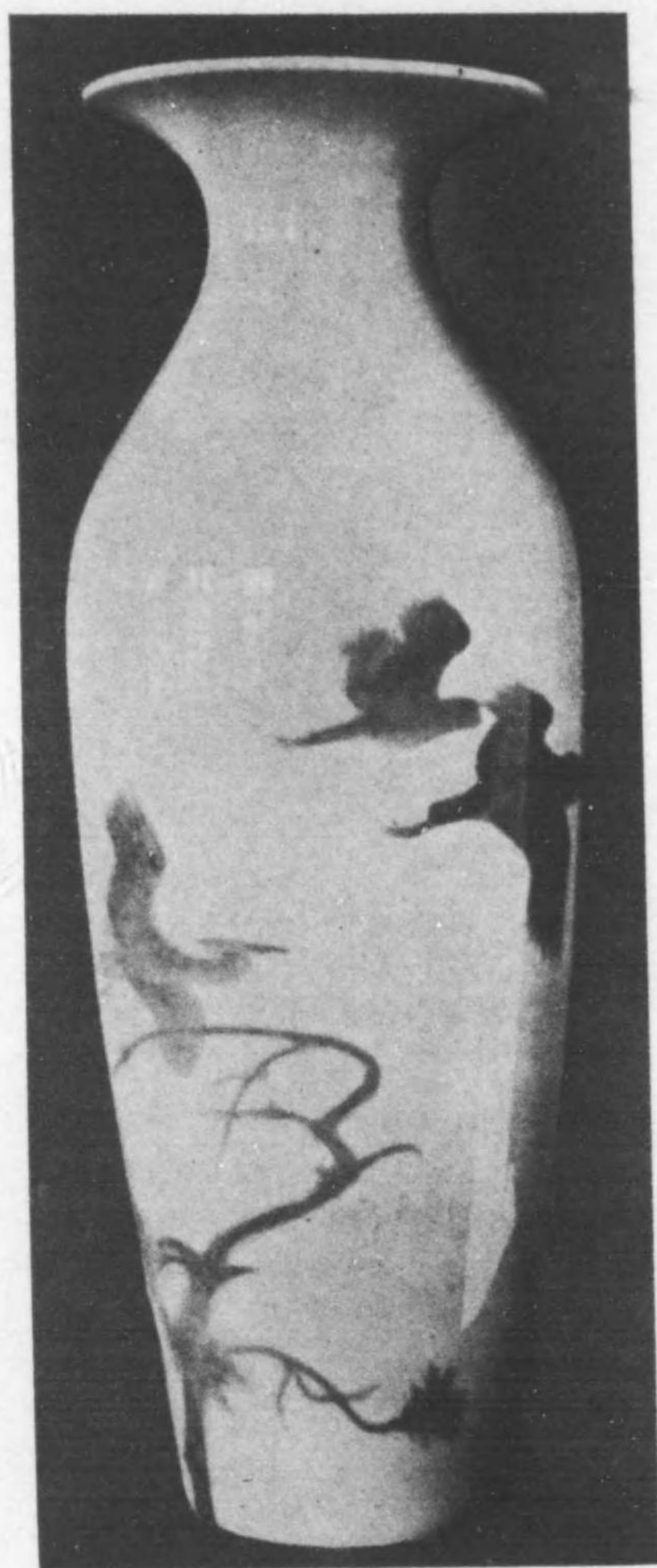
(ルラセ與授ヲ賞大)例一ノ寶七品出本日





(カ・ラセ與授賞大盆香及棚)例一ノ器漆品出本日

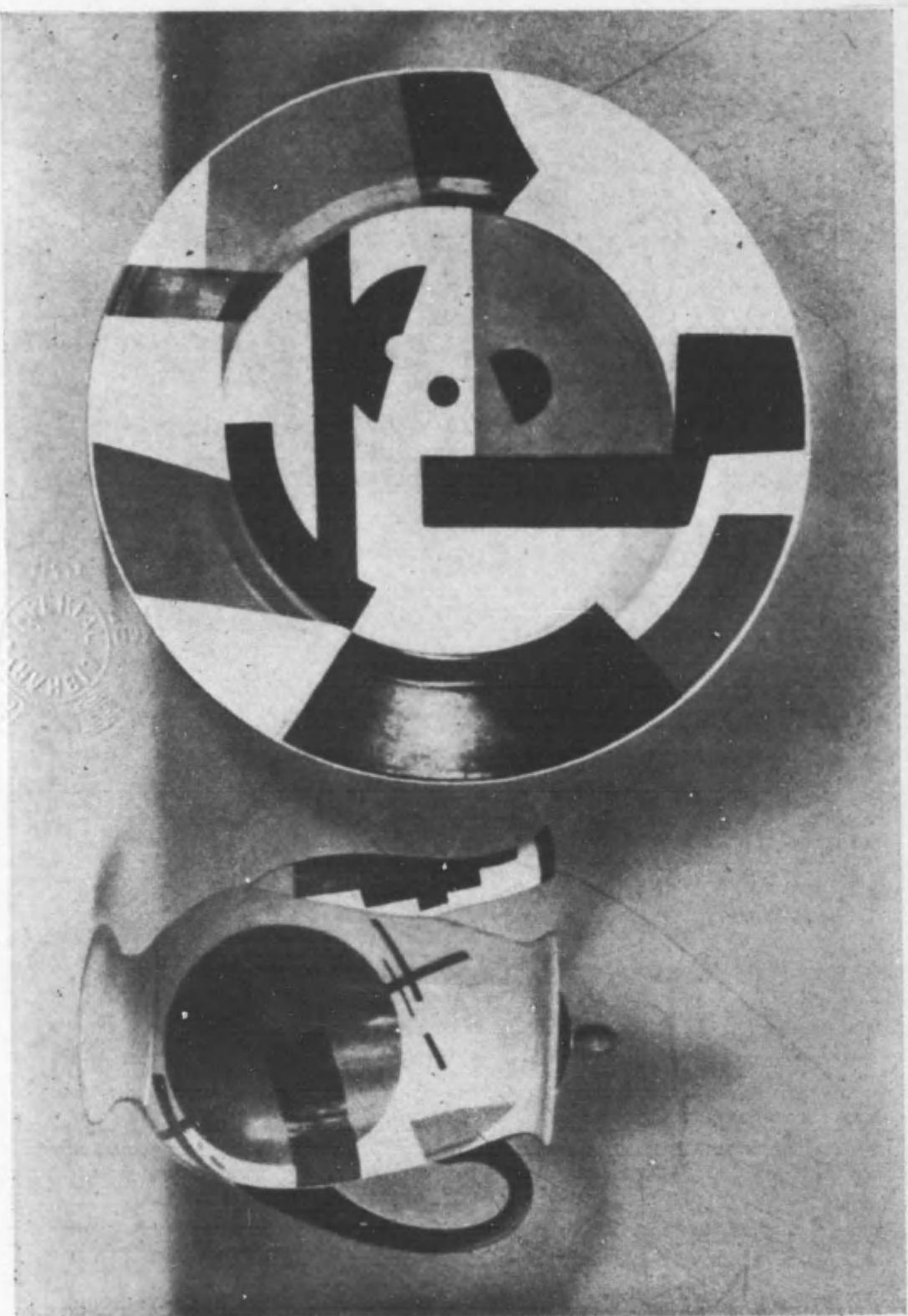




例一ノ器磁陶品出抹丁



例一ノ磁器陶品出亞西露

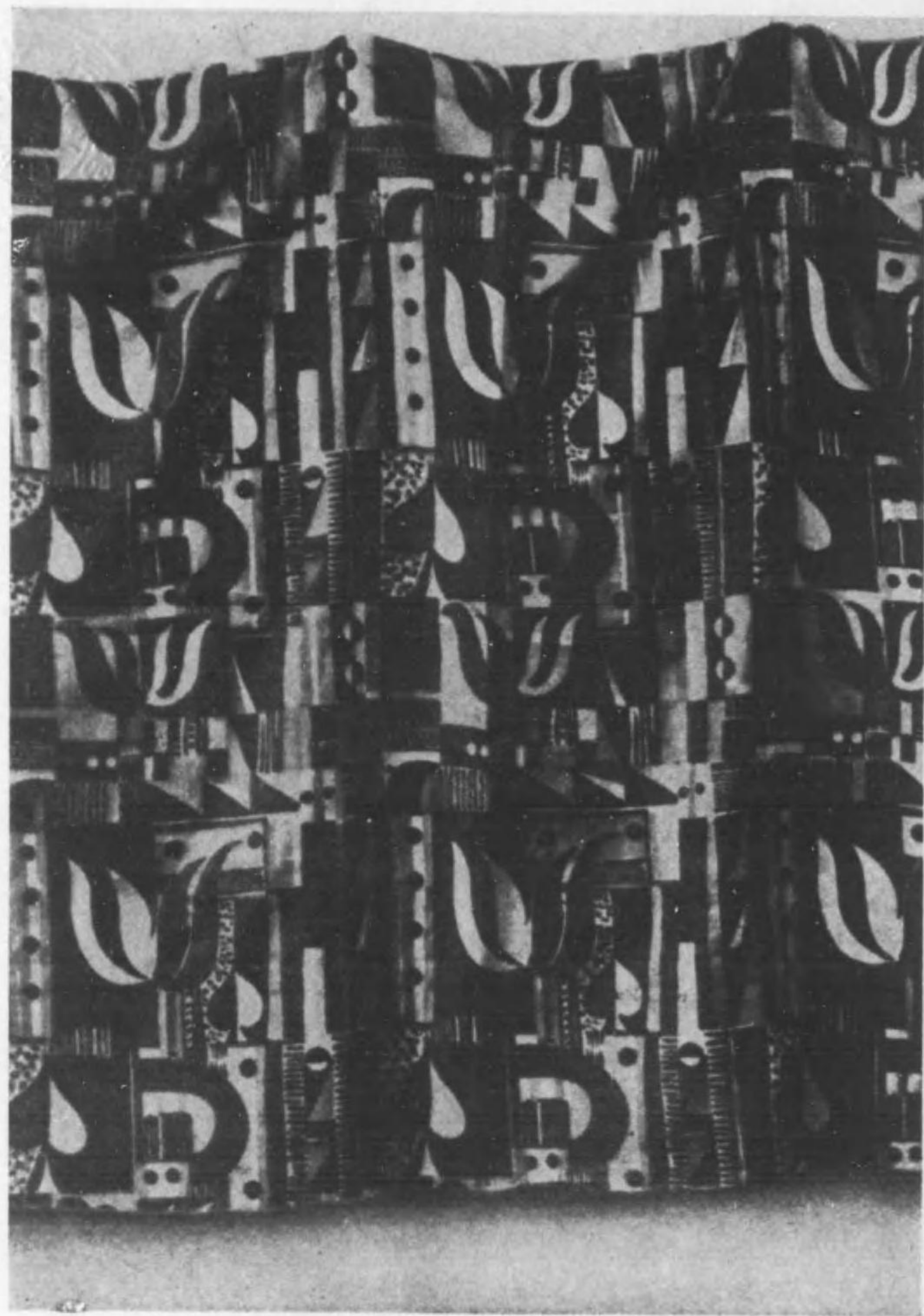






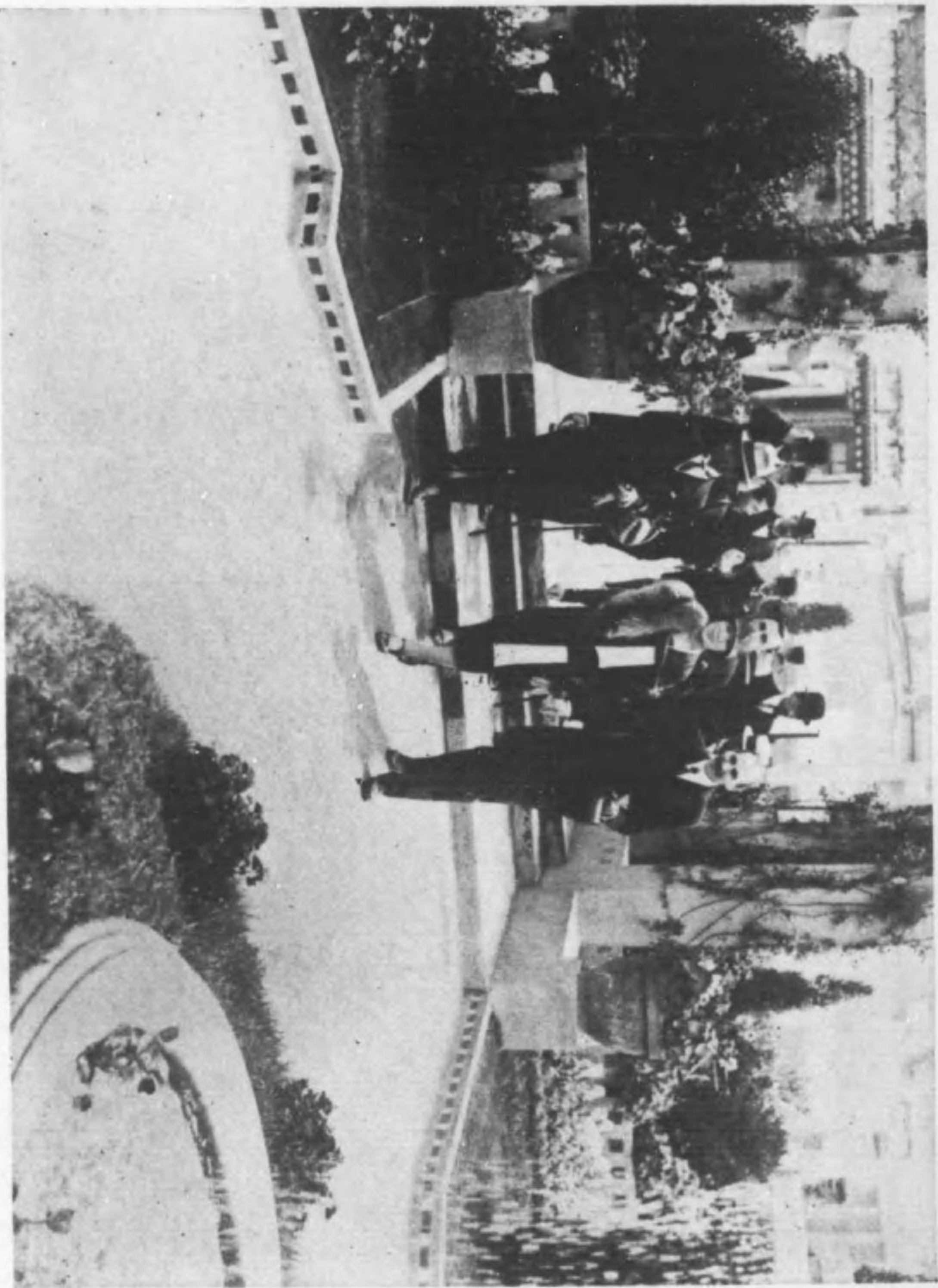
瑞典出品硝子器ノ一例





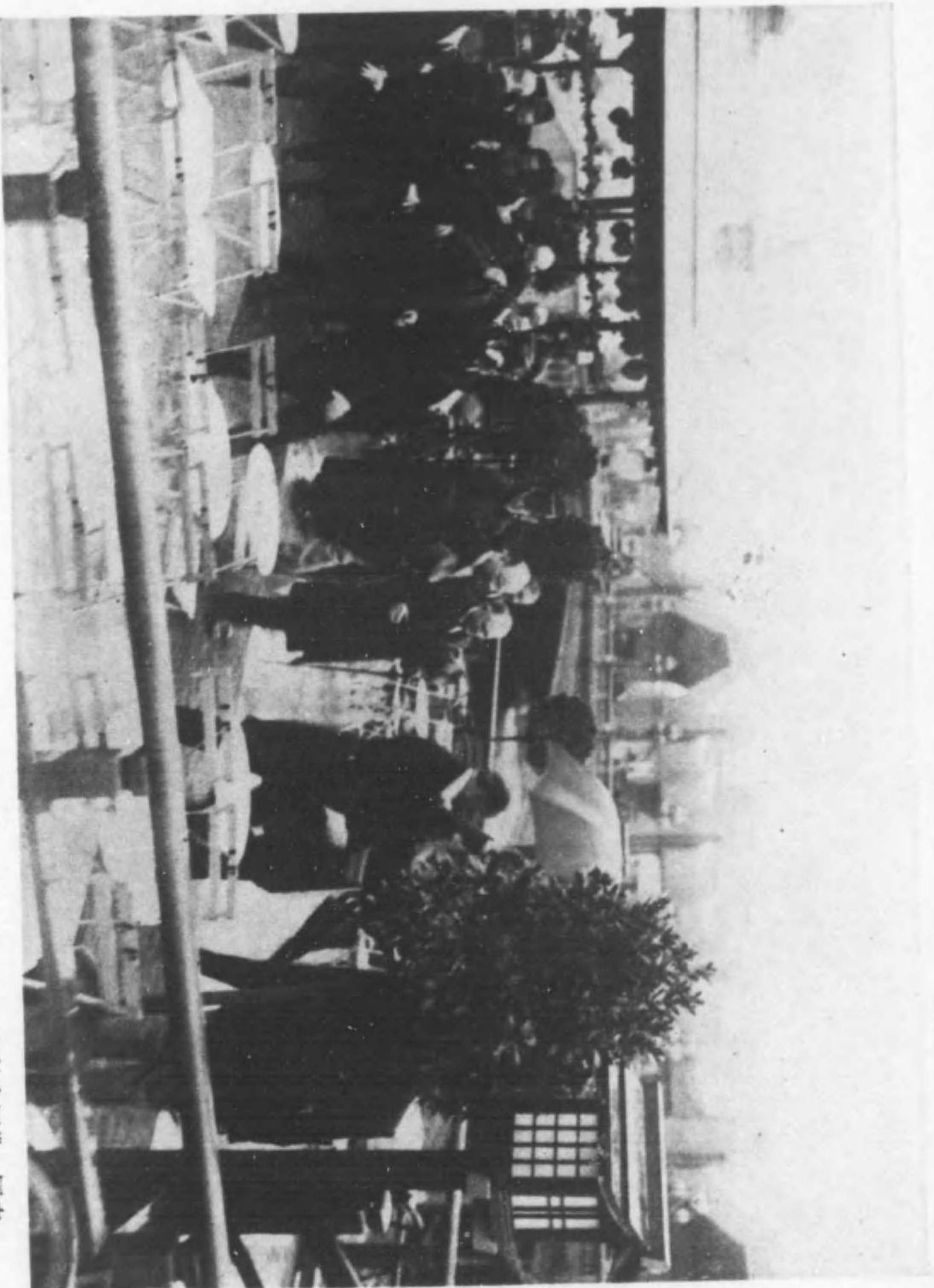
例一ノ物織絹品出利太塊





ルーズベルト氏等、下殿宮リヨ左テシニ眞寫ノ際ノ臨來御下殿如同及下殿宮香朝ハ岡本  
リナ等氏ソホレ





臣大衛美部文日人三氣流大日人ニリヨ右テ向方前テシニ眞喜ノ蒸ノ問訪部本日氏ダルメーゾ眞統大國佛ハ國本  
リナ部一ノ店茶興本日ハ有場リナ他共氏メーヨシ富大務商目人五氏一ジソモ







一九二五年巴里萬國現代裝飾美術工藝博覽會政府參同事務報告

目次

一 總 說	一
二 當博覽會ノ開設目的	一
三 本邦參同計畫	四
(日本館建築、レストウラント經營、出品物ノ選定ト補助金交付、即賣店經營)	
四 博覽會事務ノ經過	五
五 儀式及招宴	七
六 政府費用支出ト產業協會ノ會計	六
七 審査事務ノ概要	八
八 終了事務	七

右



# 一九二五年巴里萬國裝飾美術工藝博覽會政府參同事務報告

## 一 總 說

大正十二年八月駐日佛國大使クロードル氏ハ佛國商工大臣ノ旨ヲ承ケテ同國政府ハ裝飾美術工藝界ニ新方面ヲ開カン爲メ大正十四年四月ヨリ巴里ニ於テ萬國裝飾美術工藝博覽會ヲ開催スルコトニ決定セルヲ以テ日本政府ハ特別ノ盡力ニ依リ本博覽會ニ參加セラレ度旨懇懇シ來レリ然ルニ同年九月ニ關東地方ノ大震災アリ朝野學テ救護事務ニ東奔西走ノ狀態ナルノミナラス巨費ヲ投シテ參加ノ計畫ヲ樹ツルハ國情困難ナリシモ當時我國對外輸出貿易ノ發展ハ重要視セラレタル事項ニシテ加之本博覽會開催ノ趣旨ハ裝飾美術工藝ノ發展ナルヲ以テ我國特有ノ美術工藝品ヨリ當博覽會ヲ通シテ廣ク歐米諸國ニ紹介シテ之カ販路ノ擴張ニ資スルハ輸出不振ニ沈倫シツツアル我貿易振興ノ一助タルヘク斯業ノ採長補短ニ機會ヲ與ヘ趣味ノ近接ヲ圖リ將タ又兩國々交ノ親密ヲ期スル點ヨリスルモ本邦政府力之ニ參加スルハ最モ機宜ヲ得タルモノトシ之ニ參加ノ計畫ヲ樹テ翌十三年五月閣議ノ決定ヲ受クルニ至レリ

## 二 當博覽會開設ノ目的

當博覽會ハ佛國政府ノ宣言セルカ如ク現代裝飾美術工藝 (Arts Decoratifs et Industriels modernes) ニ新



シキ發展ヲ爲サシメントスル目的ノ爲メニ開催セルモノナリ

茲ニ Arts Decoratifs ト謂フハ裝飾美術ノ意ニ Arts Industriels ト謂フハ工業美術ノ意ニ用ヒタリ而シテ純美術ニ屬スル繪畫彫刻ハ建築物庭園等ノ裝飾トシテ用ヒラルルモノノ外原則トシテ本博覽會ノ出品中ニ包含セサルモノトセリ其他ノモノニ至リテハ建築室内裝飾家具置物類ハ勿論總テノ裝身具ヨリ街路庭園輸送機關ニ至ル迄裝飾ノ意味ヲ有シテ作ラレタルモノハ手工品タルト機械製品タルト又一品製作ノモノタルト多量生産ノモノタルト將タ又設計模型タルトヲ問ハス殆ント總テノ物ヲ含マシムルノ計畫ナリキ然レトモ裝飾品ナリト雖モ裝飾技術又ハ工業美術ノ用ヒラレサルモノ例ヘハ單ニ眞珠ヲ連鎖セルモノ又ハ單ニダイヤモンドヲ嵌込ミタルカ如キモノハ如何ナル貴重品ナリト雖裝飾技術トシテハ認メラレサルモノ故當博覽會ノ趣旨ニ添ハサルモノトセリ尙當博覽會ニ於テハ modernes 現代ト謂フ意ニ甚重ヲ置ケリ元來 modernes ナル語ハ現代近代等ト譯スヘキ語ナレトモ事實上ニ於テハ昔ヨリ傳來ノモノハ之ヲ排除シ總テ新シキモノ新規ナルモノノ意ニ解シタレハ解シ方ニ依リテハ從來無カリシモノト謂フカ如キ意味ニモ解セラレタル程ナリ然レトモ從來無カリシ意匠ノモノヲ製作セントスルハ困難事ナルヘク結局ハ新シキモノ新意匠ノモノ眞ノ新シキ試ミノモノノ出品ヲ希望シタルモノナリ當博覽會開催主張者ノ語ニ依レハ例ヘハ食器類ハ陶磁器金屬ニ限ラレタルカ如キモ他ノ優良ナル物質ニ依リ出來サルカ又例ヘハ茶碗ハ丸キモノト定マレルカ如キモ他ノ形ニテ今ヨリモ實用的又美術的ノモノカ出來サルカト謂フカ如クニ考ヘタリトノ事ナリ從テ列國ヨリ出品セラレタルモノニハ六角八角ノ食

器カ出テ彫刻セル鳥形ノ茶瓶等カ出テタルモ概シテ在來ノ範疇ヲ超越スルコト能ハサリシナリ古來建築家具室内裝飾衣服其他裝身具公園庭園乃至自動車汽車汽船等ノ運搬具ニ至ル迄此等ノモノノ設計乃至意匠ハ細ニ入り微ニ入り改良發達シ來リタルカ如キモ餘リニ在來ノ範疇ヲ守リテ行詰マレルニハ非スヤ世人ハ在來ノ範疇ノ下ニ於ケル作品ニ對シテハ最早珍ラシト云フ念ヲ起サス飽ケルニハ非スヤ過般歐洲大戰争ニ依リ社會各方面ニ對シ各般ノ改革行ハレタルニ徴スレハ從來行詰マレル裝飾美術界ニ於テモ新生面ヲ打開スルコト困難ナラサルヘク否寧ロ新生面ヲ打開スルコト社會ノ要望ニ副フモノナルヘントノ信念ノ下ニ各種ノ運動行ハレ當博覽會ノ開設ノ趣旨亦茲ニアリタルカ如シ例ヘハ博覽會場内ニ建築セラレタル無數ノ大小建物ニ觀ルモ從來歐洲ニ有振レタル建築物トハ概ネ其形態ヲ異ニセルニ見ルモ開催趣旨ニ副ハントスル努力ハ自ラ窺ハレ得タリ然レトモ各般ノ出品物ニ對シ此趣旨ヲ實現スルコトハ眞ニ困難ノ事ナルハ勿論數千年來發達シ來リタル範疇ヲ離脱スルコトハ到底不可能ノコトナルノミナラス歐米ニハ歐米ノ風潮アルカ如ク東洋ニハ東洋ノ風潮アリ列國ニハ夫々其ノ國風ナルモノアリ凡ソ作品ハ其國民ノ嗜好ヲ離レタルモノヲ製作スルコトハ實際上困難ノ事情ヲ伴フモノナルノミナラス其作品カ實用的ナルコト又經濟的ナルコトモ亦製作上離ルヘカラサル重要條件ナルヘク國民ノ習慣風俗生活様式ヲ離ルルコトモ出來サルモノナレハ自ラ多數ノ出品物ハ從來ノ型ヲ離ルルコトヲ得サルハ理ノ當然トスル所ナレハ結局スル所新シキ意匠ノモノヲ求ムル傾向ニ一致セルモノナリ



### 三 本邦參同計畫

(日本館建築、レストウラント經營、出品物選定ト補助金交付、即賣店經營)

本邦出品計畫ハ當博覽會ノ趣旨ヨリ稽査スルモ如何ニ之ヲ定ムヘキヤハ重要問題タルヘキハ勿論ナリキ然レトモ今回ノ博覽會ハ歐洲流行ノ中心地タル巴里市ニ開催セラレ佛國政府自ラ之カ主催者タリ參加國ハ二十有餘ニ達シ歐洲諸國ハ殆ント之ニ加入スルモノナレハ日本ヨリ歐風作品ノ出品ヲ爲スハ躊躇セラレタル處ナリ何トナレハ日本ヨリ西洋建築、西洋家具、西洋食器、洋服類ノ出陳ヲ爲ストモ當博覽會ニ於テ優越ノ地歩ヲ占ムルコトハ困難ナルヘキヲ想像セラレタレハナリ是ヲ以テ日本ヨリノ出品物ハ國風ヲ尊重シテ純日本趣味ノモノトシ飽迄モ日本ト謂フコトヲ標榜シテ充分ニ日本作品ノ特色ヲ發揮シ本邦製作品ノ眞價ヲ認識セシメ仍テ以テ日本趣味ノ宣傳ニ努メ國風作品ノ販路擴張ニ資スルコト機宜ノ處置ナリト信セラレタリ尤モ此等作品ハ歐米ニ於テ需要ヲ喚起セシムルノ必要アルモノナルヲ以テ單ニ裝飾品トシテノミ用ヒラレ骨董物視セララル作品ニテハ不可ナリ宜シク西洋家具、西洋食器等ニ歐洲人ノ企及シ得サル日本趣味ヲ表ハシタル作品ニシテ彼等ノ實用ニ適スルモノヲ製作シテ東西趣味ノ近接ヲ圖リ仍テ彼我貿易ノ伸張ニ資セントセリ而シテ出品計畫ハ之ヲ一、出品物陳列(補助作品ト普通出品) 二、日本館建設 三、喫茶店經營 四、即賣店經營ヲ爲スコトニ決定セリ

一、出品物ノ選定ト陳列 本邦出品ノ趣旨前陳ノ如クナルヲ以テ出品物ノ種類ハ之ヲ陶磁器、漆器、

鑄金、彫金、象嵌、七寶、木工品、刺繍品、絹織物製品、竹製品、珊瑚製品、鼈甲製品、眞珠製品、象牙製品、扇子、紙製品、水晶及瑪瑙製品、金銀細工、其他之ニ類似ノモノニ限定スルコトトシ又陳列面積ニ制限アルヲ以テ出品者ノ數ヲ約五百人ト定メタリ而シテ今回ノ出品物ハ特ニ優良作品ヲ出陳スルノ必要アリ又當時美術工藝家ハ大正震災ノ影響ニ依リ財政上困難ノ境遇ニ在ル者多カリシヲ以テ右出品人ノ内約半數ヲ選定シテ政府ヨリ補助金ヲ交付シ當博覽會ニ適スル出品ヲ依頼スルコトトシ他ノ約半數ノ出品人ハ地方長官ニ依頼シテ各府縣ニ於ケル優良作家ヲ選定シテ之ニ出品ノ勸誘ヲ爲スコトトシタリ且此兩者ノ出品物出來ノ上ハ鑑査員ニ依リ嚴選ヲ爲シ之ニ合格シタルモノノミヲ出陳スルコトトセリ

右ノ標準ニ依リ補助金ヲ交付シテ出品ヲ勸誘スヘキ美術工藝家ノ人選ヲ爲スコトトシ其選定方ヲ左記ノ諸氏ニ委囑シタリ

東京帝國大學教授	塚本	靖
東京美術學校教授	島田	佳矢
東京高等工藝學校教授	宮下	孝雄
同	木曾	愼一
同	鹿島	英二
同	畑	正吉
正五位勳四等	野間	譽雄



而シテ右ニ依リ補助金ヲ交付シテ美術工藝品ノ製作出品ヲ爲ス者ト決定セラレタルモノ左ノ如シ

東京府補助製作者名簿

補助額	物質	品名	個數	氏名
五〇〇・〇〇	金	鎚起蠟燭臺	一	石田英一
二〇〇・〇〇	漆	蒔繪手文庫	一	磯矢完山
一〇〇・〇〇	金	卓上呼鈴	一	磯崎美亞
二五〇・〇〇	金	鑄銅蜘蛛之圖	一	市橋雅堂
一五〇・〇〇	竹製	花籠	一	飯塚鳳竹
四〇〇・〇〇	金	臚銀製打物盆	一	伊藤正見
五〇〇・〇〇	金	喫煙具	三種	石川寛美
三〇〇・〇〇	竹製	器	一	飯塚鳳齋
八〇〇・〇〇	漆	厨子形棚	一	六角注多良

從六位中條精一郎

山崎龜吉

一〇〇・〇〇	木製品	扇子團扇	二	榛原直次郎
五〇〇・〇〇	金	青銅水指	一	畑正吉
一〇〇・〇〇	漆	小菊模様乾漆シガー入(展)	一	本間薺華
一三〇・〇〇	漆	置時計ステッキ	二	保坂光山
六〇〇・〇〇	螺鈿	螺鈿模様鏡椀	一	豊川揚溪
四〇〇・〇〇	漆	堆朱香盆	一	富樫光成
三〇〇・〇〇	漆	堆朱盆	一	堆朱揚成
三〇〇・〇〇	漆	丸形蔓草文彫漆香盆(展)	一	堆朱克彦
四〇〇・〇〇	漆	蒔繪亂篁	一	都築幸哉
二〇〇・〇〇	陶漆	獸類置物一組、鳥類置物一組 甲虫付灰皿二個、色釉樂燒	四	沼田勇次郎
四〇〇・〇〇	竹細工	開菊形編投入花籠(展)	一	岡田竹弘齋
五〇〇・〇〇	同	弘樂編花籠(展)	一	同
三〇〇・〇〇	金	卓上用巻煙草入	一	小野島知文
一、三五〇・〇〇	漆	紫檀材婦人用机(展)	一	梶田惠
二〇〇・〇〇	金	クツション及バッグ	二	金澤静子
二〇〇・〇〇	金	卓上鏡	一	川島東洲























二五〇〇〇	島根縣	陶器	樂山燒香茶器	二	長岡住右衛門
一〇〇〇〇	山口縣	陶器	花瓶	一	船木淺太郎
二〇〇〇〇	山口縣	陶器	萩燒水匣	二	坂高麗左衛門
八〇〇	香川縣	陶器	陶器花瓶(展)	一	大和春信
二〇〇〇〇	香川縣	木工作品	茶櫃	一	橘浮悅
一八〇〇〇	福岡縣	漆器	四季花鳥手箱(展)	一	三野雅堂
一〇〇〇〇	福岡縣	人形	博多人形	三	原田嘉平
一〇〇〇〇	福岡縣	人形	博多人形	三	置鮎與一
一〇〇〇〇	佐賀縣	人形	博多人形	三	小島與一
三〇〇〇〇	佐賀縣	陶磁器	洋食器	一組	深川榮左衛門
二〇〇〇〇	佐賀縣	陶器	榻唐草獅子花瓶(展)	一	深川忠次
一七〇〇	佐賀縣	陶器	唐草獅子花瓶(展)	一	深川榮左衛門

九五〇〇	鹿兒島縣	陶器	桃畫染付磁器花瓶(展)	一	深川榮左衛門
四〇〇〇	岐阜縣	陶器	飾壺	一對	沈壽官
二五〇〇〇	岐阜縣	竹、紙、製	岐阜提灯、大内行燈、電氣笠、繪傘	八	勅使河原直治郎
一〇〇〇〇	愛媛縣	陶器	鶴	一組	工藤市太郎
一一〇〇〇	奈良縣	屏風、刺繡	刺繡二枚折屏風(展)	一	宮本忠平

尙製作補助條件ハ左記ノ如ク定メラレタリ  
 出品物製作ニ付テノ注意

今回佛國カバリニ開催スル萬國裝飾美術工藝展覽會ハ現代ノ生活様式ニ適合スル工藝品全部ニ  
 亘リ其ノ出品ヲ求メテ居ルカ若シ出來得ルナラハ此等ノ工藝品ヲ適宜ニ配シ調和シタル一ツノ  
 完全ナ生活様式ノ出品ヲサヘ希望シテ居ルノテアル。隨テ古代舊代ノ模倣又ハ模寫ハ其ノ最モ排  
 斥スル所テアル。即該博覽會ノ希望シテ居ル所ハ各國ニ於ケル現代生活ノ文化的様式ヲ其ノ會場  
 ニ縮寫シ互ニ採長補短、趣味ノ近接ヲ圖ルノ機會ヲ作ルニ在ルノテ單ナル各國各様ノ生活様式ノ  
 紹介テハナイ。此間互ニ趣味及様式ノ取り遣リヲ爲スノ機會ヲ作ルコトニ在ルノテアル。我國カ出



品ヲ爲ス場合ニ於テ常ニ以上ノ趣旨ヲ念頭ニ置クヘキハ勿論テアルカ之ト同時ニ我國カ此ノ博覽會ニ參加スルニ到レル理由ノ一トシテ此レニ依リテ我工藝品輸出促進ノ機會ヲ作ルニ在ルコトモ又忘却シテハナラヌ即我國ヨリノ出品ハ單ナル日本現代ノ生活様式ヲ表現シ紹介スルニ止ラス更ニ我製作品ヲ歐米人ノ生活ニ取入レシメ得ル様ニスルコトハ聽テ博覽會開催ノ目的ニ副フノミナラス我國トシテハ特ニ肝要ナ事柄テアル詳言スレハ單ニ我國固有ノ工藝品ヲ吾人ノ生活様式ニ應用利用セル現狀ヲ歐米人ニ紹介スルニ止メス更ニ我國固有ノ技術ト材料トヨリ成レル工藝品ヲ彼等ノ趣味性ト生活様式ニ適合應用セシムルコトニ努メ以テ此等日本製作品ヲ商品トシテ意義アラシメ長ク彼等ヲシテ需要セシムルノ端緒ヲ此ノ機會ニ於テ得ル様ノ心懸ヲ以テ出品ヲ製作シナケレハナラス從テ單ナル洋風ノ模倣又ハ模寫ハ此ノ意味ニ於テ成效ハ期セラレマシ又其ノ出品ハ何時ニテモ略同シ價格ヲ以テ少クトモ類似ノ Reproduction ノ注文ニ應シ得ルモノテナケレハナラヌ

若シ夫レ餘リニ日本趣味東洋趣味ニ偏スレハ一時彼等ノ好奇心ヲ或ハ喚起スルヲ得ルカモ知レヌ其ノ生活トノ調和ヲ缺キ又ハ之レカ應用ノ途ナキ結果遂ニ骨董扱ニセラレ普通商品トナリ得サルノ憾アルヘキヲ以テ此ノ點特ニ留意スル所ナケレハナラヌ

#### 出品製作補助要項

第一條 巴里萬國裝飾美術工藝博覽會本邦出品物ノ一部ニ對シ必要アルトキハ本省ハ製作費ヲ補助ス

第二條 製作費補助ヲ受ケムトスル者ハ本要項ニ依リ豫メ製作セムトスル物ノ種類個數及原價ヲ記載シ七月十日迄ニ本省ニ申請スルコト

第三條 本省ハ前項ノ申請ニ基キ適當ト認ムルトキハ命令事項ト共ニ原價ノ全部又ハ一部補助ノ指令ヲ交附ス

第四條 指令ヲ受ケタル製作者ハ直ニ別記ノ書式ニ依リ請書ヲ提出スルコト

第五條 補助製作ノ指令ヲ受ケタル製作者ハ十三年十二月二十七日迄其製作品ヲ本省ニ提出シテ鑑査ヲ受クヘシ

所定ノ期日内ニ製作品ヲ提出セサルトキハ本省ハ第三條ノ指令ヲ取消スコトヲ得製作品ノ提出ノ爲メニ要スル運送費用ハ製作者ノ負擔トス

第六條 補助金ハ第三條ノ指令アリタル後ニ之ヲ支給ス

第七條 鑑査ニ合格セサル製作品ハ博覽會ニ出品セサルモノトス

第八條 製作品ノ鑑査ニ合格セサルトキ又ハ補助金額ノ價值ナシト認ムルトキハ補助額ノ全部又ハ一部ノ返還ヲ命スルコトアルヘシ

第九條 補助製作品ノ出品ハ各製作者ノ氏名又ハ商號ニ於テ之ヲ爲ス

第十條 前條出品物ハ賣約ニ應セシメ其賣價ハ製作者ノ隨意トス但シ本省ニ於テ不當ト認ムルトキハ價格ヲ變更セシムルコトアルヘシ

第十一條 補助製作品ノ博覽會ニ於ケル陳列及賣却ノ事務ハ總テ農商務省派遣官監督ノ下ニ本



省指定ノ出品團體ヲシテ之ヲ取扱ハシム出品ニ要スル費用ノ負擔及賣却手數料ノ徵收ハ出品團體ノ定ムル所ニ依ル

第十二條 出品物ノ本邦積出後積戻迄ノ亡失、毀損其他ノ損害ハ出品團體ニ於テ負擔スルモノトス但シ不可抗力ニ因ル場合ハ此限ニアラス  
前項ノ賠償金ニ關シ製作者ト出品團體トノ協定成立セサルトキハ本省ノ裁定ニ依リ之ヲ決スルモノトス

第十三條 博覽會ニ於テ賣却セラレサル出品物又ハ鑑査ニ合格セサル製作品ニシテ全額補助ヲ爲シタルモノハ本省ニ寄贈セシムルコトアルヘシ  
前項物品ニシテ一部補助ノモノハ本省ニ於テ既ニ支給シタル補助金額ト原價トノ差額ヲ支給シ之ヲ本省ニ寄贈セシムルコトアルヘシ

萬國裝飾美術工藝博覽會出品物ノ鑑査ニ關スル要項

第一條 補助製作ニ係ル出品物ハ鑑査ヲ受クル爲出品製作補助要項ニ定ムル期日迄ニ農商務省商品陳列館ニ提出スヘシ

第二條 普通出品ハ鑑査ヲ受クル爲大正十三年十二月一日ヨリ同二十八日迄ノ間ニ左記ノ場所ヘ提出スヘシ

鑑査場所	出品區域	鑑査年月日	備考
東京農商務省商品陳列館	北海道、奥羽、關東、山梨、長野	大正十四年一月廿一日、廿二日	

名古屋	愛知縣商品陳列所	愛知、三重、岐阜、靜岡	同	一月十八日、十九日
京都	京都市立商品陳列所	京都、奈良、滋賀、山陰道	同	一月十二日、十三日
大阪	大阪府商品陳列所	大阪、和歌山、兵庫、岡山、廣島、四國	同	一月九日、十日
金澤	石川縣商品陳列所	北陸地方及新潟	同	一月十五日、十六日
福岡	福岡縣商品陳列所	九州地方、沖繩、山口	同	一月六日、七日

第三條 前二條ニ定ムル提出期日迄ニ提出セラレサル物ハ鑑査ヲ爲サス又博覽會ニ出品ノ取扱ヲ爲サス

第四條 出品物ノ鑑査ハ農商務大臣ノ任命又ハ委囑セル鑑査員之ヲ爲ス

第五條 鑑査ノ結果ニ付テハ何人モ異議ヲ申立ツルコトヲ得ス

第六條 鑑査ニ合格セサル物ハ提出者ニ返還ス

第七條 鑑査ニ合格セル出品物ハ鑑査場ニ於テ直ニ日本産業協會ニ引渡ス

第八條 第一條ノ製作者ノ申請アリタルトキハ其ノ鑑査ニ付テハ第二條ノ規定ヲ準用ス但シ此ノ場合ニ於テ鑑査ニ合格シタル出品物ハ農商務省商品陳列館ニ送附スヘシ

第九條 出品物ヲ第一條第二條及第八條ノ規定ニ依リ提出又ハ送付スル運賃諸掛及第六條ノ返還ニ要スル運賃諸掛ハ提出者ノ負擔トス運送中ノ危險ニ付亦同シ

第十條 鑑査ニ合格セル出品物ハ農商務省商品陳列館又ハ其ノ他ノ場所ニ陳列シテ一般ノ觀覽ニ供スルコトアルヘシ此ノ場合ニ於テハ其ノ終了後之ヲ日本産業協會ヘ引渡ス



次ニ右補助作品及補助金ヲ交付セサル出品物ヲ鑑査スル爲左記ノ通鑑査員ヲ委囑セラレタリ

鑑査員

東京帝國大學教授	工學博士	塚本
東京美術學校校長	正木	正彦
同 教授	島田	佳矣
東京高等工業學校長	工學博士	吉武
東京高等工業學校教授	宮下	榮之進
同	木	孝雄
同	鹿島	英二
京都帝國大學教授	工學博士	武田
京都高等工藝學校長	工學博士	鶴卷
同 教授	萩原	清彦
同 教授	霜島	正三
陶磁器試驗所技師	工學博士	植田
京都市立商品陳列所長	松田	豊橋
三越吳服店員	豊泉	益三
從六位中條精一郎		

鑑査員ノ分擔

正五位勳四等	野間	譽雄
大阪府商品陳列所長	山口	貴雄
大阪府勸業技師	片岡	長信
大阪市民博物館長	堀居	左五郎
愛知縣產業主事	原	文次郎
愛知縣產業技師	小泉	角五郎
石川縣產業技師	青木	外吉
福岡縣產業技師	山崎	龜吉

大阪鑑査場	霜島	正三郎	山口	貴雄	片岡	長信
堀居	左五郎	松田	鹿三	野間	譽雄	
名古屋鑑査場	島田	佳矣	原	文次郎	小泉	角五郎
武田	五一	野間	譽雄	霜島	正三郎	松田
金澤鑑査場	植田	豊橋	野間	譽雄	島田	佳矣
青木	外吉	植田	豊橋	野間	譽雄	島田
福岡鑑査場	植田	豊橋	島田	佳矣	渡邊	靜



二〇	一九	一八	一七	一六	一五	一四	一三	一二	一一	同	一〇	九	八	七	六	同
鯨鬚製品	銀製品	銀製品	鑄製品	紙製品	銀製品	陶製品	鑄銅製品	銀製品	同	同	紙製品	革製品	竹製品	木製品	同	同
惣花盛器	茶器	春山	水壺	花瓶	額面	電氣瓶	電氣照明	コヒ	同	木版掛軸	五葉木版集	トランプ	花籃	寶箱	兔置物	
一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	二	三	一	一	一	一	一
中村金太郎	永池忠勝	横山正三	河内宗明	柄澤濤雲	渡邊庄三郎	渡邊萬里	大倉桃園	北米乘雲	細沼貴金屬工業會社	同	日本木版印刷株式會社	橋口貢	播伊商店	飯塚旭昇	石川勝信	同人

二七

同	同	五	四	三	二	一	番號	東京府	普通出品者名簿	右鑑査ノ結果前掲セル補助製作家ハ全部合格シ又普通出品物ニシテ合格シタルモノ左ノ如シ		
同	同	鯨鬚細工	同	同	竹製品	象牙製品	物質	東京府	普通出品者名簿	右鑑査ノ結果前掲セル補助製作家ハ全部合格シ又普通出品物ニシテ合格シタルモノ左ノ如シ		
鯨齒柄ステッキ	二重段花結ステッキ	鳥置物	料紙宮及祝宮	花籃	手宮	象牙細工	品名	東京府	普通出品者名簿	右鑑査ノ結果前掲セル補助製作家ハ全部合格シ又普通出品物ニシテ合格シタルモノ左ノ如シ		
一	一	一	一	一	一	一	個數	東京府	普通出品者名簿	右鑑査ノ結果前掲セル補助製作家ハ全部合格シ又普通出品物ニシテ合格シタルモノ左ノ如シ		
同人	同人	伊佐奈商會	飯塚鳳齋	飯塚鳳齋	飯塚琅玕齋	池田嘉吉	氏名	東京府	普通出品者名簿	右鑑査ノ結果前掲セル補助製作家ハ全部合格シ又普通出品物ニシテ合格シタルモノ左ノ如シ		
同	同	伊佐奈商會	飯塚鳳齋	飯塚鳳齋	飯塚琅玕齋	池田嘉吉	氏名	東京府	普通出品者名簿	右鑑査ノ結果前掲セル補助製作家ハ全部合格シ又普通出品物ニシテ合格シタルモノ左ノ如シ		
宮下孝雄	野間譽雄	鶴卷鶴一	武田五	松田鹿三	正木直彦	木檜恕一	鹿島英二	野間譽雄	豐泉益三	島田佳矣	野間譽雄	萩原清彦

二六















一三三 一三四 一三二 一三一 一三〇 一二九 一二八 一二七 一二六 一二五 一二四 一二三

推黒、堆朱 紫檀 紫檀 崎玉 麻真木 栃木 綿織 綿織 綿織 堆朱 靜岡 竹製 山梨 繻子 水品 長野

屏風、手筥 小棚 手筥 婦人帽子 經木 織物 綿縮物 織物 卓織物 鳥籠 洋服袖裏地 首飾

二 一 一 四 五 五 五 三 一對 一 一

村上工藝會 小川悠正 阿達祥山 島根惣助 神野正武 川島久兵衛 佐野織物同業組合 木村淺七 篠發三郎 榊原源三郎 甲斐絹同業組合 甲府水晶業組合

一〇九 一一〇 一一一 一一二 一一三 同 同 一二四 一二五 一二六 一二七 一二八 一二九 一二〇 一一一 一一二 一一三

金象嵌 同 同 眞鍮製 刺繡 陶器 新湯 男竹 竹塗

花瓶 縮瓶 麻真田 象牙彫 電燈スタンド 卷煙草 文房具 花メヤ 着物 着物 絹張笠付電氣スタンド 花爐 獅子瓶 手編花籠 男竹編花籠 書棚

一 一 一 二 一 一 二 八 一 一 二 三 一 一九 五 一

井上良齋 秦野織物同業組合 日本輸出麻眞田同業組合 聯合會本部 株式會社大西商店 河野山之助 同 同 角羽善次郎 橫濱莫大小同業組合 竹内良藏 山本直次郎 小西忠次郎 宮川香山 新潟湯竹工所 岡田竹弘齋 中山長治郎



一四七	一四八	一四九	一五〇	一五一	一五二	一五三	一五四	一五五	一五六	一五七	一五八	一五九	一六〇	一六一	一六二
青	木	木	鐵	木	竹	石	磁	陶	陶	漆	同	磁	銅	磁	磁
銅	製	製	製	製	塗	川	器	器	器	器	器	器	器	器	器
花	白	羽	隅	鐵	日	手	置	口	茶	御	扇	香	同	コ	瓶
瓶	子	子	子	子	前	巾	箱	入	家	白	繻	繻	茶	碗	掛
一	一	一	一	一	一	二個	一	一	一	一	一	一	一	一	一
横山嘉山	鶴岡織物株式會社	羽前織物株式會社	阿部長七	佐藤德太郎	齋藤與惣左衛門	廣瀬清治	石崎蕃	井出善太郎	利岡光仙	大垣昌訓	加藤商店	柄木曉舟	米澤弘安	谷口吉次郎	中村秋塘

一三五	一三六	一三七	一三八	一三九	一四〇	一四一	同	一四二	一四三	一四四	一四五	一四六
絹	福	漆	岩	鑄	紫	鑄	青	同	同	同	同	同
製	島	器	手	鐵	根	鐵	森	同	同	同	同	同
縣	縣	縣	縣	縣	縣	縣	縣	縣	縣	縣	縣	縣
桌	指	鐵	植	卓	鐵	釣	茶	瓶	鐵	釣	植	卓
子	洗	梳	木	子	燈	カ	湯	ノ	バ	ス	ケ	ツ
掛	皿	具	掛	掛	瓶	籠	釜	掛	籠	瓶	瓶	瓶
一	一二組	一	一	一	一	一	一	一	一	二	二	一
長野縣工業試驗所	福田惣兵衛	南部鐵瓶同業組合	南部紫根染研究所	小泉仁左衛門	有坂吉祥	平館清藏	同	砂子澤平三郎	片桐武三	吉尾源造	八木橋文之助	宮腰太助



一九〇	一八九	一八八	同	一八七	一八六	一八五	一八四	一八三	一八二	一八一	一八〇	一七九
竹香	川	德島		和歌山	同	同	同	同	同	同	同	廣島
製縣	製縣	島縣		縣								真田縣
籠	兩	阿	鞭	ス	團	同	同	同	同	同	同	單
	縮、	波		テ								四
	クレ			ツ								菱
	ーブ	縮		キ	扇							
一	二	一	一	一	五	三	三	三	三	三	三	三
林	美	海	同	的	大	坂	藤	藤	中	高	小	小
福	馬	野		場	森	田	井	井	藤	橋	笠	笠
太	儀	多		榮	寅	沖	金	八	新	太	光	原
郎	一	四	人	吉	之	藏	三	百	次	郎	太	律
	郎	郎			助		郎	治			郎	三
												郎

一七八	一七七	一七六	一七五	一七四	一七三	一七二	一七一	一七〇	一六九	一六八	一六七	一六六	一六五	一六四	一六三
銅	同	漆	木	富	磁	絹	磁	磁	鐵	同	磁	絹	銅	陶	陶
製	器	製	器	山	器	器	器			器	器	器	器	器	器
花	寶	額	カ		花	羽	鉢	置	フ	香	花	羽	瓶	高	同
	石		ラ		瓶										花
	入		一		二										
瓶	箱	盆	入		地	重		物	ラ	爐	瓶	重	掛	附	瓶
一	一	一	二		一	五		一	一	一	一	一	一	一	一
鹽	丸	中	富		毛	備	清	宮	才	秋	寺	山	山	矢	桑
崎	山	村	山		利	前	水	本	田	山	島	田	川	口	田
利	乘	喜	漆		岩	又	美	嘉	幸	治	爲	長	豐	壽	與
平	將	太	器		花	吉	山	平	三	作	吉	太	松	太	重
		郎	同		堂									郎	郎
			業												繁
			組												
			合												



一九一	紙	製	取	込	盆	一	西村 瀧次郎
一九二	同	製	料	紙	文	一	高橋 皖山人
一九三	同	製	團	扇	盆	五	丸龜團扇組合
一九四	同	製	名	刺	盆	二	松田 春次
一九五	紙	製	果	物	鉢	一	文新 堂
一九六	紙	製	料	紙	文	一	小松 和太郎
一九七	愛媛縣		日	傘	庫	半打	讚岐傘組合
一九八	愛媛縣		植	木	鉢	三	株式會社讚岐工藝會
一九九	竹	製	花	籠	盆	一	加藤 正夫
二〇〇	高知縣		盛	籠	盆	二組	佐伯 保
二〇一	珊瑚製品		典	具	帖	三	島中珊瑚加工所
二〇二	紙		典	具	帖	五百枚	土佐紙株式會社
二〇三	同		紗	漉	コ	百枚	株式會社上田商店
二〇四	福岡縣		博	多	織	六	中西織工場

四〇

佐賀縣

二〇五

花

瓶

一

深川 榮左衛門

此等各種出品物ハ何レモ日本産業協會ニ依リ巴里市博覽會々場ニ搬入セラレタルカ之カ陳列方法ハ斬新ナル方法ニ依ラサルヘカラス又出品物ノ眞價ヲ發揮セシムルハ實ニ之カ陳列方法ニ依ルモノナレハ充分ノ注意ヲ拂フコトトシ又佛國側ヨリハ特ニ今回ノ博覽會ニ於テハ陳列方法ニ重キヲ置ケル旨ヲ通知シ來リ出品物ハ實用ノ狀態ニ於テ展示セラレ度ク即チ實際ニ於テ其目的用途ニ從ヒ吾人日常生活ノ裝飾トシテ總體的ニ吾人ノ目ニ觸ルルカ如クニ展示セラレンコトヲ希望シ來リ陳列方法トシテハ最好適ノ方法ナルヲ以テ此趣旨ニ依リ之ヲ實行スルコトトシ即チ日本館ハ純日本式ノ建物ナレハ其玄關客室主人室婦人室內玄關茶室及貴重品陳列場等ニ夫々適應ノ物品ヲ日本風ニ陳列スルコトトシタリ次ニグランパレノ内ノ日本部貴重品陳列場教育品日本部陳列場アンパリツド外國部内ノ日本陳列場ハ本邦流ノ意匠ニ依ル清楚ナル裝飾ヲ施シ其主要部分ニ對シテハ日本座敷ノ模型ヲ作りテ各出品物ヲ適宜陳列シ又殘餘ノ壁面其他ニハ莊麗ナル硝子張陳列棚ヲ取付ケ從來ニ於ケル農商務省工藝展覽會ニ於ケルカ如キ陳列方法ヲ採ルコトトシタリ

二、日本館ノ建築及展示 日本館建築ハ今回ノ博覽會參同ニ付テハ最重要ノ地位ヲ占ムル事業ナリキ何トナレハ博覽會々場内ニ於テ日本ヲ代表シテ大仕掛ニ展示セララルモノハ實ニ此建物ニ在リタレハナリ加カモ日本政府カ當館建築ノ爲メ佛國政府ヨリ割當ラレタル敷地ハ當博覽會正

四一



門入口直接ノ大廣場ニシテグランパレーヲ側面ニ控ヘアレキサンドル三世橋ノ入口ニ面シセー  
ヌ河ニ臨ミ當會場第一ノ絶勝ノ地域ナリ而カモ其内最優良ノ地域ヲ日本ト英國トカ相對シテ占  
ムルコトトナリ日本館ノ側面ニ白耳義館英國館ノ側面ニ伊太利館建築セラレ此等諸國館ノ後方  
ニ參加二十餘國及佛國公私團體ノ建物カ並列建設セラルルコトトナリタルモノナレハ日本館敷  
地ハ實ニ當博第一位ノ場所ナリシナリ而シテ此處ニ建設スヘキ日本館ノ設計ヲ如何ニスヘキヤ  
ハ最緊要ノ問題ナリシカ前陳ノ如ク純日本風ノ建築ヲ爲スコトニ決シ其實行ハ日本産業協會之  
ニ當ルコトニ決定シタルモ之カ設計ハ重要ノ事項ナリシヲ以テ其概略ノ設計ヲ

河津 七郎

中村 順平

山田 七五郎

ノ三氏ニ各別ニ依頼シタルカ結極本設計ハ右山田七五郎氏及建築技師宮本岩吉氏之ニ當レリ而  
シテ之カ建築ハ日本産業協會ノ管理ノ下ニ行ハレ建築家島田藤吉商店ノ請負事業トセリ

而シテ本建築ニ要セシ費用ハ決算表ニ示スカ如クナルモ當初豫算表ニ在ルカ如ク日本館建築ノ  
計畫ナカリシモノニシテ後程トナリ諸經費ヲ流用シテ當建築ヲ爲スコトニ決定シタルモノナレ  
ハ經費寡少ニシテ固ヨリ優秀ノ建築ヲ爲スヲ得サリシコトヲ遺憾トス

然レトモ博覽會場内ニ於テハ洋式建物ノ中ニ介在シ現代様式ノ希望スル簡單自然(Simple and natu-  
ral)ノ特色ヲ發揮シ又強力ナル線ノ意匠ヲ好ム時代ニ於テ本建築カ殆ント之ニ適合シタリシコ  
トハ歐洲人ノ眼ニ新鮮ナル衝動ヲ與ヘタルモノニシテ當博覽會ニ於テ實ニ第一ノ呼物トナリ大  
好評ヲ受ケタリ

三、喫茶店ノ經營 日本館敷地ノ外側ニ位スルセーヌ河畔ニアレキサンドル三世橋ニ接シテ百五  
十坪ノ懸崖地アリ英國館敷地ノ外側亦同様ニシテ日本部ト英國部トハ同シク此處ニ喫茶店ヲ經  
營スヘキコトヲ佛國政府ニ於テ希望シ英國部之ヲ實行セルヲ以テ日本部ニ於テモ之ヲ放置シ難  
ク又他國人ノ建築ニ委スルコトヲ得サル事情トナレリ然レトモ當建築ニ要スル豫算ノ計上ナク  
又流用スヘキ金額モ無キヲ以テ已ムヲ得ス對歐貿易ニ干係アル商社ノ出捐ニ依リ本建築ヲ爲サ  
ントスル目論見トシ諸社ニ勸誘スルコトトシタルニ幸ニ諸社ニ於テハ之ニ賛同シ又臺灣總督府  
ハ烏龍茶ノ販路擴張ニ資スルニ於テハ支出スヘントノ意見ナリシヲ以テ同喫茶店內ニ於テ烏龍  
茶ノ提供ヲ爲スコトトシ其出捐ヲ得タリ而シテ右諸商社ノ出捐ニ付テハ協贊會ヲ組織スルコト  
トシ又臺灣總督府ハ日本産業協會ニ對シ補助金ヲ交付スルコトトセリ其會則及出捐人名左ノ如  
シ

巴里萬國裝飾美術工藝博覽會協贊會設立趣旨

明年四月十五日ヨリ十月十五日迄半歲間佛國巴里市ニ開催セラルル萬國裝飾美術工藝博覽會

(Exposition International des Arts Décoratifs et Industriels Modernes) ハ殆ント全世界諸國ノ參同スル所ニシ

テ日本政府亦彼我貿易ノ伸張ニ資セン爲曩ニ之ニ參同スルニ決シ諸準備殆ント整ヘリ而シテ本  
邦政府ノ建築スル日本館ノ位置ハ當博覽會場内ニ於テ最優ノ場所ニ屬セリ然ルニ其前庭百五十  
坪ハアレキサンドル三世橋ニ接シセーヌ河畔ニ在リテ目下本邦政府ノ留保セル所ナルカ茲ニ清  
楚ナル日本休息所ヲ設置シテ一般觀覽者ノ休息ニ當ツルハ本邦出品ヲシテ益々光輝アラシメ且



各國人ニ日本ノ微意ヲ示スモノニシテ最機宜ニ適セル施設ト認ムルヲ以テ對歐貿易ニ關係アル者相謀リテ右實現ニ努メ尙此機會ニ際シ印刷物ヲ配付スル等本邦參同ノ目的ノ達成ニ資セントス而シテ本件ノ實行ハ時日モ切迫セル折柄ナルヲ以テ政府カ出品團體トシテ指定セル日本産業協會ニ之ヲ委囑セントス

巴里萬國裝飾美術工藝博覽會協贊會規則

第一條 本會ハ巴里萬國裝飾美術工藝博覽會協贊會ト稱ス

第二條 本會事務所ハ當分日本産業協會内ニ置ク

第三條 本會ハ巴里萬國裝飾美術工藝博覽會日本參同事業ヲ協贊シ之ヲ援助スルヲ以テ目的トス

第四條 本會員ハ本會ノ目的ヲ贊助シ金壹千圓以上ヲ寄附スル者ヲ以テ組織ス

第五條 本會ニ於テ施設スル事業ノ概目左ノ如シ

一、セーヌ河畔ニ日本休息所ヲ設置シ觀覽者ノ使用ニ開放スルコト

二、印刷物ヲ刊行シ之ヲ配付スルコト

三、其他必要ト認ムル事項ヲ遂行スルコト

第六條 本會ノ事業ハ之ヲ政府ヨリ出品團體トシテ指定セラレタル日本産業協會ニ委囑スルモノトス

第七條 會務ノ經過狀況及收支決算ハ之ヲ報告ス

第八條 本會ハ所期ノ目的ヲ達シタル後之ヲ解散ス

附 則

第九條 本會ニ屬スル事務ハ當博覽會政府參同事務主任農商務書記官タル佐々木茂枝氏ニ處理セシムルモノトス

協贊會員名簿

出 資 額	氏 名
一金 一萬圓	三菱合資會社
一金 一萬圓	三井物產株式會社
一金 二萬圓	日本郵船株式會社
一金 二萬圓	大倉商事株式會社
一金 一萬圓	御木本幸吉
一金 一萬圓	堀越商會
一金 一萬圓	株式會社高島屋吳服店
一金 一萬圓	原合名會社
一金 二萬圓	橫濱正金銀行
一金 一萬圓	伴野文三郎
一金 二萬圓	日佛銀行



一金 一 千 圓  
 一金 二 千 圓  
 一金 一 千 圓  
 一金 一 千 圓

住友銀行  
 安田銀行  
 大阪商船株式會社  
 茶業組合中央會  
 大谷嘉兵衛

備考 茶業組合中央會大谷嘉兵衛氏ハ前記金額ノ外日本綠茶八十封度入十箱土瓶百個茶碗六百個ヲ寄贈セラレタリ

而シテ當建築ハ日本産業協會ノ管理ノ下ニ行ハルルコトトシ其ノ設計ハ建築技師宮本岩吉氏及島田藤吉商店ヲシテ之ニ當ラシムルコトトシタリ即チ懸崖上ニ完丈ナル木組床工事ヲ施行シ之ニコンクリーヲ敷詰メ周圍ニハ欄干ヲ廻ラシ其敷地ノ大半ニ外形日本様式ノレストウランヲ建築シ他ノ半部ノ中央ニ日本東屋様式ノ喫茶店ヲ建設シ外部ハ各清楚ナル色彩ヲ以テペンキ塗トシ内部ハ木地ノ儘トシ西洋家具ヲ容レ洋式經營トナシタリ且ツイルミネーションヲ點シ其他ノ彩光ハ日本提燈ノ優良品ヲ用ヒタルカ一種ノ情景味ヲ有シタリ而シテ之カ經營者ハ右協贊會員ノ歐洲ニ於ケル支店長其他ノ諸氏ノ集會ヲ求メテ倫敦湖月日本料理店主川村泉及巴里市グラモン、カフエー主ブローノ二氏ニ經營セシムルコトトシタルカ其内容ハ右川村氏ハ日本食ヲブロー氏ハ洋食ヲ擔當シ茶ハ烏龍茶及綠茶ノミヲ提供宣傳スルコトトシタリ而シテ右東屋喫茶店ニ於テハ茶ノミヲ提供シ又烏龍茶ニ付テハ多量ノ宣傳ビラヲ印刷シテ之カ配布宣傳ニ努メタルカ來客豫想ニ數倍スルノ好況ヲ呈シ當初會期六ヶ月間ニテ二十萬法ノ賣上ヲ豫想セシモノ實ニ當初

ノ一ヶ月間ニテ二十五萬法ニ垂ントスルノ状態ヲ呈シタリ是レ全ク同店ハセーヌ河上ニ架セラレ日本流ノ情景ト相俟チアレキサンダー橋並河中及對岸等ノイルミネーション並噴水等ノ諸設備ヲ眼前ニ控ヘ夏ノ頃ハ涼風アリ絶好ノ地域ヲ占メタルニモ原因スヘシ  
 四、即賣店ノ經營 アンパリド外國館ノ側面ニ即賣店敷地ヲ得茲ニ日本商品ノ即賣ヲ爲スコトトシ日本産業協會之ヲ擔任セルカ最初即賣スヘキ物品ノ選定ニ付テ顧慮セラレタリ即チ從來本邦ヨリ歐洲諸國ニ輸出シ來レル商品ハ生糸、羽二重等自ラ一定シ又日常使用品ノ如キハ概ネ歐洲ノ模倣品又ハ劣等品ニシテ逆ニ此等商品ヲ歐洲ニ輸出スルコトハ頗ル困難ノ事情ニ在ルニ鑑ミ今回ノ即賣品ハ大體目標ヲ本邦特産品ト定メタリ又當博覽會ハ裝飾美術工藝博覽會ナルニ鑑ミ工藝品ノミヲ即賣スルコトトシタリ即チ當省ニ於テ各府縣ニ於ケル名産工藝品ノ種類ヲ定メ各地方廳ニ依頼シテ即賣品ヲ出スヘキ商人ノ具體的名簿ヲ決定スルコトヲ依頼セリ而シテ其決定シタルモノ左ノ如シ

即賣出品者名簿		府縣	氏名
出品ノ種類	東 京	榑原直次郎	
書翰紙、カード、團扇、千代紙、扇子、提燈	東 京	榑原直次郎	
木 版 畫	同	日本木版印刷株式會社	
同	同	渡邊庄三郎	
象 牙 細 工	東 京	中村證三	















於テ之ヲ處理シ豫算ノ編成、參同計畫ノ樹立又其實施等總テ同局ニ於テ執掌セラレ商事課長主トシテ其任ニ當レリ然レトモ其具體的事務即チ建築事務、裝飾事務、出品物ノ輸送、通關、陳列事務、販賣事務並監視事務等ハ學テ之ヲ日本産業協會ニ委囑スルコトニ決定セラレタリ而シテ佛國ニ於ケル政府事務ハ日本産業協會ノ事務監督、佛國政府及佛國博覽會事務局等トノ交渉事務、出品物ノ審査事務等政府トシテ處理スヘキ事務ニ膺ルヘキコトトナリ當省ヨリハ當時商事課長タリシ商工書記官佐々木茂枝氏派遣セララルコトニ決定シ尙前農商務技師青木利三郎氏當省囑託トシテ同件シタリ佐々木書記官ハ大正十四年一月青木囑託ハ同年二月内地ヲ出發シ着巴勿々準備事業ニ從事シ又日本産業協會ヨリハ之ヨリ先大正十三年十一月同會囑託中村祥太郎氏ヲ巴里市ニ派遣シ準備事務ニ當ラシメ又佐々木書記官青木囑託ト前後又ハ同行シテ同會主事佐々木綱雄氏書記大木操氏、生田義人氏及山本光雄氏ノ四名ヲ派遣シタリ而シテ佛國ニ於ケル日本側事務組織ハ萬國博覽會ノ慣例ニ依リ左記ノ如ク組織スルコトトシ大使館ヲ通シテ佛國政府ニ届出テ博覽會事務ヲ執掌スルコトトナリタリ

日本部事務局 (Commissariat General de la Section Japonaise)	
事務長 (Commissaire General)	商工書記官 佐々木茂枝
事務次長 (Commissaire General adjoint)	商工省及日本産業協會囑託 中村祥太郎
技術顧問 (Technique Conseiller)	商工省 囑託 青木利三郎
書記長 (Secrétaire General)	日本産業協會主事 佐々木綱雄

書記 (Secrétaire)	同	協會書記 生田義人
同 ( " )	同	大木操
同 ( " )	同	山本光雄
別ニ當時在佛大使館及巴里市在留ノ左記諸氏ニ事務ヲ委囑スルコトトシタリ		
參 與 (Conciller)	大使館參事官 松島肇	
同 (Conciller)	大使館理事官 森山隆介	
技術顧問 (Technique Conseiller)	商工省博覽會事務囑託 棚橋源太郎	
同 ( " )	同 東京美術學校教授 津田信夫	
同 ( " )	同 森田菊次郎	
庶務書記 (Secrétaire)	同 赤松秀景	

而シテ政府事務トシテハ四月一日ヨリ 3. Square du Trocadero ニ事務所 (Commissariat General de la Section Japonaise) ヲ設ケ事務ヲ執掌シタリ即チ此處ニ出勤執務シタルハ佐々木書記官青木囑託中村囑託赤松囑託及雇傭シタル翻譯雇シユヲブ氏、タイピスト、マラレ嬢、自働車運轉手ミリマノフ、小使小林悟平ノ八名ナリキ而シテ日本産業協會ハ別ニ事務所ヲ 25, Avenue Carnot ニ設置シ出張所ヲ博覽會日本館内ノ一室ニ設置シ同協會ハ佛國ニ於ケル同會主幹トシテ佐々木綱雄氏ヲ派遣シタルヲ以テ同氏主宰ノ下ニ協會事務ヲ執掌シタリ尙日本館ノ階上ハ右産業協會出張事務所ノ外別ニ迎賓室二室ヲ有セシヲ以テ政府事務員ハ必要ニ應シ此處ニ出勤シテ其事務ニ當レルモノナリ



右ノ組織ニ依リ事務ヲ執掌スルコトトシタルカ當時佐々木商工書記官ヨリ商務局長ニ宛テタル報告ハ其前後ノ事務情況ヲ記述セルモノナルヲ以テ其概要ヲ左ニ掲グルコトトセリ

佐々木書記官報告(大正十四年四月十五日付)摘録

小官儀一月二日東京出發豫定ヨリ二日早ク二月十二日マルセイユニ到着十三日巴里市ニ到着シタリ當時博覽會諸般ノ事務ハ總テ未決定ノ状態ニアリ早速石井大使ヲ訪問シタルニ同大使ノ談ニヨレハ數日前大統領ヅーメルグ氏トノ會見ニ大統領ヨリ日本政府ハ當博覽會ニ參同ノ意思ヲ表示シナカラ何等ノ工事ニモ着手セサルカ如何ト問ハレタリトテ甚心配セントノ談話アリ而シテ參加セル日本以外ノ二十一國ハ早クヨリ工事ニ着手シ何レモ工事ノ過半ヲ竣成セル際ナルニ拘ラス日本政府ハ他國ニ比シ樞要ナル最大地域ヲ占領シナカラ何等ノ工事ヲ爲サス全ク放置セルヲ以テ大統領モ一寸心配トナリシハ尤ノコトナリト謂フヘシ

然レトモ小官到着ノ翌日頃ヨリ日本館建築材料現場ニ搬入セラレ之ヨリ十數日前産業協會大木書記棟梁ヲ加ヘテ十二名ノ職工ヲ引卒シ既ニ來着シ居リテ工事着手ヲ俟テルアリ恰好小官來着スルヤ否ヤ工事ヲ開始シタル處既ニ日本ニテ切組ミタルモノナルヲ以テ同建築ノ迅速ナルコト全ク豫想外ニテ外國館ノ遅マトシテ煉瓦積又ハコンクリート工事ヲ爲スニ比シ雲泥ノ差アリ一寸一般人ヲ驚カシタル有様ニテ或ハ博覽會事務局幹部ヨリ或ハ列國事務官長ヨリ或ハ大使館員ヨリ其機敏ナルコトノ推賞ヲ亂射セラレ小官ハ甚タ面目ヲ施シタリ目下ノ状態ニテハ日本ハ當博内ノ工事ニ於テハ決シテ他國ニ後ルルコトナカルヘシ御安心ヲ乞フ次ニ博覽會事務ノ進捗模

様ニ付略記スレハ左ノ如シ

一、日本館ニ關スル件 日本館材料ハ十二月十八日横濱出帆ノ箱崎丸ニテ内地ヲ積出シ二月七日マルセイユ港ニ着シタルモ汽車便及市内運搬ノ都合上建築場所ニ搬入セラレタルハ二月十四日ナリキ而シテ地形ノミハ既ニ出來上リ居リタルヲ以テ直ニ建築ニ着シタル處是ヨリ約一週日ニシテ家屋ノ形體ヲ整フルニ至リ着マトシテ工事進捗セリ本館ハ純日本式ノ木造住宅ニシテ外部ハ壁甚タ少ク其大部分ハ木材ニシテ總テ木地ヲ表ハシ天然樺地ヲ巧ニ利用シテ色彩ノ調和ヲ圖リタルニ特色アリ又成ルヘク曲線ヲ避ケテ直線ヲ巧ニ應用シタルニ特色ヲ有シ佛國及列國館カ總テ歐風ニシテ着色セルニ反シ日本館ハ至極ブリミチーブナル點ニ於テ歐洲人ノ好奇心ヲ唆リ驚異ノ眼ヲ以テ眺メラレ觀覽人ノ雲集スルニ至リ日本館ハ博覽會建物中ニ於テ最好評ヲ博スルコトトナリ斬然頭角ヲ表ハスコトトナリタルハ寧ロ幸ト謂フヘシ

次ニ本館ノ庭園ハ日本ニテ設計シ之ニ要スル樹木、燈籠等ヲ持參シタルモ其中樹木ニ付テハ航海中日數過大ニシテ其三分ノ二ヲ枯死セシメ主要樹木ヲ失ヒタルハ甚残念ナリ之ヲ以テ約千圓ヲ支出シテ當地ニテ植木ヲ購入補充シ稍共設計ヲ變更シテ當初ノ計畫ニ準シ庭園ヲ竣功シタルカ是レ亦幸ニ相當ノ形式ヲ整フルコトヲ得タリ

二、セーヌ河畔利用ニ關スル件 日本館敷地ノ前セーヌ河畔ノ懸崖上ニ百五十坪ノ掛出シ工事ヲ爲シ或種ノ設備ヲ爲スヤ否ヤハ經費ニ至大ノ關係アリ日本ニ於テハ既ニ豫定外日本館建築ニ九萬五千圓ヲ投シタル後ナルヲ以テ之カ實行ハ容易ナラサルモノアリ大ニ躊躇シタル處ナル



カ佛國大使ヨリ四圍ノ事情ニ依リ實行セサルヘカラサル事情アリトテ之カ實施ヲ迫ラレタルニ依リ遂ニ背水ノ陣ヲ構ヘテ歐洲關係實業家ノ義捐ヲ促シ協贊會ヲ組織シテ三萬四千圓、臺灣總督府ヨリ一萬圓、合計四萬四千圓ノ義捐金ヲ集メタルハ御承知ノ通ナリ此事ノ設計及實行ニ付テハ舊蠟内地ニ於テ島藤本店ト契約シタル處ナリシカ小官到着ノ日迄島藤本店ヨリノ書狀未タ當地ニ到着シ居ラス小官到着ノ日迄大使ヲ始メトシテ關係者皆非常ニ心配中ナリキ小官到着スルヤ其心配ヲ訴ヘラレ直ニ本件實行ニ着手シタル處難工事ニシテ英國ノ既ニ工事ヲ爲セルニ徴シ其經費五萬圓ヲ超ユヘント云フニ至リテ再ヒ困難ニ逢着シタリ即チ關係者相集リテ鳩首協議シ電車道ノ直上ニ位スル難工事ヲ避ケ鐵骨工事ヲ全部木材組ニ變更シテ漸ク寄附金ノ範圍内ニテ二月二十日床工事一萬七千五百圓、上屋建築費一萬二千圓、電氣其他ノ設備費五千二百四十圓ノ工事請負契約ヲ完了スルヲ得直ニ工事ニ着手スルヲ得ルニ至リタルハ幸ナリキ而シテ今日ニ於テハ床工事ハ既ニ完成シ上屋其他ハ建築中ニシテ開館日迄ニハ竣成ノ見込充分ナリ

本掛出ヲ何ニ利用スヘキヤハ又一ノ問題トナレリ本掛出建設ノ目的ハ外國ヨリ本敷地ヲ占有セラレ或種ノ建設ヲ爲サルトキハ日本館ハ全ク之ニ蔽ハルルコトナリ全ク存在ノ價値ナキニ至ルヲ虞レタルモノナリ之ニ反シ日本ニテ本掛出ヲ爲スニ於テハ日本館ヲシテ一層ノ光輝アラシムルニ在リタリ故ニ本掛出ノ利用方法ニ付テハ何ニ之ヲ使用スルトモ實ハ重大ノ事項ニハアラサリキ而シテ小生日本出發ノ際ハ之ヲ一般觀覽人ノ無料休息所ニ充當スルノ考案ヲ

有セリ着佛後調査シタルニ列國共掛出ハ恰ント料理店ニ利用シアリ又本掛出ノ利用ヲ佛國ヨリ申出テタルハアレキサンダー三世橋ヲ狹ミテ英國料理店ト兩々料理店ヲ以テ相對セシメントノ希望ナリキ又大使館及在佛協贊會代表者等ニテモ料理店ニ同意ナルヲ以テ本掛出ノ利用方法トシテハ之ヲ料理店ト爲スコトニ決シ其中四十八坪ノ建物ハ之ヲ日本食及洋食ノ料理店トシ又九坪ノ建物ハ臺灣喫茶店ト爲スコトニ定メタリ次ニ料理店ノ經營者ヲ誰トスヘキヤハ又一ノ問題ナリキ而シテ本掛出工事ハ協贊會員ノ義捐ニ成リタルモノニシテ又小官出發前同會員ノ意見ハ各歐洲代表者ノ意見ニ依ルモノト承認ヲ受ケ置キタルヲ以テ當地ニ於テ大使館ニ協贊會員ノ會合ヲ求メ兩度ノ協議ニテロンドン日本料理店湖月ノ經營者河村泉ヲ經營者ト定メ巴里市屈指ノ料理店經營者佛國人エル、ル、ブランジヤトシテ之ヲ補佐經營セシムルコトニ決定シ詳細ナル經營條件ヲ定メテ既ニ契約ヲ了シ準備進捗中ナリ

三、出品物ノ陳列ニ關スル件 出品物ハ内地ニ於テ豫定計畫ノ通準備進捗シ一月二十九日横濱出帆ノ榛名丸ニテ積出シ三月十三日マルセイユ港ニ到着シ直ニ陸上ケ運搬ヲ爲シ巴里市ニ到着シタルハ三月二十二日ニシテ開期迄ニハ充分ノ期間アリ好都合ナリシカ出品物ノ陳列場所ノ造營ニ付テハ容易ナラサルモノアリタリ即チ佛國政府ト大使館トノ交渉ニ依リ日本ニ割當ラレタルグランバレー階上階下計百二十二坪及アンバリット五十八坪ハ内地ニテノ推測ニテハ美麗ナル建物ニシテ天井、壁面及床共何等修飾ヲ要セサルモノトシ單ニ陳列棚ヲ据付クルヲ以テ足ルモノトシテ計畫セリ然ルニ現場ヲ實見スルニ案ニ相異シ天井、壁面及床共古汚セルバラ



ツクニシテ腐蝕材又ハ素地露出シ驚クノ外ナキノ状態ナリ蓋シ當博覽會開催ノ趣旨ハ主トシテ裝飾技術ノ展覽ニ在ルヲ以テ斯ル形體ニテ之ヲ出品者ニ渡シ出品者ヲシテ何レモ出品物トシテ天井壁面床及家具等ヲ系統的ニ調和アリ合理的ニシテ且ツ現代生活ノ條件ニ合致スル様裝飾競技セシメントノ意向ナレハ斯ル形體ニテ之ヲ出品者ニ渡スモノナルコト判明シタリ是レヲ以テ日本トシテモ單ニ陳列棚ノ据付ノミヲ以テシテハ全ク出陳スルコトヲ得サルコトトナリタルヲ以テ先以テ陳列方策ヲ樹ツルコトトシ種々研究ノ結果前記三ヶ所ハ何レモ薄布ヲ以テ天井ヲ張り薄色ノ色布ヲ以テ壁面ヲ裝飾シ床ハ敷物ヲ以テ之ヲ蔽ヒ豫定計畫ノ陳列棚ハ概ネ壁面ヲ利用スルコトトシ主要部分ニハ日本風住宅又ハ商店ノ商品展示場ノ各一部ヲ建造シ此中ニ本邦出品物ヲ適宜陳列シテ一ハ生活様式ヲ示シ一ハ店飾ノ態形ヲ示スコトトシ直ニ實行ニ着手シタルカ今日ニテハ改定計畫ノ通完成セントシツツアリ

四、佛國事務總長及列國事務長トノ交渉其他ニ關スル件 當博佛國事務總長ハ前商工大臣フェルナンド、ダビツト氏ナリ小官到着後直ニ面會シテ宜敷日本部ノタメ盡力ヲ依頼シ又同氏及同局員ヲ巴里一流ノ料理店ホテルリツツニ招待シ石井大使其他大使館幹部及三菱三井ノ支店長等ノ列席ヲ請ヒタルカ幸ニ全部出席セラレ小官ハ博覽會參同ノ趣旨及助力ヲ求ムル挨拶ヲナシタルニ總長ダビツト氏ノ答辭アリタリ次ニダビツト氏ハ返禮ノ意味ニテ巴里一等ノ料理店カフェードパリスニ石井大使及小官等ヲ招待シ兩方共其他ノ者モ列席シ響應ヲ受ケタリ又列國事務主任ハダビツト氏同様事務總長ノ名稱ヲ與ヘラレ小生ハ日本事務總長ノ名稱ヲ與ヘラレ

タリ列國事務總長ノ數ハ廿二名ニシテ每週又ハ二週ニ一回事務總長會議行ハレ小官ハ一回モ缺席セス出席シ來レリ本會議ハ恰カモ外交團ノ如キモノニシテ佛國事務局ニ對シ博覽會ニ關スル交渉ヲ爲シ細大ノ事件ニ付意見ヲ提出シテ之ヲ主張シ又ハ列國機會均等ノ事ヲ議シツツアリ今日迄ノ問題ハ開館日ノ延期問題、列國事務員ノ待遇問題、看守問題、入場券問題、建築條件問題等掲クルニ暇ナシト雖モ最モ永ク解決セサリシハ保險問題ト露西亞事務長ヲ本會議ニ參同セシムルカノ問題ナリシ後者ハ日本及チツコスラバキヤノ贊同ニ依リ遂ニ列國ノ許容スル所トナリ加入スルニ至リ保險問題トハ博覽會規則ニ建築物及出品物ノ保險ハ各出品者ノ自由トスヘキ旨規定シ列國ニ通牒シ置キナカラ事務局ハ勝手ニ列國ノ知ラサル間ニ事務局ノ承認スル保險會社ト必ス契約スヘシト改定シテ其旨ヲ本年一月ニ至リ通牒シタルヲ以テ問題ヲ惹起シ列國ハ斯ル勝手ナル改定ハ承認スルヲ得ストナシ強硬ノ談判ヲナシタルモ遂ニ解決セス列國トモ概ネ佛國事務局ニ屈シタリ日本ハ未タ會場内保險ハ何者ニモ附シアラス又佛國法律ニ依ル日本保險會社ニシテ之ト契約セサレハ振合惡シキ會社モナケレハ一度ハ佛國事務局ノ改定規則ニ反對シタルモ今日ニ於テハ多數國ト共ニ之ヲ承認シテ保險ヲ附スルコトトシ準備中ナリ日本ハ始メヨリ本問題ニハ利害關係薄ク敢テ強硬ノ主張ヲナササリシ次第ナリ尙現在ニ於テ問題トナレルハ列國部開館式日ノ問題ナリ始メ伊太利ハ廿八日ノ當博覽會ノ開館式當日ニ於テ大統領ノ列席ヲ求メテ之ヲ舉ケントシ英國、日本及白耳義ノ三國同日ニ之ヲ舉ケントシタル處他ノ十八ヶ國ノ反對アリ大統領ハ開館本式當日ハ外國館ニハ臨場セスシテ佛國部ノミ



或ハ巡覽スヘシト公表スルニ至リタルヲ以テ白耳義先ツ延期ヲ聲明スルニ至リ日本ハ大統領ノ臨場ヲ得テ右開館本式日ニ開館式ヲ行ハント交渉シタルモ目的ヲ達セス故ニ今後英國伊太利等ト相談シテ兎ニ角大統領ノ臨場ヲ得ル様努力セントス其他佛國事務局トノ交渉事項ハ日々絶エサル所ニシテ本博覽會ニ關スル事件ニ付テハ列國ハ必ス代表者ヲ定メ代表者ノ事務局ヲ作リテ佛國事務局ト交渉スヘキコトトナリ居レルヲ以テ日本部ニ於テハ小官ヲ事務長トシ次長ニ中村祥太郎氏書記長ニ佐々木綱雄氏技術顧問ニ青木利三郎氏ヲ充テ大使館參事官松島肇氏同理事官森山隆介氏之ニ參加補助スルモノトシテ事務所ヲ組織シ届出テ交渉シツツアリ

五、經費ニ關スル件 本博覽會ニ關スル本邦豫算ハ日本館及掛出工事ノ建築ヲ爲ササルモノトシテ編成シタルモノナル處此二大工事ヲ實行スルコトトナリ掛出工事ハ幸ニ協贊會事業トシテ之ヲ實施スルコトトナリタルモ全體ヲ通シ經費ニ不足ヲ告ケ到底本博覽會費ヲ支辨シ得サル科目ニ陥リタルモノナリ小官着佛以來ノ概況ヲ以テスレハ巴里ニ於ケル物價ハ第一本邦圓價ノ下落ニ依リ二割方削除ヲ受ケタルト同然ニシテ又元來佛國ニテハ法價下落セルモ之ニ反シ物價ハ甚騰貴シ居リテ何物ニ限ラス内地ニテ想像セルヨリモ頗ル高價ナリ本博覽會費トシテハ全ク豫備金ヲ有セサルニ拘ハラス前述ノグランパレー及アンパリツト内ノ裝飾建築アリ又日本館ニ於テモ植木二千圓ヲ枯死セシメタル外觀覽道路土固メ下水水道便所等豫定外ノ經費多大ナルノ外豫算セル電燈費又ハ裝飾費等ハ殆ント實費ノ一部分ヲ支辨シ得ルノ状態ナリ故ニ各方面ニ亘リ節約ヲ旨トスルト共ニ外國ニ劣ラサル陳列振ヲ示スニ努力シタルカ結極經費

不足スルヲ以テ已ムヲ得ス協贊會費ヨリ差當リ七千圓(結極一萬六千圓)ヲ割キテ産業協會ニ渡シ此等經費ノ不足ヲ補ハシメ辛シテ豫定行動ヲ採リ得ルニ至リシモノナリ今日ト雖トモ日々經費ヲ要スル事項累加シツツアリ例ヘハ日本側下面電車上ニ危險豫防壁ヲ作ル必要アリ其經費ノ三分ノ一ノ負擔ノ已ムナキニ至レルカ如キ或ハ日本國旗ノ掲揚ニ英國伊太利白耳義及日本同形ノ大國旗ヲ樹立スルノ已ムナキニ至レルカ如キ或ハ日本館建築ノ爲メ道路ノ破壊修繕費ヲ負擔セシメラレタルカ如キ日々經費ヲ要スル事業添加シ來リツツアリ今後ト雖經費ノ增高ハ豫測シ得サルモノアルヘキヤ明ナリ何卒産業協會々長ニ對シ可成内地費ヲ節約シテ少額ニテモ之ヲ外國費ニ轉シ同會出張所ニ御送金アランコトヲ交渉アランコトヲ切望ス次ニ本省費外國費ニ於テモ十三年度經費ニハ外國費ハ旅費ノ外皆無ナル處事務所ハ事實二月十五日ヨリ開始シ人件費事務所費等ニ多額ヲ要シタリ又自動車ハ新調シテ持歸ル約束ナレハ既ニ當地三菱支店ヨリゾーデオンブートン會社ノ上品ヲ豫算一杯ノ七千圓ニテ購入契約済ナリ其他産業協會ニテハ接待費三千圓中二千餘百圓ヲ既ニ他ニ流用シタルヲ以テ開館式ノ舉行大接待等ハ自然本省費ニテ受持ツヲ要シ又産業協會擔任ノ配付用印刷書籍モ六月ニナラサレハ到着セサル關係上本省費ニテ當事務所ニテ新ニ調製シ開館式ニ配布スルノ必要ニ迫ラレ現ニ調製ヲ了シタレハ印刷所ニ見積ヲ求メ中ナリ産業協會ハ本費トシテ二千圓ヲ使用シ日本ニテ印刷ニ付セルモノカ四月二十五日ニ非レハ出來上ラス六月中旬ニ到着スルトモ實ハ其効少ナカルヘシト謂フヘシ而シテ當方ニテハ新ニ調製スルノ苦心ト多額ノ經費ヲ空費スルノ結果トナレ



リ前記ノ如キ状態ニシテ本省費モ亦決シテ餘裕ナク愈々ノ場合ニハ産業協會ヲ補助スルノ必要アルヲ以テ外國費ハ全部御送金アラシコトヲ願望ス 以上

右ノ如ク本邦側ハ極力準備事業ノ進捗ヲ圖リタルカ參加列國ハ概ネ準備事業豫定ノ如ク進捗セズ到底開館豫定ノ四月十五日迄ニハ其準備整ハサル見込トナリタルヲ以テ列國事務長會議ハ佛國事務局ニ對シ開館日ノ延期ヲ迫ルニ至レリ佛國側モ亦其事情已ムヲ得サルモノトシ開館日ヲ延期シテ四月二十八日ト定メタリ本邦側ニ於テモ事業ノ進捗程度ニ照シ延期ノ方好都合ナリシモ益々準備完成ニ努力シタル結果四月二十八日迄ニハ日本部ノ開館ヲ爲シ得ルコトトナレリ而シテ同日即チ千九百二十五年四月二十八日ニハ當博覽會ノ大開館式舉行セラレ當日ヲ以テ開館日ト定メラレタルカ故ニ既ニ準備整ヒタル日本部ハ同日ヨリ之ヲ開キテ一般ノ觀覽ニ供シタリ然ルニ當博覽會中ニ於テ開館日後數日間ニ於テ一般ノ觀覽ニ供シ得タルハ佛國側ニ於テ巴里市館、グランパレーノ一部外國側ニ於テハ唯日本部アリタルノミニシテ日本部カ率先シテ所定ノ期日ニ開館シタルハ一般ノ推賞ヲ受ケタル所ナリ而シテ日本部ノ受ケタル批評ニ付テハ當時佐々木商工書記官ヨリノ報告ノ概要左ノ如シ

巴里裝飾博ニ於ケル日本部ノ批評

在巴里 商工書記官 佐々木 茂 枝

巴里萬國現代裝飾美術工藝博覽會ハ本年四月下旬ニ開催セラレ今ヤ全部整頓シテ入場者多キ日ハ數十萬ヲ算シ頗ル盛況ヲ呈シテ居ル佛國ニテハ去ル千九百年ノ博覽會以來初メテノ萬國博覽

會テアルカラ充分ノ人氣ヲ呼ンテ居ル當博ニ參加セル外國ノ數ハ二十二ヶ國ノ多數ニ及ヒ各自特設館ヲ建築シ又陳列場ヲ設ケテ居ル又地方團體及會社等ノ建築物ト陳列場トカアリナカナカ盛大ナモノテアル併シ當博覽會ハ裝飾工藝裝飾工業ノ博覽會テアツテ出陳セラレタ建築物ヤ出品物ハ悉ク裝飾術ノ世界的競争ニ打勝タントスル意氣ヲ示シ各國部共最優秀ノ裝飾技術ト裝飾品トヲ以テ充實サレ眞ニ驚嘆スヘキ一大美觀ヲ呈シテ居ル而シテ茲ニ注意スヘキコトノ一ツハ當博覽會ノ出品ハ現代的ノモノニ限ツタコトテアル何カ現代技術カ此ノ解釋ハ至難ノモノテアラウ現代ト謂フコトハ或ハ從來無カツタモノテ全ク新シイ試ミト解スルカ或ハ傳統的ノモノテモ之レニ或種ノ新シキ試ミヲ附加スレハ差支ナイト解スルカ或ハ五年前三年前ノ流行物テアツテモ今ハ更ニ新シイ流行トナレルモノナレハ新シイト解スルカ或ハ廣ク古來ヨリ傳統的ノモノテアツテモ新シイ作品ナレハ現代的ト解スルカ之ヲ定ムルコトハ困難テアラウカ兎ニ角現代裝飾術ノ發現テナクテハナラヌ次ニ裝飾術ノ競争ト謂フコトハ單ニ綺麗ナモノ、金高ノモノ、精巧ナモノヲ以テ争フコトテナイコトハ勿論テアルカ同時ニ可成廉價ノモノテ裝飾ノ優秀ナルヲ競フコトカ肝要テアル據テ日本部ハ何ヨリ成ツテ居ルカト謂フト日本館、日本喫茶店、グランパレー裝飾品部陳列場、同上教育部陳列場、アンパリット家具部陳列場及即賣店ノ七ヶ所ニ別レテ居ル兎ニ角日本部ハ陳列面積ニ於テ又出品點數ニ於テ佛國部ヲ除キテハ英國及伊太利ト匹敵シ白耳義ヲ加ヘテ當博覽會ニ於テ四大國部ト稱セラレテ居ル

日本館ハ當博正門入口ノ廣場即チ當博ニ於ケル絶勝ノ地域ノ一角ニ在ツテ英國館ト相對シ其ノ



側面ニ伊太利館ト白耳義館トカ相對シ四國館ニテ右大廣場ヲ擁シ英國館ト日本館トカセトヌ河  
畔ニ臨ムテ居ル其ノ各後方ニ約三十ノ外國館ヤ殖民館等カ並列シ一大偉觀ヲ呈シテ居ル而シテ  
此ノ日本館ヲ列國人ハ如何ニ見テ居ルカ如何ニ批判シテ居ルカト謂フコトヲ赤裸々ニ知ルコト  
ハ日本ト云フ立場カラシテ重要ノコトテアラウト思フゾレテ當地ノ新聞雜誌ノ批評ヲ最モ公平  
ニ紹介シタイ先ツ日本館ハ如何ナルモノテアルカヲ先ニ述ヘテ置ク必要カアル日本館ハ純日本  
式ノ檜杉等ノ白木作りノ凝ツタ建築テ主家寶物陳列場及茶室ノ三棟カラ成ツテ居ツテ純日本式  
ノ庭園ヲ中庭トシテ居ル而シテ其ノ内ニ客室主人室夫人室玄關等ヲ設ケ本邦一流作家ノ作りタ  
ル純日本式家具其他ノ裝飾品ヲ以テ純日本流ニ裝飾シテアル之ヲ參觀スル人ハ毎日數萬ヲ下ラ  
ヌカ見ル人ハ悉ク感心シテ何ンテイインタラウ何ンテイインタラウ佛語テトレジヨリトレビ  
ヤントレボント推賞セヌ人ハ一人モナイ程テアル全ク關係者ハ稱讚ノ言葉ニ驚イテシマツタ程  
テアル日本人ト謂フ日本人ハ外國人カラ皆日本館稱讚ノ辭ヲ受ケル石井大使モ方々カラ褒メラ  
レ大變ナモノト謂ハレ小生モ同様テスト云ツタ調子テアル列國事務官長會議カ各週開カレル  
其ノ議長ハ謂ツタ日本館ハ實ニ宜シイ非常ナ成功テアル夫ト謂フノハ全ク純日本式ノ物ヲ出サ  
レタカラテアルト來巴ノ獨逸ヤ埃太利ノプロフェツサーハ謂ツタ日本館ハ夫レ自身カ一ノ美術  
テアルト併シ我々ハ問訊サナケレハナラヌ何故ニ善イノカト彼等ハ謂フ歐洲ノ裝飾美術ハ從來  
ヨリ形ニ於テ色ニ於テ精巧ニ精巧ヲ加ヘテ今ヤ殆ト行詰ツタ状態テアル此ノ上考ヘレハ考フル  
程無駄骨折テアツテヤヤモスルト變ナモノニナル虞カアル夫テ今ハ原始的ナ單純ナ傾向ニ向ヒ

ツツアルテハナイカ又機械工業カ著シク進歩シ何物モ機械製品許リテハナイカ夫テ歐洲人ハ貴  
重ノ物トシテハ手工品ヲ喜フ又手工品テナケレハ本當ニ善イモノハ出來ナイテハナイカ日本館  
ハ全部手工カラ出來テ居テ單純高尚テ雅致カアルテハナイカ欄間天井障子何タル妙技ツ床ノ間  
ヲ見ヨ敷込ヲ見ヨ歐洲建築ニ比シ其ノ美術的ナルコト優レルテハナイカト成程聞ケハ其通りテ  
アル然ルニ巴里在住ノ日本人中ニハコレハ時代錯誤タ「本邦藝術ノ評判ヲ臺ナシニスルモノテ  
アル」トカ考ヘタ人カ少シハアツタラシイ我々ハ始メ可成沈黙ヲ守ツテ日本部ニ對スル公平ノ判  
斷ヲ聽カンコトヲ欲シタカ日本人中ニノミスル意見ノアルコトヲ知ツテ驚イタ西洋人ハ推賞措  
ク所ヲ知ラサル状態テアルカラ彼等ニハ出品ノ説明サヘスレハ宜シイコトヲ知ツタ唯斯ル意見  
ノ日本人ニ尋ネテ見タイ今回ノ博覽會ヘノ出品物ハ建築物トシテハ洋館文化住宅組立家屋ノ類  
裝飾品トシテハ日本製ノ洋服其他ノ洋衣類西洋式ノ小間物類等ヲ持參シテ陳列シタラハ時代錯  
誤ト謂ハレナカツタカモ知レヌ併シ日本ノ文化住宅組立家屋ヤ日本出來ノ毛織物ヤ西洋婦人服  
ヤ乃至帽子靴等ヲ世界流行ノ中心地タル巴里ノ競争場裡ニ出陳シテ果シテ勝味カアルテアラウ  
カ歐洲各國品ニ優ルトモ劣ルコトハナイト考ヘラルルカ如何彼等ハ自分ノ教ヘタ生徒ノ作品ヲ  
褒メル態度テ見ルカモ知レヌカ我等ハ斯ル物ヲ以テ裝飾術ノ競争ヲ爲シタクナイ我國ハ古來東  
洋ノ美術國テアル否ナ世界ノ美術國テアルコトヲ忘レテハナラヌ日本ハ古來養蠶ヲ行ヒ絹絲ヲ  
産シ多ク絹織物ヲ使用シテ居ル然ルニ近來日本カ人造絹絲ヲ産スルノ故ヲ以テ絹織物ノ出陳ヲ  
止メテ新シイ併シ碌テモナイ人造絹絲製品ヲ出品スルヲ以テ可ナリトナスヤ如何日本人ハ米食



ヲ本位トスル新シイバンモ勿論喰フ併シ日本ノ現代食物ハ何カト問フ人カアツタナラハ矢張米テアツテ決シテパンテハナイノテアル。日本館ニ於テモ全ク之ト同理テアル。日本ノ現代住宅！最モ美術的ナ最モ優雅ナ最モ貴重ナ最モ高尚ナ現代建物ハ矢張り日本ニ於テハ此ノ日本館ノ様式テアル。巴里ノ日本人中驚ク者カアツタト同シク歐洲人モ日本ノ美術工藝ノ優雅高尚テアル點ニ驚イタノテアル。日本ノ建物、日本ノ刺繍、日本ノ陶磁器、日本ノ漆工、日本ノ竹細工、日本ノ紙製品、何ト善イテハナイカ、何ト高尚テハナイカ、何ト巧妙テハナイカト感心シテシマウ。之カ今日日本部ニ對スル歐洲人一般ノ觀察テアル。ゾコテ佛國ノ有力ナ新聞ハ日本部ヲ何ト批判シテ居ルカ、最モ正確ニ之ヲ譯出シテ見タイ、隨分長文ノモノモアルカ、批評ニ亘ル點ノミヲ記セハ左ノ通りテアル。

一、ル、マタン紙 現代日本家屋正確ナシカモ懐シミノアル又何カラ何マテ一々ノ物カ日ノ出ノ國ノ個性ヲ體現シタ藝術ト快味トノ融合テアル……

二、ジユールナル、デ、デバ紙 日ノ出島ノ藝術愛好者ハ日本館ニ最モ共鳴スルテアラウ。硝子戸ハ空

氣ト太陽ニ對シテ都合カヨイ、又籬ヤ四ツ目垣ヲ入りサヘスレハ容易ニ開カレル様ニナツテ居ル。之カ賢人ノ家トイツタモノテアラウ。現代ノ日本建築ハ從來ノ徑路ヲ脱シ様トシテ居ル。併シ今日迄ノ結果ハ決定的テモナケレハ又十分ノ満足ヲ與ヘル程度ノモノテモナイ。夫テ日本當局者ハ突飛ナ試ミト又今日歐洲テ普通ニ用ヒラレテ居ル設計トヲ除イテシマツタ。ゾシテ氣持ノヨイ滋味ノアル家即チ住ムテ居ル人ハ如何ニモ物質的欲求ヲ知ラナイ優等人種ト謂フ風ナ落

付イタ氣持ノ家ヲ見セヤウトシタ……

三、ル、シルナル紙 現代日本ノ生活ハ急速ニ歐洲文明ノ影響ヲ受ケテ居ルコトハ明白ノ事實デア  
ル。藝術ニ於テモ亦日東帝國ハ新シイ道ヲ求メテ居ル。ソレテ今吾人ノ目ノ前ニ建テラレタ日本  
家屋ハ木材ト竹材トニテ出來テ居ナカラ大膽ナ新シイ試ミテ東洋風ノ傳統トノ珍シイ又氣持  
ノ善イ融合ヲ見セテ居ル……

四、ラントランシジャン紙 日本館ハ竹材、木材、硝子、紙等テ出來テ居ツテ温イ春風ニ易々ト開ク戸  
障子カ入レテアツテ見ルカラニ華奢テ弱々シイカ、見カケニヨラス確乎ト出來テ居ル。樹皮ヲ剝  
イタ儘ノ木材カ柱ニ使ハレテ階上ヤ棟ノ確乎トシタ梁木ト組マレテ家ハ支ヘラレテ居ル。木組  
ハ原始的ナ單純ナモノテアルカ非常ニ巧妙ニ仕上ケラレテ居ル……

五、ル、ファイガロ紙 總テカ瀟洒テ細心ノ注意カ拂ハレテ居ル。日本ト云フ感シカソツクリ出テ居ル。  
又内部ノ裝置、備品ハ世界中テ禮ニ厚イ人々カ住ミ慣レタミリウヲ作ツテ居ル。此等ノ物ハ何テ  
モ細カイ仕事カシテアリ又貴重ナモノテアル……

六、ル、モンドイリュストレ誌 日本現代藝術ノ典型テアル。數百年來ノ東洋ノ傳統ト西洋文明トノ  
不思議ナ融合ハ巴里博覽會中ノ最モ注目ヲ惹クモノノ一テアラウ……

七、ル、ピユルタン、デ、サフェール 輕妙テ雅致ノアル日本館……

今日迄ノ新聞評ハ大體以上ノ如クテアツテ雜誌ニモ寫眞及記事ハ隨分掲ケテアルカ全體日本館  
ニ關スル批評ハ斯種ノ論調テアル。



尙當該博覽會々期中事務ハ豫想外ニ繁忙ヲ極メタルモノニシテ其重ナルモノハ佛國事務局トノ交涉事件及審査事務ノ處理ニシテ建築ニ關シ敷地使用、道路使用、水道設備、瓦斯電力使用、防火等ニ關シ各官廳公衙ト交渉シ各其規則又ハ條件ニ適合セシムル必要アリ、レストウラントノ經營ニ關シ博覽會規則ト營業ニ關スル諸規定トニ適合セシムルノ必要アリ、即賣店又ハ看守人等ニ關シ夫々條件ヲ打合ハスノ必要アリ又所定ノ期日迄ニ出品物ノ詳細ノ目錄ヲ作り各其所在ヲ明ニシテ一々番號ヲ付シ之ニ説明ヲ加ヘテ佛國事務局ニ提出シ當博覽會カタログノ一部ヲラシムル必要アリ、日本部ハ日本部トシテ別ニ日本部説明書並諸種ノパンフレットヲ作りテ之ヲ公刊宣傳スルノ必要アリ、開館式其他式典接待等彼我共ニ多數ニシテ彼我ノ出席者ヲ定メテ交渉通知スルノ必要アリ又佛國事務局トノ重要交渉事項ハ列國事務長會議ニ提出シ其決議ニヨリ佛國事務局ト交渉スルコトトナリ居リ同會議ハ每週又ハ隔週ニ開カレ佐々木書記官及赤松囑託ハ常ニ之ニ出席シテ意見ノ交換ヲ行ヒ多數重要案件ノ解決ニ當レリ次ニ審査事務ニ付テハ出品物ノ類別整理、審査員ノ選出配分ノ交渉、審査原案ノ調製並其説明、不當ト認メラルル國際審査案ノ訂正等ハ會期ヲ通シテ相當多忙ノ事務ナリキ尙審査ニ關シテハ別項並審査報告ニ之ヲ記シタリ

### 五 儀式及招宴

三月二十七日 佛國事務長ハ日本事務長佐々木茂枝氏一行ヲ巴里一等料理店カフェード・パリノ畫餐ニ招待シ石井大使其他大使館員出席セラレタリ

四月二十三日 佛國事務局長ハ列國事務長ヲシャンゼリゼー街ル・ドアイアン料理店ノ畫餐ニ招待セリ

同 二十八日 午前九時半大統領ヅーメルグ氏ハ列國事務長ヲ大統領官舎ニテ引見セラル

同 日 午後三時ヨリ當博覽會大開館式ヲ舉行ス此日大統領ヲ始メ列國大公使各省大臣兩院議員列國事務長以下博覽會關係者約八千名ノ出席アリ盛況ヲ呈セリ

四月三十日 日本事務長ハ佛國事務局長以下ノ事務局員ヲ博覽會々場内日本料理店午餐ニ案内シテ饗應ヲ爲シタリ

五月 二日 デンマルク事務長ハ同國皇太子殿下臨席ノ下ニ列國關係者ヲ招待シ同國部開館式ヲ行フ

同 十三日 巴里市ハ列國關係者ヲ招待シ巴里市館ノ開館式ヲ行フ

同 十四日 佛國事務局長ハ午後四時半ヨリ六時迄ノ間ニ於テロスタヤイルド邸ニテレセブションヲ行フ

同 日 巴里市ハ列國事務長其他關係者ヲ市廳ノ晚餐ニ招待セリ此席ニハ大統領、各國大公使、各省大臣等出席セリ

同 十五日 日本部ノ開館式ヲ行ヒ列國關係者ヲ午後四時ヨリノランチ及茶會ニ招待セリ此日ノ出席者ノ主ナルモノハ日本側ヨリハ石井大使以下在巴里本邦重立者佛國側ヨリハ佛國商工大臣シヨーム氏、文部大臣モンジール氏、列國事務長、日佛會員等約五



百名ノ多キニ及ヒ盛大ナリキ

同 日 塊太利事務長ハ列國關係者ヲ同國特設館ノ茶會ニ招待シ同國部ノ開館式ヲ行ヘリ

同 二十三日 チェツクスラバキー事務長ハ午前十一時ヨリ列國關係者ヲ其特設館ノ茶會ニ招待シテ開館式ヲ行ヘリ

同 日 佛國事務局長ハ列國重立者ヲオペラ國立劇場ニ招待セリ

同 二十四日 伊太利大使ハ列國關係者ヲ其大使館ノ夜會ニ案内セリ

同 日 佛國事務官長ハ列國事務長ヲアルムノンブニ館ノ晝餐ニ招待セリ

同 日 和蘭公使ハ列國關係者ヲ同國公使館ノ茶會ニ招待セリ

同 二十五日 伊太利事務長ハ午前十一時ヨリ列國關係者ヲ同國特設館ニ招待シ開館式ヲ行ヘリ

同 日 大統領ヅーメルグ氏一行日本館ヲ訪問セラル當該博覽會外國館ニテ大統領ノ訪問ヲ受ケタルハ日本館ヲ以テ嚆矢トセリ此日石井大使日本事務長以下之ヲ迎ヘ日本部ノ説明ヲ爲シ且ツ茶葉シヤンペンヲ饗セリ

同 日 佛國事務局長ハ列國關係者ヲ午後八時半ヨリ演舞場ノ開館式ニ招待セリ

同 二十六日 ポーランド大使ハ列國關係者ヲ同大使館ノ夜會ニ招待セリ

同 二十七日 ポーランド大使ハ列國關係者ヲ列國特設館ノ茶會ニ招待シ開館式ヲ行ヘリ

同 二十八日 瑞典事務長ハ列國關係者ヲ列國特設館ノ茶會ニ招待シ開館式ヲ行ヘリ

六月 一日 佛國海事協會ハ博覽會場内セーヌ河ニ於テ盛大ナル水上祭ヲ執行シタリ列國關係者ヲ招待スルハ勿論觀覽席ヲ設ケ特別入場券ヲ販賣シタルカ一日ノ入場者實ニ三十五萬人ニ達セリト謂フ

同 三日 英國事務長ハコンノート殿下台臨ノ下ニ列國事務長其他重立者ヲ晝餐ニ招待シ開館ノ挨拶ヲ爲セリ

同 四日 露國事務長ハ列國關係者ヲグランバレーノ會場ニ案内シテ開館式ヲ行ヘリ

同 五日 西班牙事務長ハ列國關係者ヲ其特設館ノ茶會ニ招待シ開館式ヲ行ヘリ

同 十日 午前十時佛國部第七類部ハ列國關係者ヲ案内シテ開館式ヲ行ヘリ

同 日 瑞西事務長ハ列國關係者ヲグランバレー内同國部陳列場ノ茶會ニ案内シ開館式ヲ行ヘリ

同 十二日 モナコ事務長ハ同國兩王殿下台臨ノ下ニ列國關係者ヲ茶會ニ案内シ開館式ヲ行ヘリ

同 十五日 希臘公使ハ列國關係者ヲ其特設館ノ茶會ニ招待シテ開館式ヲ行ヘリ

同 十六日 セルビヤ事務長ハ列國關係者ヲ其特設館ノ茶會ニ招待シテ開館式ヲ行ヘリ

同 二十三日 佛國事務局長ハ其特設事務所ノ茶會ニ列國關係者ヲ招待シ開館式ヲ行ヘリ

同 二十五日 ロスチャイルト男爵夫妻ハ佛國美術發展並交換協會ノ爲ニ列國關係者ヲ其邸宅



ノ夜會ニ招待セリ

同 二十六日 佛國事務局長ハロスチヤイルド邸ノ晚餐ニ列國關係者ヲ招待シタリ

同 二十九日 アルサス州ノ當博覽會協會ハ列國關係者ヲ案内シテ開館式ヲ行ヘリ

同 三十日 佛國商工大臣及佛國事務局長ハ列國關係者ヲグランバレーノ晚餐及夜會ニ招待セリ

七月三日 米國政府ヨリノ當博覽會ヘノ派遣者一行ハ列國關係者ヲコンチネンタル、ホテルノ晚餐ニ招待セリ

同日 佛國殖民地總督ハ列國事務長其他ヲ其特設館ニ案内シテ夜會ヲ催シタリ

同日 佛國各府縣ハ聯合シテグランバレー内ニ於テ各地方ノ特色アル音樂舞蹈ヲ行ヒ盛大ヲ極メタリ此日右聯合會ハ列國關係者ヲ同所ノ晚餐ニ招待セリ

同日 佛國事務官長ハ當時巴里ニ御滞在中ナリシ朝香宮殿下及妃殿下ヲ博覽會ニ御案内申上ケ且在巴中ノ日本重立者ヲモ加エテブレカトロン料理店ノ午餐ニ招待セリ當時佛國事務局長次長ポール、レオン氏及審査次長カルノー氏ハ兩段下ノ御案内ニ當レリ

同日 十七日 午前十時大統領ハ佛國殖民地特設館ヲ巡覽セラルルヲ以テ同時ニ同館ノ參觀方ヲ佛國事務官長ヨリ列國事務長ヲ案内シ來レリ

同日 二十四日 午前九時半ヨリグランバレーニ於テ國際審査ノ發會式ヲ行フ當日佛國商工大臣、



審査總長及佛國事務官長等ハ各一場ノ希望ト訓示トヲ與ヘタリ

同日 佛國商工大臣及佛國事務官長ハ國際審査關係者ヲロスチヤイルド邸ノ晚餐及夜會ニ招待シタリ

同日 二十六日 佛國水上遊戯獎勵會ハ博覽會場内セーヌ河ニ於テ航海遊戯祭ヲ催シ幾多船舶ヲ裝飾假裝シテ航行シ一般ノ觀覽ニ供セリ

同日 二十七日 米國費府萬國博覽會事務局長ベーカー氏ハ列國事務官長ヲ博覽會内英國料亭ノ午餐ニ招待シ列國ノ參加方勸誘シタリ

八月六日 佛國事務官長ハ列國審査關係者ヲグランバレーノ晚餐及夜會ニ招待セリ

九月三日 佛國事務官長ハ列國審査關係者ヲグランバレーノ晚餐及夜會ニ招待セリ

同日 十二日 佛國事務官長ハ英國ヴェンブレノ事務局員ヲオペラ國立劇場ニ招待シ列國事務長ヲモ同時ニ招待セリ

同日 十三日 佛國商工大臣及佛國事務局長ハ列國審査關係者ヲグランバレーノ晚餐及夜會ニ招待セリ

同日 二十四日 佛國事務官長ハ列國審査關係者ヲグランバレーノ晚餐及夜會ニ招待セリ

十月二日 佛國事務官長ハ列國關係者ヲグランバレーノ晚餐及夜會ニ招待セリ

十月三日 佛國事務官長ハ高等審査員ヲ同事務局特設館ニ案内シテ午餐ノ響應ヲ爲セリ

同日 五日 巴里商業會議所會頭ハ列國關係者ヲグランバレーノ晚餐ニ招待セリ



同 六日 ベルギー事務長ハ列國關係者ヲ列國特設館ノ音樂會ニ招待セリ

同 日 佛國商工大臣及佛國事務官長ハ列國關係者ヲグランパレールノ晚餐及夜會ニ招待セリ

同 九日 ベルギー事務長ハ再度列國關係者ヲ同國特設館ノ音樂會ニ招待セリ

同 十四日 佛國商工大臣及佛國事務局長ハ列國關係者ヲグランパレールノ晚餐及夜會ニ招待セリ

同 二十日 佛國事務長ハ列國關係者ヲロスチャイルド邸ノ茶會ニ招待セリ

同 二十四日 佛國商工大臣及佛國事務局長ハ列國關係者ヲグランパレールノ晚餐及夜會ニ招待セリ

同 二十六日 午後三時半ヨリグランパレール内ニ於テ當該博覽會褒賞授與式ヲ舉行シタリ大統領以下朝野ノ貴顯紳士約八千人ノ列席アリ列國事務長ヲ各自其國ノ出品人代表トシテ大統領自ラ褒賞ヲ授與シタリ此日列國側ハ各國ノ大國旗ヲ作り各其後ニ當國ノ事務長以下同伴シ式場ノ中央ヲ進ミテ大統領ノ席前ニ出テ褒賞ヲ受ケ盛大ノ儀式ナリキ

十月二十七日 伊太利美術獎勵會ハ列國關係者ヲグランパレールノ夜會ニ招待セリ

同 二十九日 列國事務長ハ聯合シテ同會議ノ議長タリシ瑞西公使ヲ其ノ勞ヲ謝スル爲メ國際俱樂部ノ午餐ニ招待セリ

同 三十日 佛國商工大臣及佛國事務局長ハ列國關係者ヲグランパレールノ晚餐及夜會ニ招待セリ

十一月二日 列國事務長其他ハ聯合シテ佛國事務局長及同局員ノ勞ヲ謝スル爲メ國際俱樂部ノ晚餐及夜會ニ招待セリ

同 三日 佛國美術聯合會ハ列國關係者ヲ其特設館ノ茶會ニ招待セリ

同 日 佛國商工大臣及佛國事務局長ハ列國關係者ヲグランパレールノ晚餐及夜會ニ招待セリ

同 四日 佛國事務局長ハ列國事務長ヲ同局特設館ノ午餐ニ招待セリ

同 五日 佛國商工大臣及佛國事務官長ハ列國關係者ヲグランパレールノ晚餐及夜會ニ招待セリ

同 六日 右 同

同 七日 佛國歡迎協會ハ列國關係者ヲグランパレールノ晚餐及夜會ニ招待セリ

右ノ外佛國部設置ノ演舞場ニテハ常時舞踊芝居音樂會等ヲ催シ其番組ノ替目毎ニ貴賓席ヲ列國部ニ割當テ招待セリ又會期中當博覽會ニ關係アル裝飾技術及之ニ關スル教育等ニ關シ講演會活動寫眞等行ハレタリ尙以上國際干係アルモノ以外本邦人ノミノ招宴ハ屢之ヲ行ヒタリ



### 六 政府費用支出ト産業協會ノ會計

當博覽會參同費ハ大正十三年及十四年ノ二ヶ年度ニ亘リ合計四十萬五千九百〇五圓ヲ支出セリ而シテ其重ナル費目ハ出品製作補助出品人渡航費補助及出品團體トシテ指定シタル日本産業協會ニ對スル補助等ナルカ豫算確定後ニ至リ別項記述ノ如ク佛國政府ヨリノ懇願ニ依リ純日本式ノ特設館ヲ建築スルコトトナリタル結果之レカ建築費九萬圓ヲ全經費中ヨリ捻出セサル可カラサル事情ニ立至リタルタメ豫算ノ實行ニ當リテハ既定經費ニ變更ヲ加ヘ且ツ豫算ノ計畫ヲ縮少セサルヲ得サルコトトナリタルハ止ムヲ得サル所ナリ即チ既定豫算額ト實行豫算額トヲ對比スレハ左表ノ如シ

萬國裝飾美術工藝博覽會參同費

科目	十三年度		十四年度		計	
	豫算額	實行豫算額	豫算額	實行豫算額	豫算額	實行豫算額
廳内國旅費	九〇〇	九〇〇	四、九〇〇	八、四〇〇	四、九〇〇	九、三〇〇
外國旅費	二、五〇〇	二、五〇〇	四、五〇〇	三、〇〇〇	三、〇〇〇	三、〇〇〇
雜給及雜費	七、〇〇〇	七、〇〇〇	二、五、八四二	三、九、九〇五	三、九、九〇五	三、九、九〇五
出品鑑査手當	六、三〇〇	六、三〇〇	三、六、八六〇	四、三、一六〇	四、三、一六〇	四、三、一六〇
出品鑑査手當	六、〇〇〇	六、〇〇〇			六、〇〇〇	六、〇〇〇

科目	十三年度		十四年度		計	
	豫算額	實行豫算額	豫算額	實行豫算額	豫算額	實行豫算額
諸手當	三〇〇	三〇〇	九、八〇〇	九、八〇〇	九、八〇〇	九、八〇〇
補助費			八、〇〇〇	八、〇〇〇	八、〇〇〇	八、〇〇〇
其他			一、九、〇〇〇	一、九、〇〇〇	一、九、〇〇〇	一、九、〇〇〇
出品製作補助	一〇〇,〇〇〇	七〇,〇〇〇	四〇,〇〇〇	三〇,〇〇〇	一〇〇,〇〇〇	七〇,〇〇〇
出品渡航費補助	六〇,〇〇〇	九〇,〇〇〇	八〇,〇〇〇	三七,五〇〇	一四〇,〇〇〇	一四〇,〇〇〇
出品團體補助			一〇,五〇〇	一四,〇〇〇	一〇,五〇〇	一四,〇〇〇
販賣手数料		四、九〇〇	一〇,〇〇〇	一〇,〇〇〇	一〇,〇〇〇	一〇,〇〇〇
借入金		四、九〇〇				四、九〇〇
雜收入			一〇〇,五〇〇	四,〇〇〇	一〇〇,五〇〇	四,〇〇〇
支						
陳列場所料	六〇,〇〇〇	二六,九〇〇	一〇〇,五〇〇	一五,五〇〇	一六〇,五〇〇	二九,四〇〇
即賣店設備費	一五,〇〇〇				一五,〇〇〇	
日本館建築費	二〇,〇〇〇	四,〇〇〇		三,三〇〇	二〇,〇〇〇	七,三〇〇
陳列棚購入費		九〇,〇〇〇				九〇,〇〇〇
諸員事務給	八、七四〇	九、一四〇	一三、二一〇	一三、七一〇	二一、九五〇	二二、八五〇
渡航事務員	七、四三〇	七、〇三〇	二五、四九三	二五、四八三	三二、九二三	三二、五二三
事務嘱託費			三、〇〇〇	三、〇〇〇	三、〇〇〇	三、〇〇〇
交際費			六、〇〇〇	三、〇〇〇	六、〇〇〇	三、〇〇〇
其他	八、三三〇	一一、〇三〇	四、四四七	四、三三七	五、〇七七	五、〇三七
借入償却金						四、九〇〇



豫備費	500	100	1,000	800	1,500	1,000
合計	1,683	1,683	11,994	11,994	40,945	40,945

### 七 審査事務ノ概要

審査ニ付テハ審査報告ニ掲載セル當博覽會規則中ノ審査委員會及褒賞ニ關スル規定及審査規則ニ定ムル所ニ依リ之ヲ施行シタル次第ナルモ當博覽會審査ニ付特書スヘキハ最嚴正ナル國際審査ヲ行ヘルコトト及出品物ノミニ付審査ヲ行ヒ其出品人又ハ製作者ノ來歴、事業狀態等ハ之ヲ考慮ニ加フヘカラサルコトトシテ實行シタルニ在リ審査ノ嚴正ナルヘキコトハ固ヨリ當然ノ事項ナリト雖動モスレハ或ハ在來ノ來歴ニ依リ或ハ事業ノ規模ニ依リ或ハ列國ノ均等ヲ保ツ上ヨリシテ其他種々ノ事情ニ依リ嚴正ニ之ヲ行フコト容易ナラサルモノノ如シ然ルニ當博覽會ニ於テハ審査會開會式ニ於テ商工大臣、博覽會事務局局長及審査總長等ハ審査ハ嚴正ナラサレハ何等ノ効果ナキモノナルコトヲ力説シテ審査擬賞ノ結果ハ當博覽會開催旨タル美術工藝界ノ改善ニ資スルモノタルヘキヲ熱心希望スル所アリ當博覽會ノ審査員ノ多數ヲ占ムル佛國審査員ハ此希望ニ應シ嚴正ナル審査ヲ行フコトノ申合セヲ爲シ列國審査員亦同感ナリシヲ以テ當博覽會ノ審査ハ能ク其使命ヲ遂行シタルモノノ如シ

當博覽會ノ審査員ハ之ヲ類審査員、部審査員及高等審査員ニ別チ各審査員會ヲ組織シ三審制度ニ依リ之ヲ實行スルノ定ニシテ先以テ類審査員ノ選定ハ列國ニ其員數ヲ割當テ其人選ハ列國事務

長之ヲ爲シ佛國事務局局長ニ通知スルトキハ同局長ハ商工大臣ニ申報シ省令ヲ以テ之ヲ任命スルコトトシタリ而シテ類審査員ハ正委員ト副委員トヨリ成リ正委員ノミカ發言權ヲ有シ副委員ハ正委員ヲ補助シ又之ヲ代理スルモノナリ副委員ノ數ハ別ニ制限ナカリシモ多數ナラサル旨ノ希望アリ正委員ノ數ハ列國出品人員ト及其使用面積ヲ對比シテ定ムルノ規定ナルヲ以テ列國事務長ハ各類別ノ出品人及其使用面積表ヲ作製シテ交渉協議シタルカ各種ノ疑義ヲ生シ議容易ニ譯マラサリシモ互讓ノ結果漸ク決定スルニ至リ省令ニテ任命セララルルニ至レリ其本邦側ニ屬スルモノ左ノ如シ

#### 國際類審査會日本部審査委員

類	別	正委員	副委員
第一類	既成建物	藤田 嗣治	中村 祥太郎
第三類	建築ニ關スル木材工藝及同工業	森田 菊次郎	青木 利三郎
第八類	木材工藝及同工業	稻垣 吉藏	青木 利三郎
第九類	小細工物類	久我 貞三郎	連水 琢齋
第十類	金屬工藝及同工業	津田 信夫	中島 保美 赤松 秀景



第十一類	陶磁器工藝及同工業	田邊孝次	太田藤四郎
第十三類	織維工藝及同工業	伴野文三郎	大木保彦
第十四類	紙工藝及同工業	中村倉太郎	佐々木綱雄
第十五類	書籍ニ關スル工藝及同工業		田中甚助
第十六類	娛樂用具、玩具、運動遊技具		生田義人
第十八類	樂器	森山隆介	鶴見守雄
第二十類	衣類		山本光雄
第二十一類	衣服附屬品		
第二十二類	帽子類、花及羽毛	横山正幸	
第二十四類	寶石、金銀製細貨		四谷正美
第二十八類、第三十類、第三十一類	教育ニ關スル出品	棚橋源太郎	森田龜之助
第三十二類、第三十四類及第三十六類		保阪光山	樋谷茂一郎

而シテ類審査會ニハ各會長一名、副會長二名及記錄掛一名ヲ設クルコトトシ又會務ノ進捗ヲ圖ル

上ニ於テ事務ハ可成佛國側ニ於テ處理セシムルコト便利ナルヲ以テ右役員ノ内列國部ヨリハ副會長一名ヲ出シ其他ノ者ハ總テ佛國人ヲ以テ之ニ充ツルコトトシタリ  
 而シテ右列國ヨリ選出スヘキ副會長ハ各類ヲ通シテハ大國ハ二名以下小國ハ一名以下ト協議決定シ日本ヨリハ第八類即チ木竹工藝ニ屬スル出品最多數ナリシヲ以テ森田菊次郎氏ヲ同類副會長ニ又第三十六類貝甲製品ニ關スル教育品類ノ副會長ニ保坂光山氏ヲ推薦シ各外國ノ容ルル所トナリ任命セラレタリ  
 次ニ部審査員ハ右類會ノ會長、副會長及記錄掛ヲ以テ組織スルコトトナリタルヲ以テ森田菊次郎及保坂光山ノ二氏其選ニ當レリ即チ左ノ如シ

部	別	部	別
第二部	裝飾品部	森田菊次郎	部 審査員
第五部	教育部	保坂光山	

而シテ部審査會ニモ亦會長一名、副會長二名及記錄掛一名ヲ置クコトトシタルカ類會同様外國側ヨリハ右ノ内副會長一名宛ヲ出スコトト爲シタリ而シテ此副會長ハ高等審査員ニ推薦セララルヘキ資格ノモノナル處高等審査員選出ノ標準ニ適合セサルカ爲之ヲ選出シ能ハサル諸國ハ高等審査員ヲ出スコト能ハサルノ故ヲ以テ此等ノ諸國ヨリハ特ニ此副會長ヲ推薦シテ高等審査ニ加ハラシメントトノ希望ヲ有セル結果列國事務長協議ノ結果右外國部ヨリ選出セラルヘキ部審査會副會長ニハ外國部ヨリハ瑞典、丁抹、西班牙、ユーゴスラブ及希臘ノ五國ヨリ各一名ヲ出シ全部即



チ五部ニ一人宛ヲ出スコトニ決定セリ

次ニ高等審査員ハ佛國政府ノ意見トシテ外國部ヨリハ出品人二百五十人以上ヲ有スル諸國ノ事務長ヲ以テ之ニ充テ佛國部ヨリハ名譽會長トシテ商工大臣、文部大臣及博覽會事務局長ノ三名ヲ充テ會長一名及副會長若干名ハ佛國人中ヨリ商工大臣之ヲ推薦シ別ニ外國事務長中ヨリ一人ノ副會長ヲ出スコトトナリ瑞西公使ヲ以テ之ニ充テタリ委員トシテハ叙上ノ條件ニ合スル外國ノ事務長、佛國博覽會書記長及官房長部審査會ノ會長及副會長並佛國商工省商業及信用擴張部等ノ高級職員等ヲ以テ組織スルコトトナリタリ而シテ外國ヨリハ英國、日本、伊太利、白耳義、チツエクス、ラバキ、ポーランド、和蘭及奧太利ノ八ヶ國ノ事務長之ニ當ルコトトナリタルモノニシテ即チ外國側ヨリ高等審査員ヲ出シタルハ此八ヶ國ト及前記部會副會長ヲ出シタル五ヶ國合計十三ヶ國ナリキ日本ヨリハ事務長タリシ商工書記官佐々木茂枝氏其選ニ當レリ

而シテ審査會ハ七月二十四日ノ審査會開會式ニ始マリ同日ヨリ直ニ類審査會ヲ開催シテ先ツ審査會順序ヲ定メ類審査員ハ皆同伴シテ一々出品物ヲ詳細ニ點檢シテ各自評點ヲ爲シ更ニ會議ニ依リ之カ決定ヲ爲シ其結果ヲ部審査會ニ提出シ部審査會ハ類審査ノ結果ヲ審議シ各類間ノ均衡ヲ保ツコトニ努力シ又問題トナレル事項ハ再審査ヲ施行シテ其可否ヲ決シ而シテ其決定表ヲ高等審査會ニ報告シ同會ニ於テモ各部間ノ均衡ヲ保ツニ努力シ問題トナリ來レル事項ハ一々調査ヲ遂ケ高等審査會ニ於テモ前後四回ノ總會ト及數回ノ小委員會ニ於テ熟議ヲ遂ケ當博覽會審査ノ結了ヲ遂ケタルハ實ニ會期モ終了セントスル十月中旬ニシテ其間約三ヶ月ヲ要シ各審査員ハ

熱心審査事務ニ當リタルモノナリ

日本出品ニ關シテハ内地發送前鑑査員ノ鑑査ニ當リ鑑査員諸氏ノ擬賞ニ關スル意見ヲ徵シ又斯界先輩諸氏ノ擬賞希望ヲモ聽キタルカ國際審査ノ開始前日本側審査員ハ履會合シテ此等意見ヲモ尊重シテ合議ノ下ニ日本出品ニ對スル要求原案ヲ調製シタリ而シテ各審査員ハ各其擔任部類ノ國際審査ニ當リ此要求原案ヲ主張シテ之カ貫徹ニ非常ノ努力ヲ拂ヘリ然レトモ當博覽會ノ審査ハ前ニモ記セルカ如ク最嚴正ナル國際審査ヲ施行セラレタルモノニシテ類會又ハ部會ノ審査員數ハ各三十名以上ニ及ヒ佛國人半數以上ヲ占メ列國ヨリハ一名宛ヲ出シ居レルノ狀況ニシテ且原則トシテ各自ノ評點ヲ平均スルモノナレハ我要求原案ヲ通過セシムルコト容易ナラス列國人ハ各其主張スル所アリテ容易ニ其說ヲ托ケス日本側委員各自ハ頗ル熱心ニ説明努力ニ當リタルモノナリ而シテ其結果ハ大體ニ於テ右要求原案ノ通過ヲ見タルモ彼我ノ意見扞格シ雲泥ノ差ヲ生シタルモノアリ類會ニ於テ之カ矯正ニ力メタルハ勿論部會及高等審査會ニ於テモ或ハ再審査ヲ求メ或ハ詳細ナル理由書ヲ提出シテ之カ訂正ニ力メタルモ遂ニ其意見ヲ容レラレサルモノアリ忍ビ得ヘキモノハ忍ビタリト雖餘リニ意見ノ差異ヲ生シタルモノハ斷然審査ヲ拒絕スルコトトシ此等ノ出品ニ付テハ之カ審査ノ除外ヲ要求シテ審査除外品ト爲シタリ

右意見ノ相違ニ付外國人側ノ意見ニ徵スレハ日本出品ハ其長所トシテハ日本ノ特色ヲ遺憾ナク發揮シ居レルコトト又製作技術乃至技巧トシテハ實ニ稱揚スヘキモノナレトモ出品物ノ意匠ニ至ツテハ日本傳來ノモノ多數ヲ占メ新意匠ノモノ少シト謂フニ在リタリ彼等ノ言ニ從ヘハ千九



百年ノ巴里博覽會ヨリ既ニ二十五年ヲ經過シ居レハ其間ノ進歩變遷ヲ示スヘキ作品ノ出陳ヲ以テ充實スヘキ筈ナルニ千九百年巴里博覽會當時ノ出品物ト何等選フ所ナキ作品多シ當博覽會ハ其名稱モ現代(moderne)ナル語ヲ使用シ最新ノ裝飾美術ノ博覽會ナレハ舊來ノ傳統ヲ離脱シタル出品ヲ望メルモノナルニ不幸ニシテ之ニ適合セサルモノ少ナカラス即チ作品トシテハ實ニ優秀ノモノナレトモ當博覽會ニ於ケル擬賞トシテハ斯ル出品ニ優賞ヲ與フルニ於テハ當博覽會ノ目的ヲ沒却スルニ至リ又擬賞ノ根本方針ニ動搖ヲ及ホシ總テノ出品審査ヲ再調セサルヘカラスルコトトナルヘシト謂フニ在リタリ然レトモ本邦側ヨリハ之ニ對シ東洋殊ニ日本ニハ日本ノ國風アリ特得ノ趣味傾向ヲ有ス是レ即チ東洋ト西洋トハ歴史並人情風俗ヲ異ニスル所以ニシテ別個ノ趣味傾向ヲ有スルモノナルコトハ世人ノ認ムル所ナリ東洋ニ於テハ西洋ノ趣味ヲ取容レ西洋ニテハ東洋ノ趣味ヲ取容ルルコトアリトスルモ各其國情ヲ異ニスル以上其間ニ差異アルハ當然ノ事ト謂ハサルヘカラス加之當博覽會ハ世界博覽會ナレハ列國ノ風俗習慣等ニ依リ其作品ノ趣味傾向ヲ異ニスルハ當然ノ事ナルソミナラス寧ロ尊重スル所ナカルヘカラス日本品ハ日本品トシテノ價值ヲ認メ其進歩發達ノ道程ニ徵シ之ヲ擬賞スヘキニ徒ラニ西洋ノ趣味傾向ニ適合セスト爲シ又東洋ニ於ケル裝飾美術ノ研究足ラスシテ一概ニ之ヲ批評スルハ誤謬ナラスヤト論駁ニ力メタリ結極スル所大體ニ於テ要求原案ノ通過ヲ見タルモ中ニハ從來内外博覽會ニ於テ優賞ヲ得タル者ニシテ優賞ヲ得ス又從來内外博覽會等ニテ優賞ヲ得サリシ者等ニシテ一躍シテ優賞ヲ與ヘラレタルモノヲ生シタリ是レ誠ニ已ムヲ得サル所ニシテ當博覽會ノ審査趣旨タル出品物ノ

ミニ依リ審査シ又佛國委員ハ特ニ新規ノ意匠ヲ選ミ列國委員モ亦之ニ贊同スルモノ多カリシニ依ルヘシ然レトモ日本ヲ立脚地トシテ考フレハ斯ル博覽會ノ擬賞ヲ以テ直ニ日本美術工藝ハ歐洲ニ遜色アリト速斷スヘカラス西洋作品ニモ傳統派ニ屬スルモノ其勢力ヲ有シ優秀ノ作品甚多ク世人ハ又之ヲ愛好シテ推賞措ク所ヲ知ラス又賣行最可ナリ今回ノ日本出品物ニ在リテモ外國人ノ多數ハ其優雅ナル意匠ト精巧ナル技術ニ感激シ又賣行良好ナルモノハ所謂新規意匠ノモノニ非スシテ寧ロ舊來ノ作品ニ多カリシナリ唯注意スヘキハ日本出品ト歐洲出品トニ付意匠ノ改良進歩ニ努力セル結果ヲ比較スレハ日本ハ著シク遜色アルモノノ如ク即チ日本品トシテノ新鮮味ヲ有スル作品ニ乏シク列國出品ハ從來ノ範疇ヲ離レ加カモ現代生活ニ正シク適合スル優秀作品ノ出陳ニ努力シタルノ證據歴然トシテ認メラレタルニ反シ日本作品中ニハ其努力ノ多クヲ認メ得サリシヲ遺憾トス尙審査ノ內容結果ニ付テハ別ニ審査報告ニ詳細掲載シアレハ參照セラレタシ

## 八 終了事務

附外國側ニ寄贈品

當博覽會ハ四月二十八日開催シ其會期ハ當初ヨリ六ヶ月間ト聲明シアリタルヲ以テ十月末日ヲ以テ當然閉會スヘキモノト爲リ居リタリ然ルニ會期中入場者豫想外ニ多數ニシテ其終期ニ近クニ連レ益入場者增高スルノ狀況ナルニ鑑ミ佛國側博覽會關係者ハ總テ會期ノ延長又ハ再開ヲ希望シタリ然レトモ佛國政府トシテハ豫算上ノ關係アリ外國側ハ會期ノ延長ニ依リ單ニ經費ヲ要



スルノミニシテ其財源ヲ得ルコト容易ナラサルモノアリテ種々攻究セラレタル結果佛國政府ハ十一月九日迄會期ヲ延長シ同日ヲ以テ全ク閉會スヘキコトヲ聲明スルニ至リタリ日本側トシテハ譬ヒ九日間ノ延長ナリト雖被派遣員ノ旅費事務員看守人賣子等ノ給料電燈費等ヲ要シ經理上困難ナリシモ既定經費ヲ差繰リ之ヲ支辨スルコトヲ得タリ尙會期ノ終末ニ當リテハ列國事務長ハ大統領ニ謁見シテ謝辭ヲ述ヘ又商工大臣佛國事務局長ヨリ送別ノ宴アリ列國側モ亦聯合シテ佛國事務局長以下同局員ヲ案内シテ鄭重ナル招宴ヲ爲シタリ

會期終末ニ當リ重要ノ事項ナリシハ日本館喫茶店其他陳列場ノ取拂ナリキ此等建物ノ大部分ハ建築請負者カ日本商社ニシテ落成ノ後日本ニ歸還シタルコト其他ノ關係上引拂條件附ノモノナラサリシヲ以テ産業協會ハ自ラ之ヲ取拂ハサルヘカラス然レトモ之ヲ直營ニテ行ヒ又ハ請負ニ附スルト雖多大ノ經費ヲ要ス故ニ豫メ此等建物ハ之ヲ現地ニ存在ノ儘他人ニ讓渡スルノ計畫ヲ樹テ會期中ヨリ諸方ノ希望ヲ聞キ又勸誘ニ努ムル所アリタルカ當初ニ於テハ之カ買受方ヲ希望スルモノ少ナカラスシテ相當高價ニ買受ケントスルモノアリタリ然レトモ此等ノ人々ハ愈讓渡ヲ受ケントスルニ方リ日本館ノ移築保存修繕殊ニ暖房裝置ニ困難ヲ感スルコトトナリ何レモ愈ノ讓受方ヲ辭退スルニ至レリ然レトモ其中熱心ノ希望ヲ有セル瑞典ストクホルム市ノAndersson將軍ハ日本館ノ一部ヲ讓受ケントヲ申込來レルヲ以テ之ヲ賣却シ其他ノ部分ハ概ネ建築材料ヲ無償ニテ與フル代リニ建物ヲ取拂ヒ期限内ニ原形ニ回復スルノ條件ノ下ニ當初ヨリノ建築關係者ニ委任スルコトヲ得テ佛國事務局ノ承認ヲ受ケ被派遣員一同ハ十一月中總テ巴里市ヲ引上

クルコトヲ得タリ

尙商工省ハ當博覽會ニ於ケル本邦出品物カ歐洲ニ於テ好評ヲ博シタルニ鑑ミ同出品物ノ一部ヲ永ク佛國ニ止メテ日本作品ノ價值ヲ益能ク歐洲人ニ認識セシメントノ希望ヲ有セシヲ以テ當博覽會終了ノ際左記物品ヲ佛國商工省ニ寄贈ノ申込ヲ爲スト共ニ同省ニ對シ此等物品ハ公私團體ノ陳列場其他ニ適宜陳列シテ一般ノ觀覽ニ供セラレ度旨交渉シタルニ同省ハ之ヲ快諾シ差當リ其一部ハ商工省内ニ又他ノ一部ハ文部省教育博物館等ニ適宜陳列シタリ而シテ今後相當ニ陳列場所ヲ變更シ寄贈ノ趣旨ニ添フ様努力スヘク返事アリタリ因ニ此等物品ノ大部分ハ當博覽會出品物選定ニ際シ出品物製作費補助ノ一方法トシテ當省開催ノ工藝展覽會中ノ優良品ヲ同會審査員ノ詮衡ノ下ニ全額ヲ補助スルコトトシ其補助條項ニ基キ製作者ヲシテ商工省ニ寄贈方承諾ヲ得タル物品ナリトス其他ハ出品人ノ寄贈ニ依ルモノナリ

佛國商工省寄贈目錄

品目	補助金額又ハ代價	府縣	氏名
蓮花乾漆菓子鉢	一點 二七〇〇〇	東京	中川哲哉
饅頭秋硯箱	一 一二〇〇〇	同	山崎覺太郎
柘榴陶漆花瓶	一 一五〇〇〇	同	結城哲雄
小菊模様乾漆シガー入	一 一三〇〇〇	同	本間舜華
鳳花文文庫	一 八〇〇〇〇	同	松田權六



都 錦 葉 子 鉢	丸形蔓草文彫漆香盆	さくろノ圖杉洗ヒ出シ棚	開菊形裾投込花籠	弘 樂 編 花 籠	月 形 巢 編 花 籠	唐 銅 毒 文 花 瓶	青 銅 豌豆紋花瓶	鑄 銅 蜘蛛ノ圖壺	青 銅 平 安 壺	銀製扁形模様花瓶	柳蘭花刺繡二枚折屏風	水 邊 模 樣 文 庫 四點ノ内二	芝 草 華 卷 賞 入	紋小濱縮緬二枚襲	疋田雲鶴總紋リ長襦袢	本間六曲金屏風
一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
三 八 〇 〇	四 〇 〇 〇	一 三 〇 〇	五 〇 〇 〇	三 八 〇 〇	五 〇 〇 〇	二 五 〇 〇	二 〇 〇 〇	二 五 〇 〇	四 五 〇 〇	二 〇 〇 〇	二 三 〇 〇	三 二 〇 〇	五 五 〇 〇	二 〇 〇 〇	二 八 〇 〇	四 五 〇 〇
東 京	東 京	東 京	東 京	東 京	東 京	東 京	東 京	東 京	東 京	東 京	東 京	東 京	東 京	東 京	東 京	東 京
小 岩 古 明	堆 未 克 彦	高 橋 清 太 郎	岡 田 竹 弘 齋	同	森 山 幸 昇	香 取 正 彦	内 藤 春 治	市 橋 雅 堂	山 本 安 曇	染 谷 一 香	藤 井 錫	熊 谷 大 次 郎	稻 垣 孫 一 郎	内 藤 良 耕	浦 田 清 造	樋 口 彦 右 衛 門

鳳 凰 紋 磁 器 花 瓶	木 製 瓶 懸	四 季 花 鳥 手 箱	天 平 模 樣 手 宮	玉 虫 喰 塗 硯 筥	菱 形 溜 塗 水 指	鐵 打 出 四 神 花 壺	染 付 山 水 磁 器 花 瓶	石 楠 木 書 棚	茶 湯 釜	方 形 古 代 綿 縮 緬 クツシ ヨ ン 卓 子 掛	刺 繡 二 枚 折 屏 風	唐 草 獅 子 花 瓶	桃 畫 染 付 磁 器 花 瓶	以上製作補助出品	木 彫 人 形	經 木 織 籠	鳥 籠
一 點	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
七 五 〇 〇	二 九 〇 〇	一 八 〇 〇	一 五 〇 〇	三 〇 〇 〇	四 八 〇 〇	二 〇 〇 〇	四 五 〇 〇	二 八 〇 〇	九 〇 〇 〇	二 一 〇 〇	二 一 〇 〇	一 七 〇 〇	九 五 〇 〇		二 一 〇 〇	四 五 〇 〇	
神 奈 川	新 潟	香 川	石 川	同	同	同	同	富 山	岩 手	同	奈 良	佐 賀	同	同	京 都	栃 木	香 川
宮 川 香 山	小 川 悠 山	三 野 雅 堂	青 木 外 吉	生 駒 弘	高 田 仙 齋	高 島 豐 太 郎	石 川 縣 工 業 學 校	岡 田 雪 城	小 泉 仁 左 衛 門	中 村 治 兵 衛	宮 本 忠 平	深 川 榮 左 衛 門	同	同	大 木 平 藏	神 野 正 武	林 福 太 郎



着  
七五三人形(背景共) 物  
自 在 畫  
刺繡及絹物、袋物、帛沙バツ  
ク、爪皮、刺繡半襟帶止  
以上普通出品

五 一 四 一

六・二〇 | |  
三三・五〇

同 同 同 東  
京

九二  
東京裁縫學校  
戸板裁縫學校  
京橋尋常小學校  
日本橋女子高等小學校



巴里萬國現代裝飾美術工藝博覽會日本部審查報告

目次

一 審查規則	一
二 國際審查委員	六
三 日本部受賞一覽	九
四 日本部受賞者名	一一
五 審查概論	一三
六 各國出品概評	四〇
七 日本出品各部類主查概評	五五
以上	



# 巴里萬國現代裝飾美術工藝博覽會日本部審査報告

## 一 審査規則

萬國現代裝飾美術工藝博覽會一般規則中審査及褒賞ニ關スル規定ハ左ノ如シ(抄録)

### 審査委員會及褒賞

第十三條 出品ノ審査ハ事務官長ノ上申ニ依リ省令ヲ以テ任命サレ且左ノ規定ニ基キ設置セラ  
ル、國際審査委員會ニ之ヲ委任ス

一 各國ハ其博覽會ニ參加ノ程度ニ比例シテ審査委員會ニ於テ代表セラルヘシ右程度ハ次ノ  
事項ヲ考量シテ之ヲ定ム

イ 出品人員(合作者及協力者ヲ含マス)

ロ 使用面積

各國ハ其製品ノ出陳セラル、各類ニ於テ少クトモ一名ノ審査員ヲ出スノ權利ヲ有スヘシ但  
博覽會當局及當該國ノ事務官若クハ代表者間ニ於テ其ノ類ニ於ケル同品ノ陳列價值ヨリ見  
テ右代表ヲ穩當ニアラスト認ムルニ一致スル場合ハ此限ニアラス  
何レノ國モ一類ニ於テ七名以上ノ審査員ヲ有スルコトヲ得ス

二 審査委員會ハ當該國ノ事務官若クハ代表者ニ於テ特種ノ事情ニヨリ其ノ不可能ヲ宣言セ



サル限り學術的鑑定ヲナシ又ハ之ヲ爲サシムルコトヲ得

三 審査委員會ハ之ヲ類別、高等ノ三委員會ニ區分シ三段ノ判定ヲナシ高等審査委員會ノ決定ヲ以テ最終ノモノトス

第十四條 審査委員會ノ議事ハ絕對秘密ニ附スルモノトス

第十五條 審査委員會ニ於ケル佛國委員ハ出品許可委員中ヨリ又ハ同委員會ニ於ケル佛國委員ハ出品許可委員會ノ委員中ヨリ又ハ同委員會ニ於テ編纂スル出品人名簿ニ依リ之ヲ採用ス

第十六條 審査委員會ハ出版業者若ハ製造家ト同シク圖案及模型ノ創作者ヲ褒賞スヘシ

褒賞授與ニ付テハ審査委員會ハ出品ノミヲ考慮ニ置クヘキモノトス

高級ノ褒賞ハ其ノ數ヲ限定ス

褒賞ハ之ヲ左ノ六等ニ區別ス

一 大賞 (Diplomes de grand prix)

二 名譽賞 (Diplome d'honneur)

三 金牌 (Diplomes de medaille d'or)

四 銀牌 (Diplomes de medaille d'argent)

五 銅牌 (Diplomes de bronze)

六 褒狀 (Mentions)

受賞又ハ審査外ニ置カレタル出品人ノ合作者及協力者ニモ授賞ヲナスコトヲ得

授賞表ハ高等審査委員會ノ決裁ヲ俟テ決定スルモノトス

第十七條 審査除外ハ出品ニ對シ何等審査ヲ爲サ、ルモノナルヲ以テ賞ト見做スコトヲ得ス左記ノ者ハ之ヲ審査ヨリ除外ス

一 各類ニ於テ審査委員タル出品人審査委員タル代表者ヲ出セル會社又ハ組合

二 自己ノ任務ヲ奉スル諸類ニ於テ審査委員會ノ鑑定人タル出品人

以上ノ審査除外ハ官公署及營利ヲ目的トセサル會又ハ協會ニハ之ヲ適用セス

審査外ニ置カレタル出品人ハ審査事務ニ盡シタル協力ヲ表彰スル紀念賞ヲ授與セラルヘシ

尙ホ千九百二十五年四月六日付商務省令ヲ以テ公布セラレタル國際審査委員會ノ組織並ニ職務規定左ノ如シ

國際審査委員會ノ組織並ニ職務規定

萬國現代裝飾美術工藝博覽會ノ五部へ出陳ヲ許サレタル諸品ノ審査ハ之ヲ國際審査委員會ニ委ス該委員會ハ類別委員會、部別委員會、高等委員會ノ三段審査ヨリ成リ以下記載ノ條項ニ依リ職務ヲ行フモノトス

第一條 (一) 類別委員會ハ正委員ト副委員トヨリ成リ副委員ハ其ノ屬スル正委員缺席ノ場合ノ外發言權ヲ有セス

(二) 各類別ニ於ケル佛國及外國正委員ノ全數ハ國毎ニ出品人二十人並ニ陳列場面積百五十平方米突ニ對シ一人トス



- (三) 但シ各國ハ其出品ヲナセル類ニ於テ少クトモ一人ノ審査員ヲ得ル權アリ、但シ博覽會本部及當該國事務長又ハ代表員カ當該類ノ審査ニ參加スルヲ要セスト認メタル場合ヲ除ク
- (四) 何レノ國モ同一類中ニ七名以上ノ審査員ヲ有スルヲ得ス
- (五) 正委員及副委員ハ外國部ニ於テハ其ノ事務長之ヲ選定ス外國事務長ハ其ノ任命ヲ博覽會事務長ニ通知スルヲ要ス

(六) 佛國部委員ハ一般規定第十五條ニ依リ外國部委員ハ商務省令ニ依リ任命セラル、且商務大臣ハ各類ノ幹部ヲ任命ス、類ノ幹部ハ類長一名、次長若干名及報告者一名ヨリ成ル

第二條 各部審査委員會ハ次ノ如ク組織ス

- (一) 部長 一名
- 次長 若干名
- 報告者 一名

各部審査委員ハ各類審査委員外ヨリ選定スルコトヲ得、其ノ任命ハ事務長ノ提議ニ依リ商務省令ニヨリテ爲サル

(二) 類別審査委員會ノ類長、次長及報告者

第三條 高等審査委員會ハ次ノ如ク定ム

- (一) 名譽會長

商務大臣、文部、美術大臣、博覽會事務總長

(二) 幹部

幹部ハ商工大臣之ヲ任命シ國際審査委員會々長之ヲ總裁ス

(三) 委員

部別審査委員會部長及次長

博覽會目錄ニ登錄セル出品人數三百人ヲ超ユル外國事務長

博覽會事務次長

商務省商事部長

博覽會書記長、各部長

第四條 (一) 各類別審査委員會ハ國籍ノ別ヲ問ハス出品物ノ優秀ノ順ニ依リ審査擬賞表ヲ作製スヘシ擬賞ハ出品者ハ勿論、其ノ合作者、補助者ニ及ブ

(二) 審査委員會ハ原型ノ制作者、製作者ニモ亦擬賞スルヲ要ス、擬賞ハ出品物以外ニ互リ考査スルヲ要セス

(三) 類別審査委員會ハ技術的試驗ヲナシ又ハ之ヲナシムルコトヲ得、但シ特別ノ事情ニ依リ當該國事務長又ハ代表者カ之ヲ不可能トナス時ハ之ヲ行フコトヲ得ス

(四) 幹部委員ノ承認ヲ經タル擬賞表ハ遅クモ七月三十一日前ニ事務總長ニ提出スヘシ、之ヲ爲サ、ルトキハ部別審査委員ハ其權能ニ依リ該表ヲ作製ス

第五條 (一) 各部別審査委員會ハ類別審査委員會ノ提出セル表ヲ考査シ特ニ褒賞配分ノ統一調



和ヲ計ル様努力ス

- (二) 討議ニ付テハ之ニ關係ヲ有スル各類別審査委員ヲ順次之ニ加フ
  - (三) 部別審査委員會ニ於テ再定セル表ハ遅クモ八月十五日前ニ事務總長ニ提出スヘシ之ヲ爲サ、ルトキハ高等審査委員會ノ權能ヲ以テ之ヲ作製スヘシ
- 第六條 高等審査委員會ハ最後ノ機關トシテ各類中ノ出品人及協力者ニ對スル褒賞ノ順位表ヲ決ス
- 第七條 各審査委員會ノ討議ハ嚴ニ秘密ヲ守ルヘシ
- 第八條 本令ノ施行ハ之ヲ事務總長ニ囑任ス

### 二 國際審査委員

萬國現代裝飾美術工藝博覽會ノ國際審査委員ハ前掲ノ如ク類別、高等ノ三委員ヨリ成リ、各委員會ニハ長、次長及報告者ヨリ成ル幹部アリテ事務ノ進捗ヲ計レリ、各委員會幹部及各國委員數等ハ左ノ如シ、但シ類審査委員ニ就テハ便宜上後章、日本出品各部類主査概評ニ附記スルコトトセリ。

#### 國際審査委員會

- 會長 ステファアーンヌ、デルビレ氏
- 名譽會長 商 工 大 臣
- 同 文 部 美 術 大 臣

同 博覽會事務總長

#### 高等審査委員會

會長 ステファアーンヌ、デルビレ氏

副會長 長(佛國側六名) 博覽會事務總長及フランス、カルノ外五名

同 (外國側一名) 瑞 西 事務長 アルホンヌ、デユナン氏

委員 佛國一名、日本一名、日本部事務長佐々木茂枝、英國一名、チエツコスロヴァツク一

名、白耳義一名、和蘭一名、伊太利一名、奧地利一名、波蘭一名

外ニ部別審査委員會部長及次長十六名、佛國政府及事務局幹部十一名

#### 部別審査委員會

第一部 建築

部長(佛國) シヤルル、ゼマイ氏

同 次長(同) トニ、ガルニエ氏

同 同(同) ルマレス、キエ氏

同 同(瑞西) フェルナン、ポベル氏

報告者(佛國) デシエール氏

委員 佛國十八名、ユーゴスラビー一名、波蘭一名、和蘭一名、西班牙一名、瑞典一名、伊

太利一名、計二十四名



第二部 家具

部 長(佛國) フェルナン、シヤブサル氏  
 次 長(同) アドリアン、エブラール氏  
 同 (丁抹) ウキルヘルム、ハンサン氏  
 報告者(佛國) ギーヨム、ヂヤンノー氏  
 委員 佛國三十八名、日本一名森田菊次郎、西班牙一名伊太利一名、土耳其一名、丁抹一名、瑞西一名、奧地利一名、ユーゴスラビー一名、英國一名、支那一名、チエツコスロヴァク一名、白耳義一名、瑞典一名、計五十一名

第三部 裝飾品

部 長(佛國) ルキ、ドウセ氏  
 次 長(同) フーケ、ラバール氏  
 同 (西班牙) ルキ、マルケ氏  
 報告者(佛國) ガブリエル、ムーレー氏  
 委員 佛國十五名、土耳其一名、丁抹一名、希臘一名、瑞西一名、白耳義一名、計二十名  
 第四部 劇場、街路及庭園ニ關スル工藝  
 部長(佛國) チヤツク、ルーシエ氏  
 次 長(同) アルホンヌ、フランク氏

同 (同) ルキ、メトマン氏  
 同 (ユーゴスラビー) ボボ、ビツク氏  
 報告者(佛國) ボール、アルファツサ氏  
 委員 佛國九名、リユクサンプルグ一名、露國一名、モナコ一名、計十二名  
 第五部 教育  
 部長(佛國) ラベ氏  
 次 長(同) グスタヴ、ドロニ氏  
 同 (希臘) ニコラ、ラリイ氏  
 報告者(佛國) ルキ、ウールチツク氏  
 委員 佛國二十九名、日本一名保坂光山、フキンランド一名、波蘭一名、英國一名、希臘一名、和蘭一名、チエツコスロヴァク一名、奧地利一名、露國一名、レトニア一名、計三十九名

三 日本部受賞一覽 (括弧内ハ協賛賞)

第一部 第一類	部 類	出品人數	受 賞						計
			オールコ ンクール	大賞	名譽賞	金賞	銀賞	銅賞	
一			(三)						(三)







同 同 同 同 同 同 同 同 同 同 同 同 同 同 同 同

同 同 同 同 同 同 同 同 同 同 同 同 同 同 同 同

同 同 同 同 同 同 同 同 同 同 同 同 同 同 同 銀

玉 籃 漆 蒔 竹 烏 蒔 漆 漆 漆 竹 木 漆 漆 蒔 蒔 蒔  
蟲 胎 器 繪 製 繪 器 フインガーボール 器 物 花 製 器 器 繪 繪 繪  
喰 漆 器 扇 盛 視 視 置 花 用 器 器 繪 繪 繪  
塗 器 面 物 視 視 臺 瓶 簞 卓 瓶 簞 盒 手  
視 花 繪 手 籠 籠 箱 箱 ポール 臺 籃 筭 筒 瓶 簞 盒 巾  
箱 臺 盆 筥 籠 籠 箱 箱 籠 籠 箱 箱 籠 籠 箱 箱 籠 籠

石 福 大 石 大 靜 東 京 石 大 東 大 富 朝 東 愛 東  
川 岡 阪 川 阪 岡 京 都 川 阪 京 阪 山 鮮 京 知 京

生 久 越 加 山 榊 由 岩 橋 川 飯 中 岡 金 都 鶴 辻  
駒 留 田 藤 本 原 木 村 本 合 塚 原 田 筑 原 村  
米 田 義 竹 源 尾 真 美 信 鳳 元 雪 奉 幸 鶴 松  
籃 尾 一 龍 三 雪 真 美 信 鳳 元 雪 奉 幸 鶴 松  
胎 尾 一 龍 三 雪 真 美 信 鳳 元 雪 奉 幸 鶴 松  
漆 尾 一 龍 三 雪 真 美 信 鳳 元 雪 奉 幸 鶴 松  
器 尾 一 龍 三 雪 真 美 信 鳳 元 雪 奉 幸 鶴 松  
會 尾 一 龍 三 雪 真 美 信 鳳 元 雪 奉 幸 鶴 松  
社 尾 一 龍 三 雪 真 美 信 鳳 元 雪 奉 幸 鶴 松  
弘 尾 一 龍 三 雪 真 美 信 鳳 元 雪 奉 幸 鶴 松

同 同 同 同 同 同 同 同 同 同 同 同 同 同 同 二

同 同 同 同 同 同 同 同 同 同 同 同 同 同 八

同 同 同 同 同 同 同 同 同 同 同 同 同 同 大

蒔 蒔 蒔 紫 漆 竹 蒔 桑 介 籃 漆 漆 蒔 螺 竹 棕 翠  
繪 繪 繪 檀 器 製 骨 胎 器 器 繪 銅 製 栢 栢  
手 鳳 雁 ノ 製 象 漆 鎌 洞 繪 鏡 製 栢 栢  
箱 花 畫 手 嵌 漆 倉 張 置 鏡 器 栢 栢  
及 文 額 手 漆 食 手 物 檯 局 盆 簾  
視 庫 盆 箱 箱 桌 小 文 檯 檯 盆 簾

京 東 富 同 東 同 京 大 東 福 神 東 京 同 東 石 京  
都 京 山 京 都 阪 京 岡 奈 都 都 京 川 都

岡 松 中 木 山 森 迎 三 峰 赤 後 柳 三 豐 飯 大 西  
本 田 村 內 崎 田 田 好 岸 松 藤 澤 上 川 塚 垣 河  
專 權 喜 省 覺 新 彌 寶 商 運 一 治 楊 鳳 昌 源  
助 六 郎 古 郎 郎 悅 衛 光 店 久 抱 郎 溪 齋 訓 郎  
助 六 郎 古 郎 郎 悅 衛 光 店 久 抱 郎 溪 齋 訓 郎







同 同 同 同 同 同 同 同 同 同 同 同 同 同 同

同 同 同 同 同 同 同 同 同 同 同 同 同 同 同

同 同 同 同 同 同 同 同 同 同 同 同 同 同 同

電 氣 ス タ ン ド  
竹 製 盛 籠  
木 製 植 木 鉢 カ バ ー  
木 製 天 平 模 様 手 筥  
漆 器 都 錦 菓 子 鉢  
木 製 漆 塗 洋 家 具  
籐 製 椅 子 掛 筥  
茶 筥  
木 製 四 枚 折 屏 風  
檜 細 工 菓 子 入  
漆 器 名 刺 盆  
竹 花 筒  
蔓 細 工 バ ス ケ ッ ト  
漆 器 果 物 鉢  
漆 器 亂 箱  
籐 製 手 提 籠

神 奈 川 愛 媛 山 形 香 川 石 川 東 京 神 奈 川 大 阪 滋 賀 香 川 大 分 青 森 香 川 東 京 大 阪

小 西 忠 次 郎 佐 伯 齋 藤 與 惣 左 衛 門 齋 藤 岐 工 藝 社 青 木 外 吉 小 岩 古 明 篠 原 義 雄 深 田 松 之 助 奈 良 茶 筥 業 組 合 本 田 德 次 郎 中 田 岩 松 松 田 春 次 佐 藤 峰 逸 吉 坂 本 榮 造 芝 山 宗 明 柳 田 幾 治 郎

同 同 同 同 同 同 同 同 同 同 同 同 同 同 同 二

同 同 同 同 同 同 同 同 同 同 同 同 同 同 八

同 同 同 同 同 同 同 同 同 同 同 同 同 同 銅

紫 檀 製 小 宮  
漆 器 手 筥  
蒔 繪 石 楠 木 書 棚  
竹 製 小 鳥 籠  
蔓 細 工 盛 籠  
竹 製 花 籃  
木 製 釣 燈 籠  
竹 塗 手 巾 入 箱  
竹 網 代 文 庫  
料 紙 文 庫  
陶 漆 柘 榴 圖 花 瓶  
堆 朱 香 盆  
經 木 製 菓 子 入  
蔓 細 工 バ ス ケ ッ ト  
堆 朱 彫 卓  
竹 花 籠  
漆 器 フ ェ ン ガ ー ボ ー ル

新 潟 島 根 富 山 香 川 青 森 東 京 奈 良 山 形 大 阪 香 川 東 京 同 滋 賀 長 野 栃 木 新 潟 石 川

小 川 悠 小 谷 歡 岡 田 雪 大 田 福 太 宮 腰 太 助 佐 々 木 光 岳 西 田 正 美 廣 瀨 清 治 山 下 力 高 橋 皖 山 結 城 哲 富 樫 光 成 中 村 松 次 郎 野 澤 温 泉 木 通 蔓 組 合 篠 原 發 三 郎 新 潟 竹 工 所 筑 城 良 太 郎







同 同 同 同 同 同 同 同 同 同 同 同 同 同 同

同 同 同 同 同 同 同 同 同 同 同 同 同 同 同

同 同 同 同 同 同 銅 同 同 同 同 同 同 同 同 同

卓 唐 銀 鑄 青 銀 銅 青 青 瓶 銀 銅 青 銀 青 鑄 青  
銅 銅 製 銅 銅 銅 銅 銅 銅 銅 銅 銅 銅 銅 銅 銅 銅  
上 葎 花 花 花 花 花 花 花 花 花 花 花 花 花 花 花 花  
鏡 瓶 器 壺 瓶 瓶 瓶 瓶 壺 掛 壺 台 指 器 爐 器 瓶

同 同 同 東 山 同 同 同 東 石 東 大 同 東 京 同 東  
京 形 京 川 京 阪 京 都 京

川 香 神 柄 橫 染 清 内 山 山 杉 島 西 永 秦 北 佐  
島 取 矢 澤 倉 谷 水 藤 本 川 田 村 池 村 々  
東 正 教 濤 嘉 一 龜 春 安 豐 禾 佐 敏 忠 藏 乘 木 象  
州 彦 親 雲 山 香 藏 治 曇 松 堂 衛 彦 勝 六 雲 堂

三二

同 同 同 同 同 同 同 同 同 同 同 同 二 同 同 二

同 同 同 同 同 同 同 同 同 同 同 同 一〇 同 同 九

同 銀 同 同 同 金 同 名 同 同 大 同 同 <sup>ン</sup>同 <sup>オ</sup>同 <sup>ール</sup>同 <sup>ル</sup>同 <sup>コ</sup> 同 同 銅

錫 鈞 銅 風 象 鑄 銀 香 七 七 銅 同 同 審 卓 セ ト  
製 鈞 製 嵌 銅 製 製 寶 打 同 同 査 上 ル ラ  
花 花 花 莫 蜘蛛ノ圖花 花 寶 出 査 セ ロ イ ン  
瓶 生 瓶 釜 入 瓶 瓶 爐 瓶 箱 壺 員 ト 鏡 製 プ 入

鹿 同 東 大 京 同 東 石 愛 京 同 東 愛 大 同 大 東  
兒 京 阪 都 京 川 知 都 京 知 阪 阪 京

星 北 山 大 駒 市 渡 米 安 稻 黒 四 太 中 大 田 播  
山 原 本 國 井 橋 邊 澤 藤 葉 川 谷 田 島 日本セルロイド株式會社 殿 伊  
武 三 純 柏 音 次 重 兵 七 義 正 藤 保 美 造 信 商  
八 郎 民 齋 郎 堂 里 安 衛 穂 勝 美 郎 美 社 造 店

二〇







同 同 同 二 同 同 同 同 同 同 同 同 同 同 同 同  
 同 同 同 三 同 同 同 同 同 同 同 同 同 同 同 同  
 同 同 同 大 同 同 囊 同 同 同 同 同 同 同 銅 同 同  
 羽 錦 カ 綴 手 果 香 紅 花 花 榻 飾 花 花 花 花 高  
 二 地 一 錦 付 實 茶  
 重 唐 テ 卓 火  
 纈 織 地 掛 鉢 皿 爐 器 瓶 瓶 壺 瓶 瓶 瓶 瓶 附  
 窓 掛 織 地 掛 鉢 皿 爐 器 瓶 瓶 壺 瓶 瓶 瓶 瓶 附  
 同 同 同 京 愛 同 同 石 滋 島 佐 京 神 同 同 京 石  
 都 知 川 賀 根 賀 都 奈 川 都 川  
 湯 野 龍 川 市 中 柄 石 信 中 深 楠 井 諏 伊 清 矢  
 淺 淵 村 島 橋 村 本 野 樂 島 川 部 上 訪 東 風 口  
 專 龜 平 甚 正 秋 曉 龍 陶 秀 忠 彌 良 蘇 陶 與 壽  
 太 藏 兵 雄 塘 舟 山 器 市 次 一 齋 山 山 平 太  
 郎 吉 衛 雄 塘 舟 山 器 市 次 一 齋 山 山 平 郎

同 同 同 同 同 同 同 同 同 同 同 同 二 同 同 同 二  
 同 同 同 同 同 同 同 同 同 同 同 同 一 同 同 同 〇  
 同 同 同 銀 同 同 同 同 同 同 同 同 同 大 同 同 同 囊  
 萩 花 花 花 普 瓶 高 額 花 香 傘 眞 唐 鐵 鑄 銀 臘  
 燒 羽 燒 葛 草 銅 打 銀  
 水 額 燒 紋 香 花 水 出 花  
 匣 瓶 瓶 瓶 面 掛 杯 皿 瓶 爐 立 爐 瓶 瓶 盤 盆 瓶  
 山 同 京 島 京 愛 同 同 京 石 愛 神 京 大 京 東 石  
 口 都 根 都 知 都 川 知 川 都 阪 都 京 川  
 坂 宇 內 船 清 瀬 河 浮 平 秋 井 宮 井 佐 平 吉 山  
 高 野 島 木 水 戸 陶 村 田 岡 山 上 川 本 野 吉 田 川 二  
 麗 仁 北 太 兵 瀬 戶 陶 磁 工 商 同 業 組 合 村 田 樂 兵 次 房 太 香 米 彌 兵 金 孝  
 左 衛 門 松 朗 郎 衛 山 德 衛 作 郎 山 泉 助 衛 彌 次







同	同	同	三	同	同	同	同	同	同	同	三	同	同	同	同
同	同	同	二	同	同	同	同	同	同	同	二	同	同	同	同
同	同	名	大	襄	同	同	銅	銀	同	同	金	名	同	同	銅
扇	日	貝	日	博	同	刺	紋	刺	額	日	友	正	羽	雜	同
				多		織	小	織	額	本	仙	田	子	人	多
				織		着	濱	着	長	婦	着	總	長	板	人
子	傘	卸	傘	帶	物	物	襲	物	袴	服	物	袴	板	形	形
京	香	長	岐	福	同	神	同	同	同	同	同	京	同	東	同
都	川	崎	阜	岡	同	奈	同	同	同	同	同	都	同	京	岡
藤	讚	藤	勅	中	竹	山	内	杉	河	廣	高	浦	武	橫	原
田	岐	井	使	西	内	本	藤	本	本	岡	島	田	者	山	田
貞	傘	儀	河	金	本	直	良	松	庄	伊	屋	田	萬	正	嘉
治	同	一	原	太	之	次	良	之	兵	兵	吳	清	之	三	平
郎	業	郎	合	資	助	郎	耕	助	衛	衛	服	造	助	三	一
	組		會	會							店				
	合		社	社											

同	同	同	同	同	同	二	同	同	同	二	同	同	同	同	同	二
同	同	同	同	同	同	一	同	同	同	一	同	同	同	同	同	一
同	同	銀	同	金	名	大	銅	銀	名	銅	同	銀	同	金	名	
										ン	オ	ル	コ			
木	博	淺	麻	人	同	人	木	木	木	審	蓮	蓮	ラ	提	大	
製	多	草								版	草	草	ン	灯	大	
	人	人								美	製	色	ブ	及	内	
	人									人	員	紙	笠	燭	行	
具	形	形	雀	形	形	畫	畫	畫	畫	員	品	紙	笠	臺	燈	
滋	福	東	大	京	同	京	大	同	同	東	同	臺	岐	愛	同	
賀	岡	京	阪	都	都	都	阪	同	同	京	同	灣	阜	知	阜	
中	小	山	大	並	大	清	三	渡	橋	日本	金	臺	村	鈴	尾	
村	島	田	日本	河	木	水	宅	邊	口	木	泉	成	瀨	木	關	
松	與	德	七	忠	平	勝	春	庄	中	成	發	商	榮	寅	治	
次	一	兵	ロ	次	藏	藏	陽	三	甚	會	通	會	吉	松	七	
郎	衛	衛	イ	郎	藏	藏	陽	郎	助	社	紙	會	會	會	社	
			下							代	表	會	會	會	社	
			株							表	者	社	社	社	社	
			式							者	甚	社	社	社	社	
			會							甚	社	社	社	社	社	
			社							甚	社	社	社	社	社	







五	三〇	名	富山縣立工藝學校出品協贊人	富山	富山縣工藝學校校長 伊藤 宜良
同	同	同	木竹手工工品	東京	番町尋常小學校
同	三一	金	番町尋常小學校出品協贊人	東京	番町尋常小學校校長 服部 翁
同	同	同	圖案額	京都	京都美術工藝學校
同	同	同	金工品各種	愛知	名古屋工藝學校
同	三二	銀	磁器	石川	石川工藝學校
同	三四	金	大和人形、屏風	東京	共立女子職業學校
同	同	同	着地織物	同	東京裁縫學校
同	同	同	帶地織物	群馬	桐生高等工業學校
同	同	同	染織物	京都	京都高等工藝學校
同	同	銀	織物圖案	靜岡	濱松工業學校
同	同	同	刺繡編物及袋物	東京	日本橋女子高等小學校
同	同	同	七五三人形	同	戸板裁縫學校
同	同	同	着物	大阪	江戸堀尋常高等小學校
同	同	同	着物	東京	一ツ橋高等小學校
同	同	銅	刺繡額	同	九頭龍繡畫女學校
同	同	同	日本書	京都	京都繪畫專門學校

### 五 審査概論

昨日ト過キ今日ト暮レ行テ推移止ム時ナク變轉窮リナキ世ニ於テ「現代トハ何ソヤ」「現代裝飾美術工藝トハ如何ナルモノナルヤ」コノ博覽會ヲ見ル上ニ於テ先ツ最初ココノ意義ヲ釋明スル必要カアル。

囑託 東京美術學校教授 津 田 信 夫

現代 (Moderne) ハ又最近或ハ當今トモ譯スヘク、漠然タル意味ニ於ケル「現在時」ノ表示テアル即チ「コノ代」「コノ年」「コノ月」「コノ日」皆現代デアリ嚴格ナル意味ニ於テハ「コノ現在時」デアラネハナラヌカ要スルニ「コノ現在時」ニ遠カラサル過去及ヒ推測シ得ヘキ近キ未來ニ涉リテノ時ノ概念デアアル美術工藝カ時代思潮ノ反映デアル事ハ申迄モナイ然ラハ現代裝飾美術工藝トハコノ現在時ニ近キ過去ノ思想感情カラ生レ遠カラサル未來ニ及ボスヘキ工藝トイハネハナラヌ即チ最近様式或ハ平易ニ解釋シテ當今ノ美術工藝トイフ意味デアアル

此ノ如ク考ヘ又コノ博覽會主趣等ヲ參照スレハ當博覽會ハ最モ新シキ形式ト内容トヲ以テ去年ヨリモ今年ノ思想ノ上ニ先月ヨリモ今年ノ感激ノ下ニ製作サレタル美術工藝ヲ展開シ近キ未來ヲ暗示スルニ足ルヘキ各國ノ文化習俗趣味感情ヲ對照シテ以テ現代社會生活ノ半面ヲ表示スヘキ裝飾術ノ競技ト同時ニ經濟的運動ノ一ニ外ナラヌノデアアル然ラハコノ博覽會ノ施設或ハ列品カ審美的理論又ハ鑑賞的感覚ノ上ニ假令幾多ノ異說反感アラントモ夫ハコノ博覽會ノ計畫ノ外ニ屬スルモノデアツテ從テ過去ノ藝術ノ圖樣形式ヲ傳承襲踏セル作品ノ如キハ假令審美的ニモ



鑑賞的ニモ其美ヲ認ムルニ異論ナシトスルモ夫ハコノ博覽會開催ノ主意ニ反スルモノテアル故ニ苟モコノ博覽會ニ參加シタル以上其主趣ヲ尊重シ其規則ニ從フヘキハ勿論コノ博覽會ヲ視察シ或ハ其批判査定ヲ爲スニ當リテモ亦同シク其主趣ヲ能ク考慮セサレハ必スヤ其標準ヲ失シ的確ナル判斷ヲ得サルヘシ假令個人的鑑識理論カ如何ニ卓絶シ如何ニ正當ト信セラルル場合ニ於テモコノ博覽會ノ主趣ヲ考慮ニ置カサルニ於テハ恰モ標的ヲ無視シテ放チタル砲彈ト等シクコノ博覽會ニ對スル批判トシテハ全然無効ノ空彈テアル

或ハ說ヲ爲スモノアリ美術工藝ニ全ク新シイトイフモノハ有リ得ナイ必スヤ前代ヲ繼承シ過去ノ藝術ヲ基礎トスル故ニ假令傳統的ノ圖樣形式ノ物テモ夫ニ一種ノ新シキ試ミカ付加ヘラレタルモノナレハ新美藝新工藝トイフテモ差支ナイテハナイカト此ノ如キ折衷藝術論ハ美術ヤ工藝ヲ墮落サスルモノテアル事ハ幾多ノ實例ヲ歴史上ニ見ル事カ出來ル凡ソ人文進化推展ノ上ニ於テ前代ヲ考證セス前人ノ遺業ヲ參照セサルモノハ一ツモ有リ得ナイ併シ夫ハ單ニ傳統繼承テハナクシテ夫ニ暗示ヲ得夫ニ啓發サレテ新シキ發見ヲ爲シ新シキ生産ヲスルモノテアル夫カ即チ其時代ニ於ケル新美藝新工藝トイハネハナラヌルネツサンスノ美術ハ希臘羅馬ノ單ナル傳統テモナク天平藤原ノ工藝ハ單ニ支那ノ繼承テハナイ全ク夫等ノ美術工藝ニ感受ヲ得テ其時代ノ生シタ新美藝テアリ其國民ノ發見シタ新工藝テアル其所ニルネツサンスノ意義カアリ天平藤原ノ貴サモアルノテアル之ヲ科學ノ上ニ見ルモ之ヲ産業ノ上ニ見ルモ新發見新工夫ハ進歩發展ノ第一則テアラネハナラヌ

時代思潮ノ反映カ最モ明ニ美術ヤ工藝ノ上ニ現ハレテ其時代ノ様式ヲ爲ス事ハ今更云フ迄モナイカ夫ハ穎敏ナル先覺者ニヨリテ早く發表セラレ偉大ナル勢力家ニヨリテ大成セラレ而シテ終ニ自覺ナキ傳統追隨者ニ依テ墮落スル事ハ古今東西ノ歴史ニ見テ明カナル事實テアルサレハコノ博覽會ハ一面ニ於テ萬國何レノ國カカ、ル先覺ト勢力家ヲ有スルカヲ比較對抗セントスル一種ノ裝飾藝術競技會場テアルトモイヘル

歐洲ノ大半ヲ戰場トシテ世界各國カ參加奮争セシ大戰カ如何ニ多量ニ物質的影響ヲ戰後ニ殘シタルカハ云フ迄モナク其思想ヤ感情ノ上ニ於ケル變化ノ著シキ僅ニ十數年ノ戰前ニ比シテ隔世ノ感カアル思フニコノ世界大戰ハ間接直接ニ種々ノ起因カアツタテアロウカ近代世界列強ノ物質的文明ノ誇リト科學萬能ノ過信トハ極度ニ達シテ終ニ其應酬ヲ試ミタノテハアルマイカ而シテ其勝敗ノ數ハ物質ノ量ノミニアラス科學ノ力ノミニモアラスシテ國民ノ潜在思想ヤ感情ニ依テ終決シタトモ見ユル而シテ戰後十數年ノ今日猶未タ物質的整理ニ苦シミツツ戰禍ノ慘ヲ嘆スルノテアル茲ニ世界人心ハ物質的文明ニ飽キ足ラスシテ精神文明ノ天地ヲ開拓シ理智ノ世界ヲ超越シテ感情ノ樂園ニ遊ハント欲スルノテハアルマイカアラユル羈絆ト束縛トヨリ免カレアラユル差別ト強制トヲ絶チテ最モ自由ニ最モ自然ニ最モ簡易ニ最モ平等ニ生活ノ享樂ヲ欲スルノテハアルマイカ換言スレハ原始的的生活ノ秋ニ憧憬シテ居ルトモ見ユル

社會ノ變遷ハ思想推移ノ大勢ニ從ヒ思想ヤ感情ノ發露ハ美術ヤ工藝ニ見テ其時様ヲ知ル事カ出來ル之ヲ歐洲ノ歴史ニ徵スルニ中世ノ美術ハ教義中心ニ發達シ主權確立シ封建ノ世トナリテハ



美術ヤ工藝ハ王者貴族ノ周圍ニ榮ヘ個人思想興リテ美術ノ獨立トナツタ而シテ近代歐洲ノ物質的文明科學萬能ノ時代トナリテハ寫實主義ハ極端迄發達シ資本主義經濟組織ヨリ生レタル金權富力ハ華美驕奢ノ好尚ヲ馴致シアラユル資財ヲ集メアラユル理智ヲ究メアラユル技巧ヲ盡シテ絢爛目ヲ驚スニ足ルノ美術工藝トナルモ只夫レ外面ノ形様傳彩ノ巧緻細精ニ過キスシテ内容ノ精神感情ハ空漠トシテ現ハレサルニ至ツタ

歐洲美術工藝カ「ルネッサンス」以來希臘羅馬ノ盛時ヲ憧憬シテ復タ主義ヲ唱ヘタル事ハ絶エ間ナク續イタケレトモイツモ希臘羅馬ノ最盛ヲノミ望ミテ其據ツテ來ル大本ヲ究メサリキ十八世紀中葉以來上古都市ノ發掘ハ漸ク盛ニナリ殊ニ近時各國ノ發掘事業ハ恰モ競争ノ姿トナリテ其手東洋ニ迄及ヒ上古民族ノ殘シタル美術工藝ニ著シク興味ヲ感スルト共ニ又多大ノ啓發暗示ヲ受ケテ茲ニ希臘羅馬ノ盛時ヲノミ望ミタル復古主義ハ更ニ進ンテ原始時代古拙時代ニ廻リテ其大本ヲ究メ源流ニ立チカヘリテ改メテ出發セントスル様ニナツタ只ニ上古民族ノ遺品ニ興ヲ感スルノミナラス「アフリカ」其他現時未開民族ノ製品ヨリモ印象ヲ受クル尠カラスシテ其稚拙ナル手法ノ内ニ自ラ感情ノ溢ルルヲ發見シ邪氣ナク匠氣ナク單純素朴天真爛漫トシテ情趣ノ閃クヲ見テ土人製作ノ彫刻工藝品ノ蒐集カ上古發掘品ト共ニ現時歐洲美術家愛好家ノ時流トナリ時價驚クヘキモノアルニ見テモ其一般ヲ察スルニ足ルヘク要スルニ現代歐洲美術工藝ノ大勢ハ技巧ノ末ヲ捨テテ感情ノ純裏ニ立チ戻レト叫ンテ居ルノテアル更ニ之ヲ一般習俗時流ノ上ニ見テ其趣味好尚ヲ察スレハ簡單露骨ヲ喜ヒ虛飾ヲ去リ褥禮ヲ捨テ

利那ニ樂シミ深刻ヲ考ヘサルニ似タリ獨逸人ノ五分胡頭ニ帽ヲ被ラス佛國婦人ノ斷髮短袴子女ニ類スル姿容ヲ見テハ如何ニ簡便露骨ノ趣味好尚テアルカヲ知ルニ足リ堅忍自尊傳統保守ノ英國人サヘモオ國自慢ノ「セキスピヤ」劇ナトヲ更ニ喜ハスシテ皆活動寫眞ニ赴クヲ見テハ如何ニ深刻ノ情味ヲ缺キテ利那ノ感動ニ就クカヲ察スルニ足ラン米鹽ノ糶ニ迄事欠キタル大戰ノ慘禍ヲ深刻ニ味ヒ國帑ヲ盡シ同胞ヲ失ヒ物質的ニモ精神的ニモ悲痛沈衰ヲ極メタル歐洲國民ハ戰後ノ慰安トシテ利那ニ樂シムモ無理カラヌ事テアル禮節ハ之ヲ知ルモ外容ヲ整ヘ表裝ヲ飾ルノ餘裕ハアルマイ麻痺衰弱セル神經ハ強烈ノ色彩ニ依テ興奮シ利那ノ刺撃ニ依テ感動スルノテアルサレハ簡單露骨利那即興ノ時流ヲ爲スモ當然テハアルマイカ然リ時流テアル或ハ一時ノ風潮ニ過キヌカモシレヌサレト社會ハ平等ノ思想ニ向ツテ進展シツツアルハ疑ヲ容レナイ平等ハ簡易單純ヲ本則トシ簡單露骨ハ原始生活ノ本體テアル利那ノ衝動ハ幼稚時代ノ感動テアリ強烈ナル色彩ハ原始民族ノ趣好テアル之ヲ要スルニ現代歐洲國民ノ思想ノ趨勢或ハ趣味好尚ノ一般ニ見テモ或ハ現代美術工藝表現ノ形式ノ上ニ見テモ悉ク皆簡單素樸原始的傾向ヲ帶ヒナイモノハナイ客觀的寫實主義ヲ突キツメ技巧ヲ究極シタル歐洲美術工藝ハ一轉シテ主觀的理想表現ニ進展シツツアルノテアル歴史ハ繰リ返ストイフカ天變地異ニモ勝リテ歐洲ノ天地ヲ大動亂ノ淵ニ陥レ物質上ニモ精神上ニモ多大ノ變化ヲ殘シタル世界大戰ハ正ニ一新時機ヲ劃シテ宇宙ヲ一轉シ改メテ新世界ヲ造リ新世紀ヲ創メ出シタルニハ非ルカ本ノ奎阿彌原始草創ノ時代ニ繰リ返シタノテハアルマイ因果シテ然ラハ百般ノ事物皆新規創造テアル新ニ形造リ新ニ色取ラネハナラス佳



居ニモ衣履ニモ食飲ノ器娛樂ノ具墳墓ノ前後ニ至ル迄吾人ノ生活全面ハ皆新様ヲ以テ修飾セラレネハナラヌノテアル

美術工藝カ獨創テアラネハナラヌ事ハ勿論ナルモ又前代ノ遺品ニヨリ啓發サレ他國ノ作品ヨリ感受スル事モ必要テアル故ニ歐洲美術工藝カ直接觸セル古今東西ノ各國ヨリ參考資料ヲ取り入レタル事モ夥シク殊ニ近代歐洲各國ノ權勢富力ハ漁リテ殘ササル迄ニ探究シテ歐洲及近東ノ天地ニハ新資料ナキニ至ツタ客觀的寫實主義ヲ究極シタル歐洲ノ近世美術ハ一轉シテ主觀的理想主義トナリ極東ノ天地ニ其參考資料ヲ求メツツアルノテアル

支那ハ極東ニアリテ世界文明ノ一大淵源タルハイフ迄モナク特ニ美術ノ上ニ現ハレタル其質ノ卓絶シテ其量ノ豊富ナル未タ世界ニ知ラレサルモノ甚タ多ク而シテ支那ノ美術カ寫實ヲ超越シテ氣韻ヲ尊ヒ理想表現ニ大成セル事ハ論ヲ俟タナイ又日本ハ夙ニ直接支那ノ文化ヲ吸收シ又間接ニハ印度希臘ノ文物モ傳ハリテ東西文化ノ精ヲ醞釀シ特殊ノ文化ヲ發育シタ佛教ノ渡來ハ天平藤原ノ様式ヲ生ミテ希臘羅馬ニ劣ラサル美術トナリ禪宗ノ輸入ハ茶道ト共ニ淡枯素朴ノ趣味トナリテ工藝ノ發達ニ特別ノ功績ヲ殘シタ茲ニ歐洲美術カ極東ニ手ヲ延ハシテコノ未知數ニ寶藏セラルル支那ノ美術ヤ清楚高雅ノ日本工藝ニ接觸シ新資料ヲ取り入レントスルノ欲望ハ原始的復古主義ト相應シテ探究正ニ急ナルカ如ク唯ニ内容ノ資料ノミナラス手法ノ外形迄モ取り入レツツアルヲ見ル獨逸ノ工藝學校ニ於テ日本毛筆畫ノ手法ヲ練習シ佛國ノ工藝美術家カ日本人支那人ニ就テ漆工ヤ金工製作ヲ試ムルカ如キ其一例ナリトス

以上大體現代歐洲美術工藝ノ上ニ現ハレタル美的概念ノ推移ト表現ノ傾向トヲ略述シタ申迄モナイカ茲ニ原始的復古主義トイフタノハコノ美的概念ノ夫テアツテ工藝製作ノ手段經營ノ形式ノ夫テナイ事ハ勿論テアル若シ夫レ工藝製作ノ手段經營ノ形式ニ就テハ科學ト藝術ノ確實ナル提携テアリ美術ト工業トノ密接ナル運動テアリ而シテ夫等カコノ原始的表現美ト相俟テ偉大ノ效果ヲ擧ケ絶大ノ勢力ヲ以テ大戰後ノ市場ニ臨ミ世界民衆ノ前ニ開展シツツアルノテアル大戰後ノ異常ナル迴轉期ニ臨ミ形而上ニモ形而下ニモ刷新改造是急ナルノ時經濟問題ヤ社會問題ト相伴ツテ新工藝ノ發展ニ就テハ世界各國ノ焦慮スル所軍國時代ニ於ケル兵器彈藥ノ夫ヨリモ盛ナリトイフテヨイ而シテコノ博覽會開催ノ主趣モ亦實ニ茲ニ存シ外廓内容共ニ徹底シテ誠ニ意義アル博覽會テアツタ興行上手ノ佛蘭西ハ坐ナカラニシテ世界ノ工藝ヲ集メ己ノ粹ヲ誇ルト共ニ各國ノ長所ヲ取り入レ花モ實モアル成功裡ニ終ツタノテアル

コノ博覽會ハ佛蘭西裝飾美術家協會(Société des artistes décoratifs Français)トイフ團體カ中堅トナリ會員ノ裝飾畫家裝飾彫刻家建築裝飾家工藝美術家等カ一致協同シテ内外ノ設計施設ノ全般ニ涉リテ働イタノテアル而シテコノ博覽會ヲ開クニ至ツタ動機ハ世界大戰中出陣シタル會員等カ陣地ニ在ツテ戰後ノ佛蘭西トイフ事ニ就テ考ヘ文化的又經濟的見地ヨリ裝飾美術工藝ヲ以テ世界ニ臨ミ國威ヲ擴張シヨウトイフ相談ヲシタノカ其基ヲ爲シタトイフ事テアル勿論萬國博覽會ヲ開クトイフ事ハ戰前ニ計畫サレタルモノテ其種類性質モ決定サレヌ内ニ大戰トナリ延期サレテ居タモノテアツタカ兎モ角モ勝敗ノ數モ分ラヌ戰爭中而モ巴里近ク迄獨逸軍ニ押寄セラレテ居タ防



樂陣地ニ在ツテ美術家カソナ相談ヲシタトイフ事ハ感スヘキ事テハアルマイカ  
 コノ博覽會ヲ通觀シテ其施設列品ノ總體ニ就テ一言センカ各國共ニ苦心ノ跡歷トシテ明ニ或ハ  
 時ニ凝リ過キタトイフ感シモアルカ又夫程ニ熱心テアツタトモイヘル各國夫々ニ國民性ノ反映  
 アリ趣味好尚ノ特徴モアリテ具ニ其國勢民狀ト共ニ現代文化ノ程度モ察スル事カ出來又國民ノ  
 精神元氣モ正ニ比例ヲ以テコノ博覽會ニ現ハレテ居ル事ヲ見ル即チ戰後ノ異常ナル廻轉機ニ  
 處シテ敢爲躍進更新改造ノ生氣激濁ナルモノアリ浮薄輕詭徒ニ雷同シ妄リニ追隨シテ自重ナキ  
 モノアリ或ハ戰後ノ改造ニヨリ國勢頓ニ衰弱スルモ民心剛健他日ノ奔躍ヲ期スルノ元氣ヲ示ス  
 モノアレハ過去ノ文華ヲ夢ミ因襲固陋傳統ヲ重シ姑息ニ安シ自覺反正跳反進取ノ意氣更ニナ  
 キモノアリテ正ニ現代社會生活ノ鳥瞰圖テアリ又正ニ現代民族文化ノ大「バノラマ」テアツタ

## 六 各國出品概評

佛蘭西國ノ出品

囑託 東京美術學校教授 津 田 信 夫

主催國テアリ又コノ博覽會ノ中堅タル裝飾美術家協會員等ノ意氣込モ前ニ陳ヘタ通りテアリ全  
 會場面積ノ大半ヲ占領シ質ニ於テモ量ニ於テモ一頭地ヲ抜イテ居タ事ハ爭ハレナイ會場敷地モ  
 巴里目貫ノ場所テ此種ノ博覽會場トシテハ申分ノナイ撰定テアツタ區劃設計ノ配置宜シク交通  
 ノ機關外廓ノ修飾廣告宣傳ノ方法防火衛生ノ設備等遺憾ナク具備シ各種ノ特設館商店ノ窓飾家

具ノ裝飾裝身ノ細貨娛樂遊園ノ設計寺院墳墓ノ末ニ至ル迄全ク傳統的形式ヲ脱シ内容ヲ改メ科  
 學ヲ應用シテ合理的ノ注意ヲ拂ヒ現代ノ美的概念ニ即シテ遺漏ナキ調和ヲ計リ特ニ陳列展示ノ  
 手段方法ニ至テハ用途ノ本質ト裝飾的價值トヲ十分ニ考慮シテ現代生活ニ於ケル審美的欲望ト  
 物質的要求トニ應スヘク苦心慘憺タル觀アリキ由來佛蘭西人ハ感受性鋭敏ニシテ愉快ナル刺戟ヲ  
 悅ヒ簡素明晰ヲ好ミ直觀ノ力強ク端的ニ事物ノ眞諦ニ突入り銳利直截ノ才アルハ學術上ニモ文  
 藝上ニモ發明的獨創的天才ノ生ルル所以ナルモ又一面ニ於テ氣候風土ノ中和ハ民情ヲシテ典雅  
 優美ノ風ヲ馴致シタルト永キ文明ノ餘習ト相俟テ工藝ノ上ニ現ハルル形式ニ悠和圓滑柔弱ニ流  
 ルルノ感ナキニアラス之ヲ北歐ノ寒國特ニ獨逸系統ノ工藝ニ對比シテ著シキ差異アルヲ認ム之  
 ヲ摘要スレハ獨逸ノ工藝ニハ角カアリ過キ佛蘭西ノ夫ニハ圓ミカアリ過クルトモ云ハンカ蓋シ  
 夫カ國民性ヤ思想感情ノ特色アル發露テアリ夫カ面白イノテアル又佛蘭西ノ嶄新ヲ好ミ刺戟ヲ  
 悅フノ性向ハ工藝ニ現ハレテ往々奇技ニ失シ滑稽ニ陥リ突飛放棄ニ流ルルノ餘弊モ見ルカ嶄新  
 ヲ生命トシ流行ノ先驅ヲ爲シテ現代世界工藝ノ翹者タラントスル勇氣ト方策トハ年次ノ「サロン」  
 ニ於ケル出品鑑別ノ方針ニ見テモ明ニ知ル事カ出來特ニ此博覽會ニ於テハ世界工藝ヲ指導スル  
 カ如キ抱負ヲ以テ臨ミタル觀アリテ國際審查場裏時ニ橫暴壓迫ヲ感スルカ如キ實際テアツタ  
 十九世紀初頃ニ於ケル佛蘭西大革命ハ國家ノ面目ヲ一新シタケレトモ美術ヤ工藝ノ上ニハ一向ニ  
 革新カ出來スシテ不相變王朝時代ノ傳統ヲ以テ只徒ラナル浮華虛飾ノモノテアツタ而シテ昔ノ  
 榮華ニ憧憬シ空シキ美術國ノ名ニ自惚レテ居タ而モ一八五一年ノ倫敦世界博覽會ニハ猶餘勢ヲ



以テ美術工藝ノ上ニ優越ノ地位ヲ占ムル事カ出來タレトモ一八六二年ノ倫敦博覽會ニハ俄然トシテ英國ニ其優勝旗ヲ奪ハレタ爲ニ愕然トシテ長夜ノ夢カラ呼ヒ起サレ其誤レル藝術觀念ニ眼ヲ見開イタノテアル而シテ或ハ工藝博物館ヲ建テ或ハ展覽會ヲ創始シ或ハ會議ヲ起シテ趣味ノ涵養トカ工藝生産ノ手段トカヲ考究スル様ニナツタ一八七一年普佛戰爭ノ結果ハ更ニ佛國民ヲ奮起セシメテ一八八一年ニハ美術省カ出來是ヨリ美術ヤ工藝ノ大運動トナリ初等學校師範學校ノ圖畫教授ノ獎勵美術工藝博物館ノ増設美術工藝專門學校ノ設立トイフ様ニナリ更ニ進ンテ一八八九年及一九〇〇年ノ巴里萬國博覽會トナリテ佛國工藝ハ駭々トシテ長足ノ進歩ヲ示シタノテアル世界大戰ノ結果ハ戰勝國ノ名譽ヲカチ得タケレトモ其實質的ニ戰禍ノ大損害ヲ受ケタルハ戰敗國ノ獨逸ヨリモ寧ロ甚シイトイフテヨイサレハ勇敢ナル佛國民カ上下舉ツテコノ恢復ニ勉メ國力ノ増進ニ勵ムモ當然ノ事テハアルカ佛國獨特ノ美術殊ニ近時著シク進歩發達セル美術工藝ヲ以テ世界ニ臨ミ大戰後第一着ニコノ博覽會ヲ主催シタルニ據テ見ルモ如何ニ其抱負ト自信トノ大ナルカヲ知ルニ足リ又正ニコノ文化的世界大戰ノ優勝者テアツタ事ハ強チ手前味喰トノミ評スヘキテナイトオモフ只コノ博覽會ニ獨逸國ノ參加ヲ見スシテ一大強敵タル獨逸工藝ヲ逸シタ事ハ佛國民トシテモ遺憾テアツタ事タロウ

## 英吉利國ノ出品

佛國ヲ除キテハ參加列國中最大ノ面積ト多數ノ出品トヲ爲シ堅實ナル施設ニ依テコノ博覽會ニ臨ミタルハ最モ能ク英國國民ノ氣質ヲ表ハシ恰モ裝甲自働車ヤ大甲鐵艦ヲ以テ戰場ニ臨ミタルノ

感カアル英國國民ノ堅忍克己着實自尊ノ性情ハ虛飾浮華ノ念ナク膺揚迫ラサルハ大國民ノ襟度トシテ其長所ナルモ一面獨逸人ノ機智ニ乏シク佛國民ノ敢爲ニ及ハサル遠シトイフテヨイ十八世紀中葉以來蒸氣機關ヤ紡織器械ヲ發明シテ世界中第一番ニ産業革命ヲ起シタル英國ハ近世資本主義ニ據ル經濟組織ノ下ニ大量生産ノ工藝政策ヲ建テテ著シキ生産能率ヲ擧ケ大ナル富ヲ獲得シタカ是ト同時ニ又器械ニ使ハレ金力ニ驅ラルトイフ人間生活ノ悲慘ナル壓迫ヲモ第一番ニ受ケタ國テアル即チ一面ニハ資本家トイフ一ノ富豪階級カ出來テ遽カニ獲得シタル富ヲ以テ貴族生活ノ摸倣トモイフヘキ一種ノ社會ヲ形成シ金ピカ虛飾所謂成金趣味ノ流行トナリ而シテ一面ニハコノ大量生産工藝カ手工藝ノ職ヲ奪ヒ無意義ニ無自覺ニ手工藝ノ模倣ヲ爲シ所謂古典模倣藝術ノ全盛ヲ來シタ而シテ又一方ニハ多數ノ無職業者カ出テ刻々ニ生活ノ壓迫ヲ感スル様ニナリ十九世紀初頃ノ英國ハ實ニ趣味ノ墮落ト共ニ人間生活ノ本質ヲ空疎ニ陥レタノテアル茲ニ於テトーマスカーライルヤジョンラスキン等カ出テ大ニ趣味ノ鼓吹ト生活ノ美化ヲ説キ博物館美術館ノ建設ヲ唱導シ大ニ社會人心ニ警告ヲ與ヘタ續イテウイリアムモリス出テ實際的運動トシテマートンアツベリニ工場ヲ起シ自ラ職工ニ伍シテ勞働シ機械ヲ捨テテ手工藝ノ復興ニ盡力シタ其結果ハ一八六二年ノ倫敦博覽會ニ大好評ヲ博シ佛國ノ位置ヲ脅ス様ニナツタ其後一八八八年ノ倫敦美術工藝展覽會ニ於テモ多大ノ印象ヲ與ヘ英國ノ工藝發達ニ大ナル貢獻ヲ爲シタノテアルカモリス死後ハ英國流ノ保守主義カ又モ勝ヲ制シテ再ヒ古典憧憬模倣主義トナリテ爲ニ英國工藝ハ大ニ其進展ヲ阻害サレテ十九世紀ヲ終リ更ニ大戰後ノ英國工藝ハ獨佛ノ爲ニ壓迫サ



レツツアツタノテアルサレハコノ博覽會ニ於テ優勝ノ位置ヲカチ得サリシ事ハ云フ迄モナイカ  
 社會運動ニハ常ニ周到ノ考ヲ以テ任スル英國民カ國民生活ト密接ナル關係アリ時代思潮ト形影  
 相供フ工藝ニ對シ何時迄モ因襲ニ捕ハレ現狀維持ニ甘ンスル筈ハナイ近時大ニ革進ノ氣運ニ向  
 ヒツツアルハ疑フヘクモナイカ只夫カ英國流ノ秩序的漸進的テ一足飛ヒノ離レ業ノ出來ナイ國  
 民性テアル爲ニコノ博覽會ニ於テハ華々シイ色彩カ見ラレナカツタノテアル蓋シ又夫カ英國ト  
 シテノ本領テモアラウ

#### 奧太利國ノ出品

世界大戰終結シテ戰敗國中最モ損害ノ多カツタ奧太利ハコノ文化的世界大戰ニ再ヒ參加シテ捲  
 土重來ノ奮闘振ハ特筆大書スヘキ價值カアル或ハ見様ニヨツテハ殊勳第一位テアツタカモシレ  
 ヌ奧太利ノ工藝ハ十九世紀初頃迄ハ舊套ヲ脱セス甚タ不振ノ狀態テアツタカ一八六二年ノ倫敦  
 博覽會ニ刺戟サレテ佛國ト同シ様ニ大ニ覺醒シ英國ニ倣フテ美術工藝博物館ノ建設通俗講演會  
 美術工藝ニ關スル圖書出版等ニ依リ國民趣味ノ向上ト工藝獎勵ノ聲ヲ大ニシ各地ニ博物館ノ創  
 設ト附屬工藝學校ノ設立或ハ展覽會開設等ノ運動トナリ夫等ノ努力ノ結果ハ一八六七年ノ巴里  
 博覽會ニ表ハレ更ニ一八七三年ノウイン博覽會一八七八年ノ巴里萬國博覽會ニ於テハ佛蘭西ニ  
 對抗スルニ足ルヘキ特有ノ工藝美術ヲ形成シタ其後獨逸聯邦ニ加リ政治ノ中心カ獨逸ニ移ツタ  
 爲ニ美術ノ新シキ大運動モナク從テ大ナル效果モ擧ラスシテ終ニ一九〇四年ノ聖ルイズ世界博  
 覽會ニハ大分佛蘭西ニ後レヲ取ル様ニナツタ世界大戰ノ結果一身同體ノ匈牙利トハ分離シテエ

ウクスロヴァキアニ割讓シユーゴースラブニ分割シ戰前五千餘萬歐洲第二ノ大國ハ人口六百萬  
 ノ弱小國トナリ東歐第一ノ華麗ヲ極メ巴里ト其流行ノ粹ヲ競ヒタルウインノ都モ零落シ一時ハ  
 其存立ヲサヘ危ムマレタル程ノ奧太利モ其國民ノ堅實ナル思想ト剛健ナル精神トニ依テ能ク其  
 頽勢ニ忍ヒ精透ナル頭腦ト進取ノ氣象ハ更始一新積極的ニ地歩ヲ進メタルカ如シ要スルニ彼ノ  
 鋼ハ燒戻ラス彼ノ彈力ハ健全テアツタコノ博覽會ニ民族同系ノ獨逸ノ不參加ハ彼ヲシテ獨逸系  
 工藝ヲ代表シ佛國系工藝ト正ニ對陣シテ弧軍奮闘ノ感アラシメタ特ニ教育部ニ於ケル陳列展示  
 ノ成績ニ於テハ嶄然一頭地ヲ拔キ研究ニ教導ニ周到綿密革新活潑ヲ極メ堅實ナル基礎ニ立脚シ  
 テ將來ノ大成ヲ期圖スルノ狀顯著ナルヲ見ル

#### チエツクスロヴァキアノ出品

大戰後奧匈國分裂ノ結果其割讓地ノ上ニ建チシ新興國テアルコノ博覽會ニ於ケル施設列品ヲ見  
 ルニ生氣激刺トシテ奧太利ト共ニ參加列國中最モ異彩ヲ放ツテ居タ獨塊トハ其民族ヲ異ニシ大  
 戰中ニハ猛烈ニ民族的反抗ヲ表示シタケレトモ其工藝上ニ於テハ獨塊ノ系統ニ屬シ熱情的放浪  
 性所謂ボヘミヤ型ノ國民性ハ工藝ノ上ニモ現ハレテ自由放棄革新ノ氣ニ滿チ奧太利ト共ニ列國  
 中最モ光彩ヲ放チ嶄新ノ施設大ニ見ルヘキモノカアツタ佛國專門家側ノ批評モコノ兩國ヲ大ニ  
 推賞シテ居タ事實ニ依テモ其大様ヲ察スルニ足ラン

#### 伊太利國ノ出品

伊太利國ハ近代ノ再興建設ニ係リ全土統一ノ業成リテ漸ク半世紀ヲ越ユルニ過キサレモ國民進



取ノ氣象ト愛國ノ熱情ハ將來ノ發展ヲ期待スヘク殊ニ近時ノ施設ハ革新改造剛毅果斷ニ躍進シ大ニ國勢ヲ伸長シタルカ如シサレト過去ニ偉大ナル文化ヲ有シ其遺品ノ殘存セルモノ頗ル多ク從テ過去ノ文華ニ憧憬シ傳統傳説ニ捕ハレ易キ餘弊モアリテコノ博覽會ニ於ケル施設列品ノ上ニ見テモ明ニコノ兩端ヲ曝露シ嶄新更正ノ半面ニハ守株模倣ノ舊套ヲ脱セサルモノ頗ル多カツタ事ハ爭ハレス事實テアル

#### 瑞典國ノ出品

氣候已ニ嚴寒凜烈ニシテ地勢又峻峻北海ノ怒濤ニ臨ム自然ノ環境ハ豪宕素朴ノ國民性トナリテ眞摯剛健ノ工藝ヲ生ミ佛國系工藝トハ全然其趣ヲ異ニセリ之ヲ例フルニ櫻花爛熳ノ美ハナクモ雪中寒梅ヲ見ルノ感アリテ開放簡素ノ中ニ頗ル清新ノ趣アルヲ見ル

#### 西班牙希臘土耳其支那ノ諸國出品

嘗テハ歐洲ニ大名ヲ馳セ東洋迄モ手ヲ延ハシテ世界屈指ノ海外雄飛國トシテ天下ノ耳目ヲ聳動セシ西班牙ハ十八世紀以來俄然トシテ其勢力ヲ失ヒ時勢ト逆行シテ自覺反正ノ念ナク從來ノ傳統傳説ヲ信シテ因襲ヲ保守スルノ民情ハ羅馬舊教ト相俟テ國家ノ發展ヲ阻害シ今日猶敗殘退守ノ國名ニ甘ンシテ居ル又古代文華ノ發祥地トシテ又歐洲文明ノ祖國トシテ學術上ニモ技術上ニモ今日猶絶大ノ名譽ヲ有スル希臘ハ過去ニ於ケル其國家國民ノ繁榮時期頗ル短ク混亂衰頹ノ期ヲ久クシテ未タ其眠ヲ醒ササルカ如シ古例ヲ重ンシ舊式ヲ尊ヒ溫情典雅ノ民情ハ冠婚葬祭儀仗ノ禮ニノミ拘泥シテ剛健ノ精神ナク果斷ノ勇氣カナイ是等兩國ノ舊都ヲ尋ネテ具ニ其民狀ヲ視

察シ又コノ博覽會ニ於ケル施設列品ニヨリテ現代文化ノ程度ヲ推量スレハ正ニ其國勢ト正比例スルヲ見轉タ今昔ノ感ニ堪エナイノテアル其他土耳其トイヒ支那トイヒ過去ノ強大ヲ夢ミ已往ノ文華ヲ誇ルカ如キ國ハ皆其軌ヲ一ニシ因襲固陋何等新工藝ノ見ルヘキナク徒ニ古代模倣ヲ反覆スルノミニシテコノ博覽會ニハ只其國名ヲ列シタルニ過キス國際審査會議ニ於ケル各國委員モ其列品ニ對シ一瞥ヲモ與ヘナカツタ程テアツタ

#### 露西亞國其他ノ出品

革命後露西亞ノ美術工藝カ徹底的ニ其形式ヲ改メタルモムシロ當然テハアルカ新建國ノ秩序未タ整ハスシテコノ博覽會ニ於テハ僅カニ其特設館ニ革新ノ生氣峻烈ナルヲ見ルノ外新工藝ノ全範ヲ窺フニ足ルノ出品ナカリシ事ハ甚タ物足ラヌ感カアツタ其他和蘭白耳義瑞西ユーゴースラブポーランド等ノ施設列品中ニハ優秀ナル新工藝ノ見ルヘキモノ尠カラスシテ嶄新ヲ競ヒ特色ヲ發揮シ時勢ニ順應シテ現代ノ文化的使命ト共ニ經濟的發展ニモ後レサラントスル努力ト熱心トハ明ニ之ヲ認ムル事カ出來タ其他モナコルクサンブルク佛領殖民地等ノ出品アリタルモ特筆スヘキ價值ナキヲ以テ略ス

#### 日本國ノ出品

日本カコノ博覽會ニ參同シタル目的ハ一ニ國際的高等政策ノ見地ヨリ進ンテハ經濟的發展ノ爲テアル事ハ勿論ナルモコノ博覽會ニ對スル當面ノ問題トシテハコノ博覽會主趣ニ順應シテ工藝裝飾術ノ競技テアリ同時ニ夫ニ依テ日本現代生活ノ文化的內容ヲ表示セントスルニ外ナラナイ



ノテアル日本ノ美術工藝ハ日本ノ加工産物トシテ世界ニ誇リ得ルモノノ一テアル事ハ夫ニ依テ日本カ美術國テアルトイフ名譽ヲ世界ニ博シタ事實ヲ以テモ明テアル而シテコノ博覽會ハ丁度日本カ誇リトスルコノ美術工藝品ニ限ラレタル特殊ノ萬國博覽會テアル爲ニ我カ政府モ對外政策上深重ニ考慮シ時恰モ大震災ノ非常時ニ當面シ國政多事ノ際ナルニモ拘ラス之ニ參同スル事ヲ決シテ着々ト其準備ヲ進メ或ハ莫大ノ補助金ヲ以テ全國ノ工藝美術家ニ製作ヲ督勵シ或ハ全國工藝製造家ノ出品勸誘ニ勉メ或ハ又少カラサル旅費ヲ補給シテ當該專門家ニ渡航視察ヲ慫慂スル等周到ノ用意ト多大ノ努力ヲ費シ爲ニ優秀ト稱セラルル出品ヲ集メタ事ハ日本全國ヲ通シテ遺漏ナシトイフテヨイ程テアツタ歐洲各國カ東洋殊ニ支那日本ノ趣味様式ヲ現代生活中ニ取リ入レツツアル事ハ裝飾美術工藝ノ上ニ見テ最モ顯著ノ事實テアル事ハ前文已ニ述ヘタ通りテアル故ニ日本ノ施設出品カ非常ナル期待ヲ以テ迎ヘラレツツアリシ事ハ寧ロ當然テハアルカ日本工藝ニ取リテハ實ニ千載一遇ノ好機會テアリ現代日本工藝ノ眞價ヲ廣ク世界ニ紹介スルト共ニ世界ノ文化生活ニ貢獻スヘキ重大ナル使命ト抱負トヲ以テ臨ンタノテアル故ニ日本ノ美術工藝カ適當ナル施設ニヨリ實用修飾相俟テ現代ノ文化的生活ノ内容ヲ能ク展示シ得テ世界ノ稱贊ヲ博スル事カ出來レハ只ニコノ博覽會當面ノ成功ノミナラス進ンテハ歐洲ノ時好ヲ誘致シ各國ノ趣味様式ヲ指導シノ歐洲市場ニ復活スル動機トモナリ更ニ進ンテハ歐洲ノ時好ヲ誘致シ各國ノ趣味様式ヲ指導シ世界人類ノ生活ニ多大ノ影響ヲ致ストイフモ敢テ過言テハナイノテアル日本ノ過去ニ於ケル美術工藝品ハ早ク世界ノ注意ヲヒキ大ニ稱贊セラレテ居ル事ハ各國ノ博物館ヤ美術蒐集家ノ愛

藏ニ見テ知ル事カ出來ル而シテ其如何ニ鄭重ニ保存セラレ又如何ニ多數ニ收藏セラレテ居ルカヲ見テハ日本國民トシテ嬉シクモアリ又時ニ妬マシクモ感スル程テアル故ニ若シモコノ博覽會ニ於ケル日本出品カ一向ニ注意ヲヒカスシテ失敗ニ終ランカ日本現代工藝ハ全ク其聲價ヲ落シ只ニ經濟的發展ニ蹉跌スルノミナラス美術國ナル過去ノ名譽ヲモ損傷シ日本文化ノ頹廢ト呼ハレテモ返ス言葉ハナイノテアル

聞ク所ニヨレハ當初コノ博覽會ニ參同セントシタル際裝飾美術トイフ如キ奢侈贅澤品ノ博覽會ナソニ參加スル必要ナシト稱スル者アリタリトノコトナルカ當局ハ貿易振興ノ源泉ナル事ヲ主張シテ參加ノ決定ヲ見タトイフ事テアル美術ヤ工藝カ奢侈贅澤品テアルトイフ事ハ現時世界ノ文明國テハ全ク見聞セサル事テアリ日本モ夫程ノ野蠻未開ノ國テナイ事ハアマリニ明白過キルカラ恐ラクハ誤傳テアツタロウ併シ又能ク考フレハ現代日本ノ工藝品ノ多クハ奢侈贅澤品テアルトイハレテモ敢テ不思議テハナイ様ノ氣モスル夫程ニ現代生活ノ慾望ニモ又現代民衆ノ要求ニモカケ難レテアマリニ守株沈滯浮華虛飾末節ノ技巧ニノミ捕ハレ過キテハ居ルマイカ古典模倣精緻絢爛無意味ノ細工ニノミ陥リ過キテハ居ルマイカ金銀珠玉綺羅錦繡資材ノ珍貴ヲノミ重シシ過キテハ居ルマイカ古典不可ナルニ非ス技巧ノ練達勿論大切テアルカ精密ナル技巧必スシモ美ノ本領テハナク貴重ノ材料必スシモ美ノ本體テハアルマイ神道ノ建築ヤ數奇屋造リノ清楚高雅ナル茶道ノ調度作法ノ淡枯素朴ナル夫等ハ實ニ日本民族特有ノ趣味好尚ニシテ實ニ洗煉サレタル文化ノ結晶テアリ淨化サレタル感情ノ流露テアル簡素單純ノ形式ニ豊富ノ内容ヲ盛ルハ



藝術ノ眞諦トシテ千古不易ノ格言テアリ而シテ世界工藝ノ美的觀念カ今正ニ之ニ接近セントシ  
 ツツアルノ時我カ現代工藝ハ大ニ自覺シ大ニ反省スヘキテハアルマイカ顧ミテコノ博覽會ニ於  
 ケル我カ施設列品ハ果シテ現代世界ノ文化生活ニ幾何ノ影響ヲ與ヘタテアロウカ美術國ナル過  
 去ノ名譽ノ折紙ニ裏書シテ更ニ面目ヲ新ニシタテアロウカ國際審査實際ノ局ニ當リテハ國家民  
 族ヲ離レテ眞ニ公平無私ニ審判スヘキテアルハ申迄モナイカ國家的立場ヲ背景トシテ名譽ノ爭  
 奪戰ハ外交的手腕ヲ要スルモ自然ノ勢ニシテ又夫カ國家ヲ代表シテノ效績トモ見ラルル立場ニ  
 アル爲ニ各國共ニ優秀ノ擬賞ヲ獲得スルニ強ムルモ當然テアルコノ博覽會ハ從來普通一般ノモ  
 ノト異リ其種類ヲ限ラレタル美術工藝品デアリ一ニ理智ヲ以テノミ論斷考査スヘカラスシテ感  
 覺情趣ノ境地ヨリモ判定スヘキ性質ノモノデアツタ爲ニ民族習慣ヲ異ニシ趣味好尚ノ同シカラ  
 サル各國委員カ國際審査場裡ニ於テ判決査定ノ一致點ヲ見出ス事ハ頗ル困難デアリ殊ニコノ博  
 覽會ノ主旨トスル現代の傾向ヲ標榜スル美的概念ノ上ニハ各國夫々ノ主張モアリテ擬賞爭奪ノ  
 論議激烈ナリシ事モ自然ノ數テアツタカ日本列品ヲ總括シテ日本工藝ノ技巧ニ優秀デアツタ事  
 ハ列國委員ノ等シク認容セシ所ニシテシハシハ驚嘆ノ聲ヲ聞イタ程デアツタカ之ト同時ニ美ノ  
 内容表現ト資材用途ノ本質ニ於テハ現代ノ審美的慾望ニモ添ハス現代ノ科學的物質的要求ニモ  
 遠サカリテ甚シク因襲固陋ニ墮シ嶄新ノ生氣ナキヲムシロ怪シミタルカ如ク甚シキハ一九〇〇  
 年ノ巴里博或ハ一八七三年ノウイン博覽會ノ出品トモ同様大差ナシト迄誹謗スルモノモアツタ  
 由來日本ノ工藝ハ緻密精巧ノ技ヲ以テ海外ニ其名聲ヲ博シタルカ時恰モ歐洲各國ノ寫實主義全

盛ノ時代ニ當リ華美絢爛ノ美的要求ニ能ク適合シタルト又各國ノ殖民政策熱中時代ニ於ケル異  
 國情趣ノ慾望ニ迎ヘラレテ大ニ珍重サレタルカ如シ即チ日本工藝ハ得意ノ技巧ニノミ盲進シテ  
 時代ノ推移ヲ達觀スルノ明ヲ缺キ美的觀念ノ變遷ヲ顧ミルノ暇カナカツタノデアアル殊ニ世界大  
 戰後ノ思想ヤ感情カ大ニ變化シ趣味好尚ノ上ニモ格別ノ差異ヲ來シタル今日ニ於テ猶且ツ五十  
 年前ト同シ筆法ヲ以テ臨ンテハ陳腐固陋トイハレテモ仕方ハアルマイ印刷術ハ發達シテ日本ノ  
 古美術ニ關スル圖書出版モ頗ル豊富テアルカラ正倉院寫シヤ天平藤原マカイノ美術工藝ニハ最  
 早興味ヲ持タナイノデアアル又コノ博覽會ノ主趣タル現代の傾向及模寫模倣ノ排斥トイフ事ハ徹  
 底的ニ主張サレテ審査標準ヲ爲シタ之ヲ他國ノ例ニ依レハ一部分ニ劍卯文様ヲ用ヒテ裝飾セル  
 器物ノ如キハ他ノ全體カ相當新様ト見ルヘキモノデアツテモ直ニ之ヲ舊式模倣トシテ擬賞ノ數  
 ニ上ラナカツタ是劍卯ナル文様ハ希臘羅馬以來慣用サレタルモノニシテ假令夫カ僅カニ一部分  
 ニ應用サレタルモノニシテモ現代現傾向ニ反スルモノトシテ排斥サレタノデアアル又擬賞ニ就テ  
 ハ作品本位ニ見テ作家工匠ノ地位名聲商店ノ商業上ノ勢力ヲ問ハストイフ審査方針モ嚴格ニ遂  
 行サレタ即チ瑞西ノ世界的有名ナル時計會社ノ出品モ裝飾ノ嶄新ヲ缺クトイフ點ニ於テ香シカ  
 ラス英國ノ世界的定評アル銀器會社ノ食器類モ裝飾ノ考慮ヲ具備セサル理由ヲ以テ落選セルア  
 リ世界的名聲アル日本特産ノ御木本眞珠ノ如キモ其形式ヲ根本的ニ改造シ能ハサル關係上嶄新  
 ノ工作ヲ施シ難キモノトシテ遂ニ之ヲ審査外ニ置カレタルハ遺憾ナリキ其他日本ニ於テ大名ア  
 ル工藝作家或ハ歴史アル名門舊家或ハ著名ナル製造商社ノ出品ニモ劣等ノ擬賞アリ落選アリ除



外アリテ日本豫備審査ノ擬賞原案ヲ認ラレナカツタモノハ多數アツタカ同時ニ又原案以上ニ優秀ノ賞位ヲカチ得タモノモ尠クナイ之ヲ擬賞成績ノ上ニ見テ二三ノ例ヲ舉ケレハ金工部ニ於ケル黒川義勝氏ノ無地打出シ壺、渡邊萬里氏ノ無地桔梗形花生、陶磁器ニ於ケル井本米泉氏ノ鐵釉花瓶、井上房太郎氏ノ傘立、漆工部ニ於ケル佐々木德齋氏ノ割竹卷簾入、染織部ニ於ケル龍村平藏氏ノカーテン、湯淺專太郎氏ノ窓掛地、山鹿清華氏ノ壁掛其他ハ日本擬賞ノ原案トハ大ナル相違ヲ以テ優越ノ地位ヲ占メ之ニ反シ齋藤照一郎氏ノ象牙大鷲、錦光山宗兵衛氏ノ飾鉢、藪明山氏ノ花瓶、西村總左衛門氏ノ刺繡屏風其他原案ノ地位ヨリ落下シタルモノ尠カラステ著シキ齟齬カアツタ是等ハ全ク審査方針ノ相違ヨリ生シタル番狂セト見ルヘキモ又作品本位ニ見テ現代的美的觀念ノ差ヨリ來ル當然ノ結果トモイハネハナラヌ

以上ハ我カ出品カ國際審査會議ニ於テ世界的判決ニ基ク擬賞成績ノ實狀ニ就キ大要ヲ記述シタノテアルカ之ヲ以テモ工藝ノ現代の傾向カ如何ニ簡素單純ノ趣味ニ移リツツアルカヲ知ルニ足ルヘク徒ニ纖巧緻密華美絢爛ノ如何ニ時好ニ遷レタルカヲ察スルニ足ラン之ヲ要スルニ優秀ノ賞位ヲカチ得サリシ我カ出品ノ大部分ハ技巧ニノミ重キヲ置キテ美ノ表現内容ノ現代的要求ニ全然無頓着ナリシ不用意ヨリ招キタル失敗ト見ルヘキモ又我カ出品カ殆ント一人一品ニ限ラレタル爲ニ作家ノ十分ナル技術ヲ審判シ得サル不利益モ與ツテ大ナル因果ヲ爲シ列國委員モ判決ニ當惑スルト共ニ又同情スルモノモ尠クナカツタノテアル更ニ又經費ノ不足ヲ理由トシテ我カ出品ノ陳列展示ノ方法ニ十分ノ施設ヲ許ササリシ爲ニ工藝本質ノ實用的使命ト裝飾的價值ヲ能

ク表示シ能ハスコノ博覽會ハ特ニコノ陳列展示ノ方法ニ就キ詳細ノ注意ヲ以テ臨ミタル實際テアツタ爲ニ我カ出品ノ多クハ擬賞上尠カラサル不利益ノ場所ニ置カレタトイフテモヨイ更ニ又我カ出品ハ內國用ノモノ多ク毫モ外國ノ需要ヲ考慮セサリシ如ク多數ノ國際審査委員ニ日本特殊ノ實際的用途及裝飾的價值ヲ十分ニ了解セシムル事ハ頗ル困難テアリ隨テ列國委員ノ興味ヲヒキ得サリシ事モ尠カラステ假令其製作ハ巧妙ナルモ用途ノ點ヨリ擬賞上不利益ノ立場ニアツタ事ハ爭ハレナイ將來ノ博覽會ニ出品スル場合一層ノ考慮ト用意ヲ盡スヘキテアルト思フ我國出品ニ對スル所感大要斯ノ如シ而シテ吾人ノ最モ遺憾ニ堪ヘサルハ萬國博覽會ニ對スル我カ官民ハ其參加當初ニ於テハ頗ル熱誠ナルモ兎角才氣騷キニ終リ之ニ依リテ得タル經驗ヲ將來ニ及ホスノ考慮意外ニ尠クシテ依然トシテ吳下ノ阿蒙タルノ憾ナキニ非ルカ宜シク其結果ヲ願ミテ自重シ反省シ將來ノ對外政策上ニモ又產業經營ノ上ニモ利用シ社會ノ進運ト共ニ世界ノ文化的競爭又國家經濟ノ發展上ニモ萬國博覽會參加ノ意義ヲ完フセン事ヲ切望スルノテアル

## 七 日本出品各部類主查概評

### 第一部 第一類 建築

(一) 類委員會ノ組織

類 長(佛 國)  
次 長(同 )

エンマタエール、ポントルモリ氏  
オーグスト、ペレール氏